山梨県韮崎市

KA MI YO KO YA SI TE

上横屋遺跡

店舗建設に伴なう埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

韮崎市教育委員会

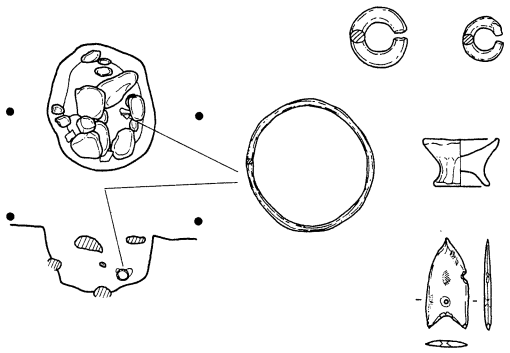
韮崎市遺跡調査会

山梨県韮崎市

KA MI YO KO YA SI TE

上横屋遺跡

店舗建設に伴なう埋蔵文化財発掘調査報告書



1999

韮崎市教育委員会

韮崎市遺跡調査会

序　文

韮崎市を貫流する塩川の右岸は、古くから「藤井平」と呼ばれ、肥沃で歴史のある土地柄となっています。この「藤井平」に広がる宮ノ前遺跡、後田堂ノ前遺跡、三宮地遺跡や堂ノ前遺跡から出土した数多くの埋蔵文化財を調査した結果、「藤井平」という肥沃な土地に昔から多くの人々が生活していたことが明らかになってきました。

今回ここに報告する「上横屋遺跡」は韮崎市藤井町北下条字上横屋地内に株式会社しまむら韮崎支店の出店に伴う事前調査の結果判明した遺跡であります。

上横屋遺跡からは弥生時代後期、古墳時代後期と奈良・平安時代の人々の住まいや生活道具が数多く発見されました。その中には韮崎市では初の耳環や青銅製腕輪などを挙げることができますが、これは山梨県内でも発見例は非常に少なく、「藤井平」の肥沃な土地を背景にした人々の力強さを感じさせられます。また、人々の住んでいた竪穴住居も数多く発見され、それらは似た作りではあるものの、それぞれ作り方に個性があることがわかってきました。その他にも本文の中に掲載した様々な資料が発見されました。

このように古くから豊かな歴史のあるこの地域で開発の前に発掘調査が行われたことは実に意義深いことであり、貴重な発見の多かった「上横屋遺跡」の報告書を刊行できたことは喜ばしいことであります。更に、今回の調査により本市の歴史を再認識する機会となれば、望外の喜びであります。

最後になりましたが、遺跡発掘調査並びに報告書作成に関係して、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関および関係者の皆様方に深く感謝申し上げる次第であります。

平成11年３月31日

韮崎市遺跡調査会
会長　　小　野　修　一

韮崎市教育委員会
教育長　　輿　石　　薫

例　言

1　本書は、山梨県韮崎市藤井町北下条506番地外に所在した上横屋遺跡の発掘調査報告書である。
2　発掘調査は、株式会社しまむらの店舗建設に伴いおこなった。
3　発掘調査は、株式会社しまむらから委託を受け韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。
4　本書の執筆・編集は、秋山圭子・閏間俊明でおこなった。文責はⅠ章を閏間、Ⅱ章を秋山である。Ⅲ章及びまとめは秋山と閏間で検討しまとめたものである。
5　整理作業及び報告書作成にかかわる業務は韮崎市遺跡調査会が実施した。調査担当・調査員以外の整理業務参加者は、阿部由美子・石原ひろみ・岩下雅美・上野理江・小野初美・清水由美子・深沢真知子である。
6　写真測量は株式会社フジテクノに委託しておこなった。
7　発掘調査及び本書作成に際しては、以下の方々から貴重なご教示・ご指導を得た。ご芳名を記して厚く感謝申し上げる次第である。及川良彦（東京都埋蔵文化財センター）、小池岳志（茅野市教育委員会）、合田芳正（中央大学講師）、山口正憲（青山学院大学大学院）、内山幸子(筑波大学大学院)、渡辺淳（青山学院大学）、山路恭之助（須玉町教育委員会）、伊藤公明・渡辺康彦（大泉村教育委員会）、小野正文・森原明廣（山梨県教育委員会）、小林健二・石神孝子（山梨県埋蔵文化財センター）、北巨摩郡文化財担当者会　（順不同・敬称略）
8　発掘調査及び整理業務によって出土並びに作成された資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調査組織

1　調査主体　　韮崎市遺跡調査会
2　調査担当　　秋山圭子・閏間俊明・山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）
　　調査員　　伊藤正彦（試掘）（現甲府市教育委員会）
3　調査参加者
岡本嘉一・飯野洋美・秋山東・根岸利昭・秋山啓・小沢栄子・小沢高恵・小沢治代・小田切昭子・乙黒きくゑ・小沢千代子・小沢久江・小沢あやめ・保坂宮子・飯室マリ子・今福富子・乙黒正江・乙黒よしこ・渡辺都子・柄沢真路・阿部由美子・石原ひろみ・岩下雅美・上野理江・小野初美・清水由美子・深沢真知子・内山幸子　（順不同・敬称略）
4　事務局（韮崎市教育委員会社会教育課）
　教育長　　輿石　薫　（前任）口野道男
　課長　　山本雄次
　課長補佐　深沢義文
　係長　　藤巻明雄
　主事　　水上和樹

凡　例

1　遺構・遺物の縮尺は原則として各図毎に示す。
2　遺物実測図の番号は遺物の種類に関わらず住居毎に連番を付した。観察表及び本文中の番号は対応している。
3　遺構断面図内に斜線で示した枠は礫である。また、地山に含まれる礫も同様に示した。
4　紙数の関係で遺物出土状況のみに実測図を示した石器があるが、詳細は観察表をご参照いただきたい。
5　遺構図版の遺物接合線は同一個体を便宜的に結んだものであり、破片同士の接合関係を示したものではない。
6　遺物観察の基準は以下の通りである。
・層位　上層＝覆土上層から出土したもの
　　下層＝覆土下層から出土したもの
　　床直＝床面に接する状態で出土したもの
　　フク土＝詳細な層位が不明なもの
　　カマド周＝カマドの周辺から出土したもの
　　カマド内＝カマド内から出土したもの
・色調　農水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」を用い土色名で記した。
・器種　分類に関しては森原明廣氏の「山梨県地域における古墳時代後期の土器様相」『東国土器研究４』を参考にしたが、「坏Ａ２」の大型化したものに関しては「大型坏」とした。また、観察表以外の器種分類も、同様である。
7　住居跡の重複した部分に関しては、時期の古い順に図示した。
8　遺物実測図中の「●」は内外面黒色処理、「◑」は内面黒色処理、「◐」は外面黒色処理を示している。また、スクリーントーンは赤彩処理を示し、断面塗りつぶしは須恵器であることを示している。また図中の－・－線は指なでの下限を示している。
9　遺物出土状況図で示した遺物の縮尺は土師器・須恵器等は1/8であり、石器は１/16である。なお、紙面の関係で出土状況図に載せなかった遺物に関しては遺物番号を付し（遺物図面では＊住－＊としたが出土状況図では＊－＊とした）遺物図面との照合を図った。
10　遺構平面図及び遺物出土状況図の遺物出土位置を示す記号は基本的に「●」であるが、層位別や遺物の個体別などで記号を変えている場合がある。その具体的な内容は各図に付した。
11　法量は口径・器高・底径の順で示した。
12　本報告書作成には数多くの文献を参考にしたが紙数の関係上すべて省略させていただいた。使用させていただいた文献の著者の方々に感謝し、非礼をお詫びする次第です。

目　次

目　次

序　　文
例　　言
凡　　例
目　　次
挿図目次
表　目　次
写真図版目次
Ⅰ章　発掘調査の経緯と概要 ---------- 1
Ⅱ章　遺跡の立地と環境 ---------- 1
Ⅲ章　遺構と遺物 ---------- 5
ま　と　め ---------- 53
写　真　図　版

挿図目次

第１図　上横屋遺跡と周辺の遺跡及び地形概念図 ---- 2
第２図　調査地区位置図及び周辺遺跡の遺構配置図--- 3
第３図　上横屋遺跡遺構配置図 ---------- 4
第４図　１号竪穴住居跡 ---------- 9
第５図　５号竪穴住居跡 ---------- 10
第６図　６・９号竪穴住居跡 ---------- 11
第７図　７・８・10・11・12号竪穴住居跡 ---------- 12
第８図　７号竪穴住居跡カマド ---------- 13
第９図　８号竪穴住居跡カマド ---------- 13
第10図　12号竪穴住居跡遺物出土状況 ---------- 13
第11図　11号竪穴住居跡（カマド・遺物出土状況）----- 14
第12図　10号竪穴住居跡（カマド・遺物出土状況）----- 15
第13図　13号竪穴住居跡 ---------- 16
第14図　15号竪穴住居跡 ---------- 16
第15図　14・16・17・29号竪穴住居跡 ---------- 17
第16図　17号竪穴住居跡（カマド・遺物出土状況）----- 18
第17図　14号竪穴住居跡（カマド）---------- 19
第18図　号竪穴住居跡（カマド）---------- 19
第19図　16号竪穴住居跡（礫面及び遺物出土状況）----- 20
第20図　18号竪穴住居跡 ---------- 21
第21図　21・30号竪穴住居跡 ---------- 21
第22図　19・20・23・26号竪穴住居跡 ---------- 22
第23図　26号竪穴住居跡（遺物出土状況）---------- 23
第24図　19号竪穴住居跡（カマド）---------- 23
第25図　20号竪穴住居跡（カマド）---------- 23
第26図　23号竪穴住居跡（カマド・遺物出土状況）--- 24
第27図　22号竪穴住居跡 ---------- 25
第28図　25号竪穴住居跡 ---------- 25
第29図　27号竪穴住居跡 ---------- 26
第30図　28号竪穴住居跡 ---------- 26
第31図　１・２・３号掘立柱建物跡 ---------- 26
第32図　土坑 ---------- 27
第33図　畝状遺構 ---------- 27
第34図　溝 ---------- 28
第35図　溝状遺構 ---------- 28
第36図　１・５・６・８号竪穴住居跡出土遺物 ------- 29
第37図　７・９・10号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 30
第38図　10・11号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 31
第39図　12・13・14号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 32
第40図　14・15・16号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 33
第41図　16号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 34
第42図　17・18号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 35
第43図　18・19・20号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 36
第44図　22・23・26号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 37
第45図　25・28号竪穴住居跡出土遺物 ---------- 38
第46図　29号竪穴住居跡・土坑・包含層出土遺物 ---- 39

写真図版目次

上横屋遺跡遠景
図版１　１・５・10号竪穴住居跡
図版２　10・11・15号竪穴住居跡
図版３　19・20・23・26号竪穴住居跡　調査風景
図版４　14・16号竪穴住居跡
図版５　16・17号竪穴住居跡
図版６　14・18・22・25号竪穴住居跡
図版７　27・28号竪穴住居跡
１・２号掘立柱建物跡
C3－１・B3－１号土坑
図版８　畝状遺構・出土遺物①
図版９　出土遺物②

Ⅰ章　発掘調査の経緯と概要

１節　発掘調査の経緯

平成８年11月に株式会社しまむらより店舗建設に関して、韮崎市教育委員会に埋蔵文化財の有無確認依頼が提出された。これにより市教育委員会では、同年11月に試掘調査により埋蔵文化財の有無確認を実施し、店舗建設予定地内が埋蔵文化財を包蔵していることを確認し、上横屋遺跡とした。その結果を踏まえて、市教育委員会と会社とで協議をおこない、市教育委員会は埋蔵文化財が包蔵され店舗建設により破壊される約900㎡の範囲に関して、建設工事に先立ち、地中に静かに眠っていた遺構・遺物の記録を作成し、当地域の歴史を雄弁に伝える資料として、市教育委員会にて後世に伝えるために保管・活用することとした。

２節　発掘調査の概要

発掘調査は平成10年９月21日から平成11年１月14日までおこない、その後報告書作成のための整理作業に入り、完了したのは同年３月31日である。

調査範囲の耕作土を重機によりはがし、水田床土直下面の暗灰褐色土層から黒褐色土層の遺物包含層面で遺構の確認作業をおこなった。発掘調査、遺構測量の基準として５ｍ包含を設定し、西から東方向にＡ・Ｂ・Ｃ・・・Ｇ、北から南方向に１・２・３・・・９とグリット番号を付けた。

各遺構は10分の１、20分の１で測量及び図面作成をおこない、全体図は航空写真測量によって実施した。

調査の結果発見された遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡６軒、古墳時代後期の竪穴住居跡15軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡３軒、時期不明の竪穴住居跡３軒、古墳時代以降の掘立柱建物跡３棟及び青銅製腕輪の出土した土坑などである。遺物は各時代の道具がプラスチック箱で約40箱分出土し、復元等の整理作業により藤井平のみではなく山梨県の歴史を雄弁に語りうる資料であることが出土品によっても確認された。

Ⅱ章　遺跡の立地と環境

１節　遺跡の立地（第１図）

上横屋遺跡は山梨県韮崎市藤井町北下条字上横屋地内に所在する。

遺跡のある韮崎市は、釜無川と塩川が南北に貫流している。いずれも長い間に開析を続け、釜無川はその右岸に河岸段丘、左岸に比高差約50～70mにおよぶ七里岩（韮崎台地）を、塩川はその右岸に広大な河岸段丘をつくりだした。塩川左岸は茅ヶ岳へと続く丘陵になっており、この2河川により韮崎市の地形は4つに区切られている。そして、七里岩と塩川右岸の河岸段丘は、あいだに黒沢川をはさんで隣り合う形になっている。

遺跡はこの塩川右岸の南北約9.5kmにおよぶ広大な河岸段丘上にあり、北に八ヶ岳、東に茅ヶ岳を臨む。この段丘は藤井平とよばれる肥沃な穀倉地帯で、その豊かな地力は、古今人々がこの地を選ぶ大きな要素となっている。現在は一見平坦にみえるが、過去の塩川の激しい流路の変化によって、自然堤防状の埋没微高地が散在していることがわかっている。藤井平ではこの埋没微高地上に遺跡が点在しており、上横屋遺跡も同様、埋没微高地に立地し、標高約377mを測る。遺跡は段丘上の塩川に近い部分に位置し、約700mの距離を置いて西には黒沢川、そしてその西に七里岩が屹立する。

２節　遺跡の環境（第２図）

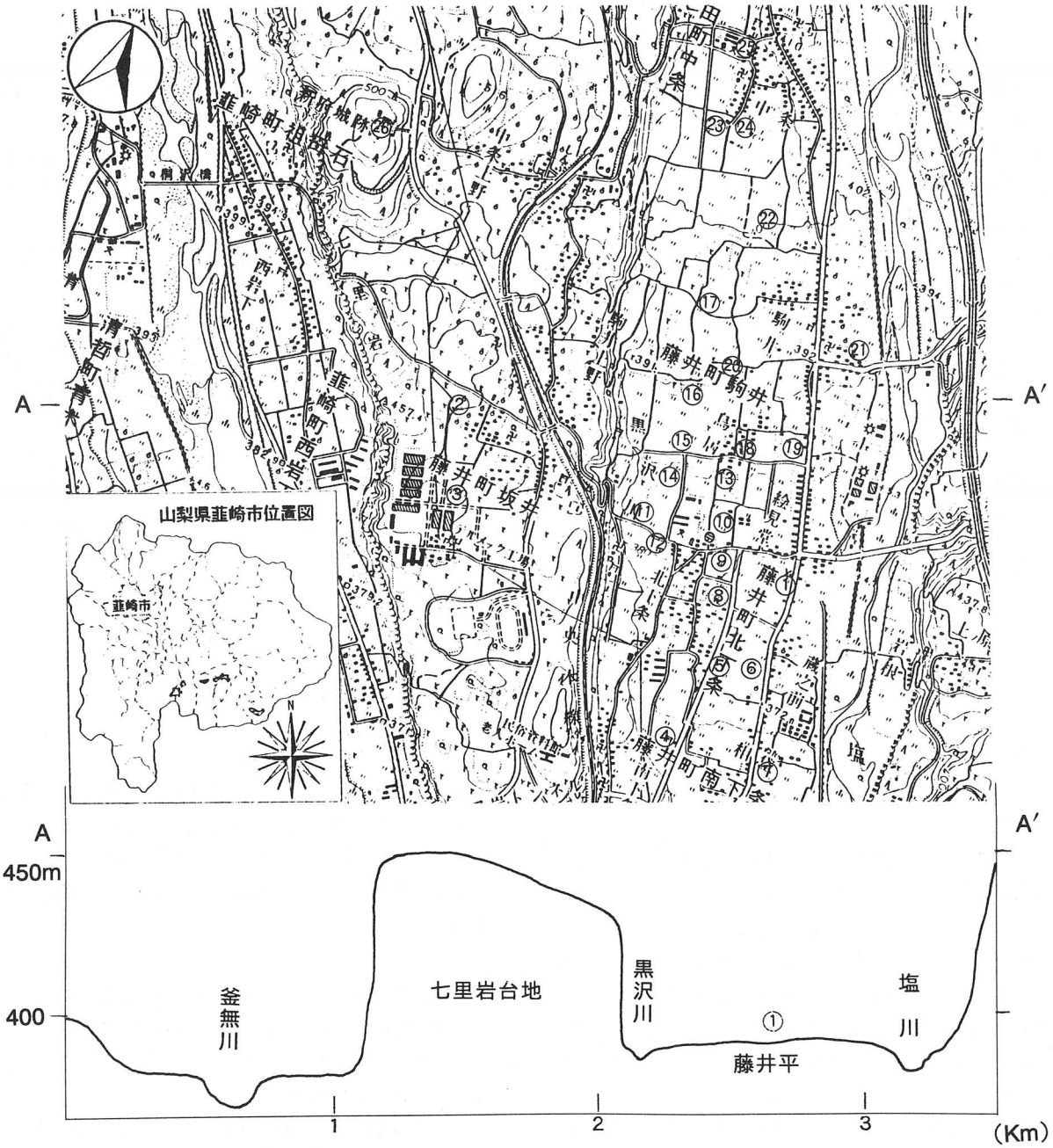
第１図のとおり、藤井平には多くの遺跡が存在する。その中でも上横屋遺跡周辺には、ほぼ同時期の遺構・遺物を出土した遺跡がいくつか存在している（第2図）。

弥生時代後期には、上横屋①・堂の前⑬・後田堂ノ前⑨・後田第2⑧遺跡、南北にやや離れて北下条・下横屋⑥、中田小学校㉕遺跡がある。

古墳時代後期には、上横屋遺跡①・坂井堂ノ前⑩・後田堂ノ前⑨・後田第2⑧遺跡がある。この時期の遺跡は、上横屋遺跡の周辺に集中する。またほぼ同時期に火雨塚古墳⑫も存在していたと思われる。

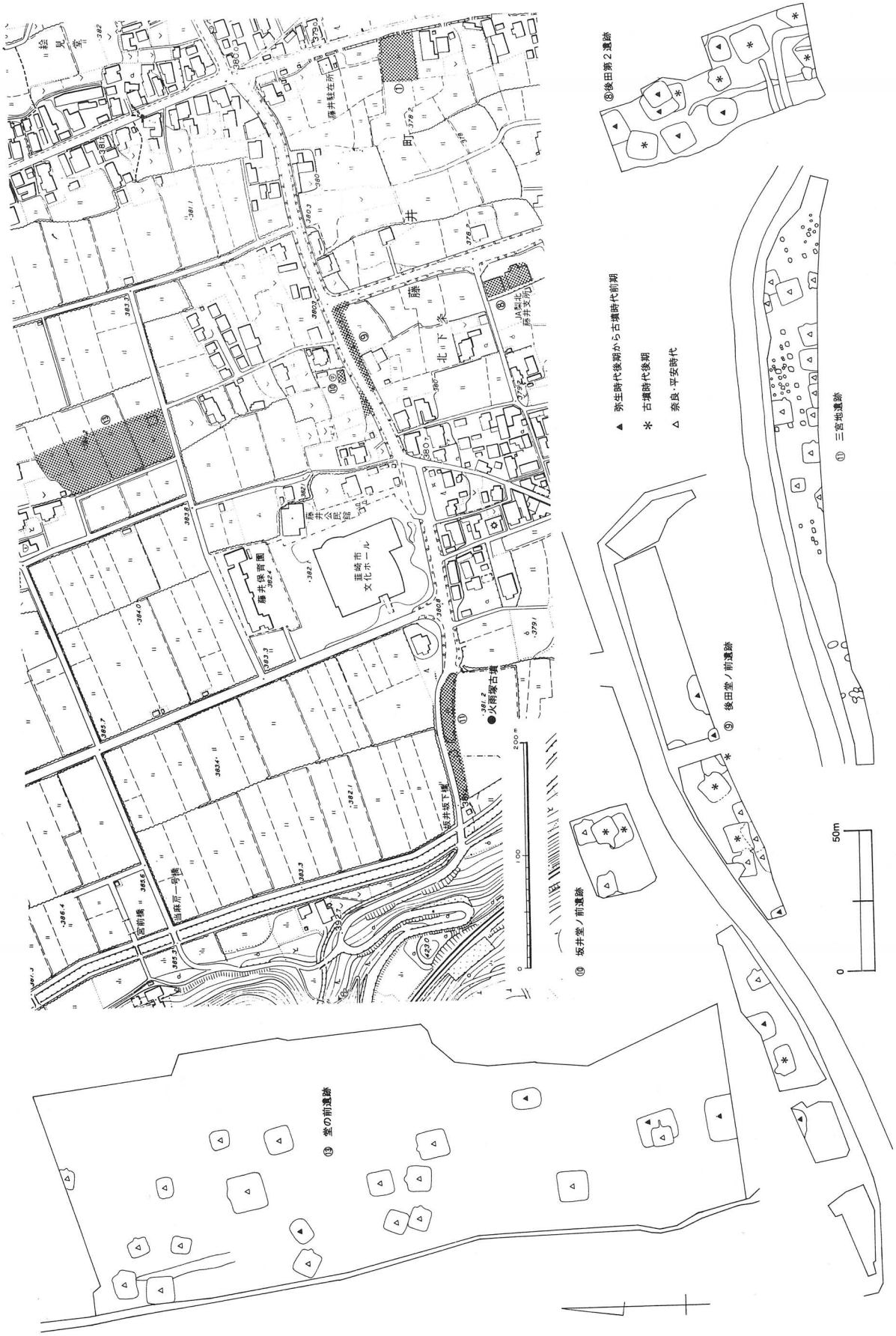
奈良・平安時代になると、まんべんなく遺跡が発見されている。上横屋遺跡周辺でも、堂の前⑬・坂井堂ノ前⑩・後田堂ノ前⑨・後田第2⑧・三宮地⑪遺跡がある。

このように上横屋遺跡が形成された時期には、常にその周辺でも生活の跡が見られることがわかる。そのなかで古墳時代後期には、上横屋遺跡周辺だけに遺跡が集中し、隣接して火雨塚古墳が存在する。これは該期の集落と古墳の空間配置を示す可能性のある、特筆すべき点であろう。

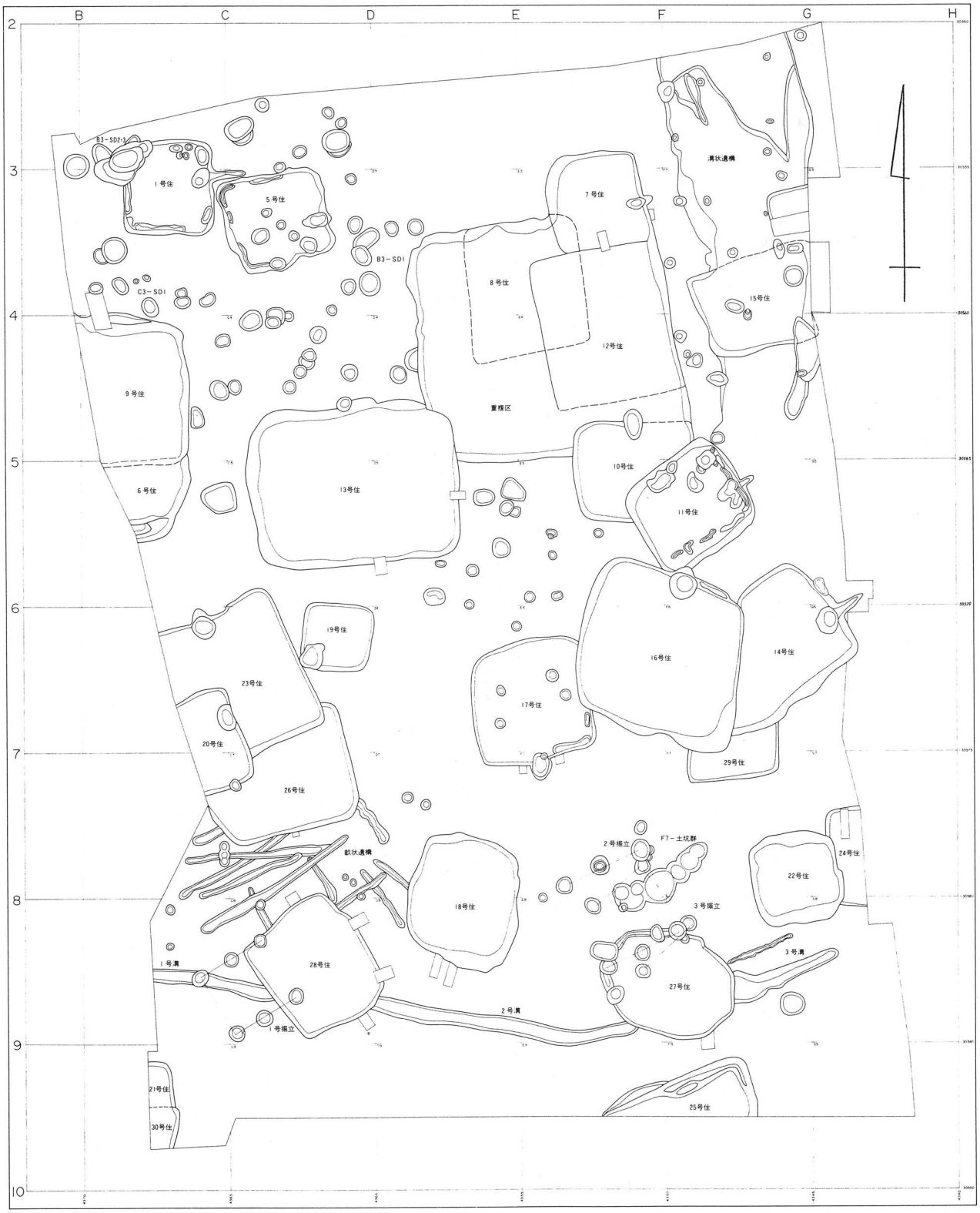


	遺　跡　名		遺　跡　名		遺　跡　名
1	上横屋遺跡	10	坂井堂ノ前遺跡	19	宮ノ前第４遺跡
2	坂井遺跡	11	三宮地遺跡	20	宮ノ前第５遺跡
3	坂井南遺跡	12	火雨塚古墳	21	駒井遺跡
4	山影遺跡	13	堂の前遺跡	22	立石遺跡
5	北下条遺跡	14	後田遺跡	23	金山遺跡
6	下横屋遺跡	15	北後田遺跡	24	前田遺跡
7	枇杷塚遺跡	16	宮ノ前遺跡	25	中田小学校遺跡
8	後田第２遺跡	17	宮ノ前第２遺跡	26	新府城跡
9	後田堂ノ前遺跡	18	宮ノ前第３遺跡		

第１図　上横屋遺跡と周辺の遺跡及び地形概念図



第２図　調査地区位置図及び周辺遺跡の遺構配置図



第３図　上横屋遺跡遺構配置図(1:200)

Ⅲ章　遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡27軒・掘立柱建物跡３棟・土坑及びピット111基・溝３条・畝状遺構・溝状遺構を確認し調査を行った。各遺構について基礎的なデータは観察表に記し、以下に各遺構毎の特徴（遺物出土状況やカマド構造など）と出土遺物について報告する。

・１号竪穴住居跡

カマドは東壁の北寄りに作られ、約1mもの煙道がある。袖石が1組残っており、カマド内からは小型の椀(1-1)などが出土している。遺物は、住居上層の壁際と、壁から約20cm離れたところで異なる大きさの青銅製の耳環が2点(1-19・20)出土している。いずれもメッキが施されていたようである。他に甑のミニチュア土器(1-14)も出土している。この住居は覆土と床直上から弥生土器が多く出土し、該期の住居が重複している可能性がある。

・５号竪穴住居跡

カマドは東壁のやや南よりに作られている。袖石は5組残っており、中央からは外側に直交して袖石が伸びる。この袖石の南部分と住居東壁の間は、住居内の覆土とは異なったやや固い土で、レベルも10cmほど高かった。カマド横に棚状に設けられた施設の可能性がある。カマド内からは坏が2点(5-2・6)出土している。

・６号竪穴住居跡

９号住居の重複を受けている。カマドは確認できず、住居形態も不明であるが、住居南側に段状の平坦部が2段みられる。遺物は、表面を面取りして直方体にした円筒土器(6-3)や坏(6-1)などが出土している。

・７号竪穴住居跡

カマドは東壁の南寄りに作られている。袖石はわずかに２・３組みられるだけで、原形は不明である。カマドおよび周辺から坏が３点（７-１・７・８）出土している。またこの住居覆土から須恵器の提瓶と思われるもの(7-9)が出土している。住居南側は12号、南西側は８号住居を重複により破壊している。

・８号竪穴住居跡

カマドは北壁に作られている。袖石を1組残すのみで、明瞭な掘りこみは見られなかった。壁は北側のみを残し、東側は７・12号住居の重複を受けている。南・西側は重複区が続いており、重複関係などは確認できなかった。遺物は下層から須恵器蓋(8-1)、床直上で赤彩高坏(8-2)、凹石(8-4)などが出土している。

・９号竪穴住居跡

カマドは北壁に作られている。カマドの半分は調査区外となる。袖石が１組だけ残り、断面には粘土・焼土・炭化物層が確認された。カマドに向かって右側の北壁には段状に平坦部がみられる。遺物は椀(9-2)、ミニチュア高坏(9-8)のほか、放射状を意識した暗文施文で、底部に静止糸切痕を残す坏(9-1)が出土している。また、覆土中の遺物が１号住居の遺物と接合している。

・10号竪穴住居跡

カマドは北壁に作られている。明瞭に粘土が残っており、約40～60cmほどの細長い大礫で石組みしたあとに粘土で固めている。住居中心部では、覆土確認面で焼土層が広がり、そのあり方は住居廃絶後のくぼ地を利用した何らかの行為を示している可能性がある。遺物はカマド内から長胴甕(10-6)、床面で土器集中(10-1)、覆土から磨製石斧(10-7)も出土している。覆土中の遺物が11号住居と16号住居上層の遺物と接合する。

・11号竪穴住居跡

カマドは東壁の南寄りに作られている。住居内の周溝を作ってから、周溝を壊さない程度の深さのかまどを作ったと思われる。炭化材が、四方から住居中心に向かって求心的に検出されており、焼失住居と思われる。遺物は床面から高坏、坏、長胴甕、球胴甕、鉢など甑以外のほぼすべての器種が出土している。その分布に大きな偏りはないが、高坏が南側に集中し、甕がかまどから離れた部分に見られるという特徴は見られる。また、磨製石鏃(11-10)が出土している。

・12号竪穴住居跡

東壁のみを検出した。北側が７号住居と重複し、西側は８号住居を重複により破壊している。カマドは確認されなかったが、床面の高さの違いなどから住居とした。8号住居との重複部分では、わずかに粘土を伴う30～40cmの礫が集中する。遺物は覆土から十字の刻みと5本の縦線を施された坏(12-1)などが出土している。また、この住居の西から鉄製紡錘車が出土している。

・13号竪穴住居跡

炉・周溝・柱穴いずれも確認されなかった。遺物は赤彩されたものが多く、壷・甕が出土している。なお、住居北の土坑からは馬の前歯が3本出土している。

・14号竪穴住居跡

竪穴内覆土下層から上層にかけて礫が散逸して出土した。また、遺構確認時に南壁に沿って礫が立石状に並んでいた。これが住居の付属施設なのか、住居廃絶後に発生したものかは不明であるが、古墳時代後期の住居跡で類例は管見では見当たらない。

カマドは良好に遺存していた。確認段階で甕の掛口が明瞭に把握でき、その直下の燃焼面から棒状礫を用いた支脚が２点(14-13・14)出土した。また、炊き出し口も確認しえた。両袖には大型の礫をそれぞれ３点づつ袖石として用いている。掛口と竪穴壁の境には大型の盤上礫を用いている。煙道の長さは80cmである。

遺物は、甑(14-6・7)が床面に接し、カマドからやや離れて出土した。坏では坏Ａ３がやや多く出土している。

・15号竪穴住居跡

カマドは東壁の北寄りに作られている。袖石がわずかに残るのみだが、断面からは粘土・焼土・炭化物層が確認された。南北が溝状遺構と重複していて、南側はわずかに壁と思われる立ちあがりが確認できた。遺物は大型坏(15-2・3)、単孔のやや小さい甑(15-7)などが出土している。

・16号竪穴住居跡

本竪穴住居跡は床面直上の炭化物層の存在から焼失住居跡である。しかし、遺構確認段階から異質な様相を呈していたことからその状況を以下に報告する。

確認段階では、第19図の第一礫面図で示したように、竪穴内に5.4m(東西)×3.5m(南北)の礫の集中を確認した。それを構成する礫は10～50cmであり熱は受けた様子はなかった。また、大きめの礫は中心部に多く、外周(竪穴の壁側)に小さめの礫がまとまっていた。第一礫面を取り除き掘り下げたところ、第19図の第二礫面とした、3.3m(東西)×2.4m(南北)礫の集中を確認した。それを構成する礫は20～50cmであり、第一礫面同様に熱を受けた様子はなかった。第一礫面と第二礫面との間に暗黒褐色の粘性やしまりの極めて強い土層が存在し、その層には骨粉が含まれていた。これらの礫は住居廃絶後の竪穴の二次的利用によるものと考えられるが、床面・カマド内の出土土師器と礫面出土土師器には型式差を認めることはできない。このようなことから、住居廃絶後の極めて短期間に竪穴が利用されたようである。

カマドは、袖石等が崩れており遺存状況としては良好とはいえないが、カマド内およびその周辺からはまとまりを持って遺物が出土した。また、本カマドの特徴として、礫を敷いた面を燃焼面としていることを挙げることができる。

遺物は、各層から出土しているが、礫面及び礫面に挟まれた層からの出土量は少ない。坏が他遺構と比較して多く出土するとともに、大型坏も出土している。弥生後期の土器が出土しているが、本遺構に伴うものではなく、本来重複する29号竪穴住居跡の覆土中に含まれていたものと考えるべきであろう。

・17号竪穴住居跡

やや浅いが柱穴と考えられる4基のピットを確認しえた。また、竪穴内中央からカマドにかけて硬化面が広がる。

カマドは南に構築されており、竪穴壁部に袖石が設置されていることから、掛口は竪穴外に存在していたことは間違いなく、竪穴外にも住居空間が広がっていたことを示すものである。カマド内からは、円筒型土器(17-9)や高坏(17-6)などが破損した状態で出土している。また、カマド正面から右側の床面に接する状態でまとまりをもって土師器が出土している。

・18号竪穴住居跡

炭化材が竪穴の中央に向かって求心的に出土しており、建築部材の一部と考えられる。

遺物は弥生時代後期の土器が中心に出土した。床面に接して大型壷の底部(18-15)が据えられた状態で出土している。この土器の底面には砂粒が大量に付着しており、土器製作時の遊離材として砂が用いられていたことを示している。また上層と下層の境界付近からコンパス文を施文した東海系の大型壷(18－13)が出土した。

・19号竪穴住居跡

竪穴住居の東側の地山は砂層であり、壁としては極めて脆弱であるが、壁押さえ等の痕跡は確認できなかった。

カマドは南西角に作られていた。掛口部と推定される部分から甕(19－3)が2個体分(胴部下半のみ)出土している。また、炊出部を明確に検出したが、灰等は確認できなかった。

遺物はカマドの掛口から出土したものの他に、床面に接して坏(19－1・2)が出土した。なお、坏では坏Cのみが出土し、その他は皆無であった。

・20号竪穴住居跡

カマドは東壁の中央やや北寄りに作られている。袖石には40cm程度のやや扁平な礫を用い、5・7層により固められている。固める際に袖石の上面に直径5から10cm程度の円礫を構築材としていた。煙道の煙出部に二次的に熱を受けた長胴甕の胴部片が出土しており、故意に設置した可能性もある。

・21号竪穴住居跡

竪穴の多くを調査区外に残しており詳細は不明である。

・22号竪穴住居跡

北西角から竪穴内中央の床面から下層にかけて20から50cm程度の礫がまとまりをもって出土した。また、長頸壷(22－3)がその礫のまとまりの中からほぼ完形の状態で出土した。これらの礫や須恵器は住居廃絶後の自然流入とは考えにくく、人為的な構造物が住居廃絶後に作られた可能性が高い。

・23号竪穴住居跡

床面に接する状態で礫、石器や土師器が出土している。礫は竪穴内南東角付近と西側で特にまとまりをもって出土した。

カマドの天井部は崩落していたが袖石などの構築物は比較的良好に残っていた。遺物では古墳後期には姿を消していた形状の支脚(台盤状土製品、23－12)や長胴甕の胴部上半が出土している。

遺物は床面に接して出土したものが多い。大型の台石4点も床面に接して出土している(23－15・16・17)。その他に坏や甕等が出土したが、器種不明(甑底部の再利用か)なもの(23－14)がカマド内から出土した。

・24号竪穴住居跡

調査区外にその多くを残しているため詳細は不明である。遺物は出土していない。

・25号竪穴住居跡

北壁中央から東には二段の平坦面があり、覆土の堆積状況から本住居の付属施設であると考えられる。また、北壁中央から西側には本住居の推定平面プランの外側に掘り込みの存在を確認したが、他遺構との重複なのか本住居の

付属施設かどうかは不明である。

東壁の床面にほぼ接する状態でやや細長い礫がまとまって出土しており、おそらく「編物石」と考えられる(52頁表)。

覆土の２層は炭化材や灰白色粘土を中心に構成されている層であるが、炭化材に接して粘土が広がっており、土屋根が焼け落ちた可能性がある。

調査範囲は狭いが遺物の出土量は多い。床面に接して坩(25－19)が出土したことが特徴的である。

・26号竪穴住居跡

南西角周辺の床面に接する状態で20から40cm程度の礫および完形の壷(26－4)が出土した。

・27号竪穴住居跡

掘り上がりの平面形態は楕円形であるが、調査時には壁は明確ではなく、床面の硬化面および周溝の広がりのみで判断したため、本来の竪穴の形態とは異なる可能性が高い。

図示し得る出土遺物はなかったが、弥生時代後期と考えられる壷の胴部片などが出土している。

・28号竪穴住居跡

住居内中央から南・西壁にかけて硬化面が認められた。

南壁際から土製紡錘車(28－6)、北壁近くの覆土から坏部が直線的に開く高坏(28－5)や小型鉢(28－3)などが出土した。また、床面に接して、口縁部から胴部上半に櫛描波状文の施文された甕(28－４)が出土している。

・29号竪穴住居跡

14・16号竪穴住居と重複し、それらより古い住居である。

遺物は床面に接して、櫛描波状文や簾状文の施文された甕(29－2)や頸部に無節Ｒ縄文の施文された壷(29－5)などが出土している。また、14・16号竪穴住居跡から出土した弥生時代の土器は本住居跡に本来所属していた可能性がある。

・30号竪穴住居跡

21号竪穴住居跡と重複関係にあるが、その多くは調査区外にあり詳細は不明である。

・重複区

7・8・10・12号住居周辺が激しい重複により、一面に覆土が広がる状況であった。そのため重複区に任意にセクションベルトを残し、発掘調査段階で確認できた住居には番号をつけた。以下に、住居番号をつけなかった部分についてグリッド毎に特徴を述べる。

・Ｄ３グリッド(８号住居跡東)　球胴甕の底部・放射状暗文の施された坏など、古墳時代後期と奈良・平安時代の遺物が見られる。また、小型の坏A2が目立つ。

・Ｄ４グリッド(８号住居跡南東)　出土する坏の中では坏Ａ３が多い。また、鉄製の紡錘車(包-28)が出土している。

・２号・３号住居

2号・3号住居跡は、調査の初期の段階で住居と認定したが、壁およびカマドが検出されなかったので、住居ではないと判断した。しかし、２号住居跡に該当するＣ２グリッドから古墳時代後期の遺物が多く出土し、3号住居跡に該当するＣ３グリッドからは長胴甕・坏Ａ３が多く出土しており、いずれも住居であった可能性が高い。

・１号掘立柱建物跡

１間×２間の掘立柱建物跡である。各柱穴に柱痕を観察でき、明瞭ではないが版築状に柱を支えた状況を確認しえた。

・２号掘立柱建物跡

１間×２間の掘立柱建物跡である。各柱穴に柱痕を観察でき、明瞭ではないが版築状に柱を支えた状況を確認しえた。なお、棟持柱を確認している。

・３号掘立柱建物跡

１間×１間の掘立柱建物跡である。

・Ｂ３グリッド　１号土坑(Ｂ３・ＳＤ１)

土坑内から青銅製の腕輪が出土している。腕輪は土坑底部の礫にはさまる形で発見された。

・Ｂ３グリッド　２・３号土坑(Ｂ３・ＳＤ２・３)

１号住居跡の西側を重複により破壊している。また、土坑北東部は１号住居跡内１号土坑の重複を受けている。土層から５・６層がある程度堆積した後に４層が堆積していることがわかる。

・Ｃ３グリッド　１号土坑(Ｃ３・ＳＤ１)

土坑の上面で、大型坏(C3SD1-3)と椀(C3SD1-1)が入れ子の状態で出土した。また脇から坏A3(C3SD1-2)の破片が出土している。入れ子状の遺物は、礫のすぐ脇で出土しており、出土状況から、人為的に入れ子状にして土坑に埋設されたものとおもわれる。

・Ｆ７グリッド　土坑群(Ｆ７・ＳＤ)

西端の土坑から大型の壷(F7SD)の破片が伏せられたように出土している。この壷は焼成後の穿孔の痕があり、土坑群の中で唯一の遺物であった。また、土坑群東端の土坑からは、底部辺りから一面に、炭化物が約5cmほどの厚さで出土した。なお、壷の破片は、18-13に極めて類似している。

・畝状遺構

東西方向のものを７条、南北方向のものを５条確認した。確認面は他遺構と同じ面であり、また同一面では同様な遺構をＦ８グリッド内で１条確認した以外は確認し得なかった。

・１・２・３号溝

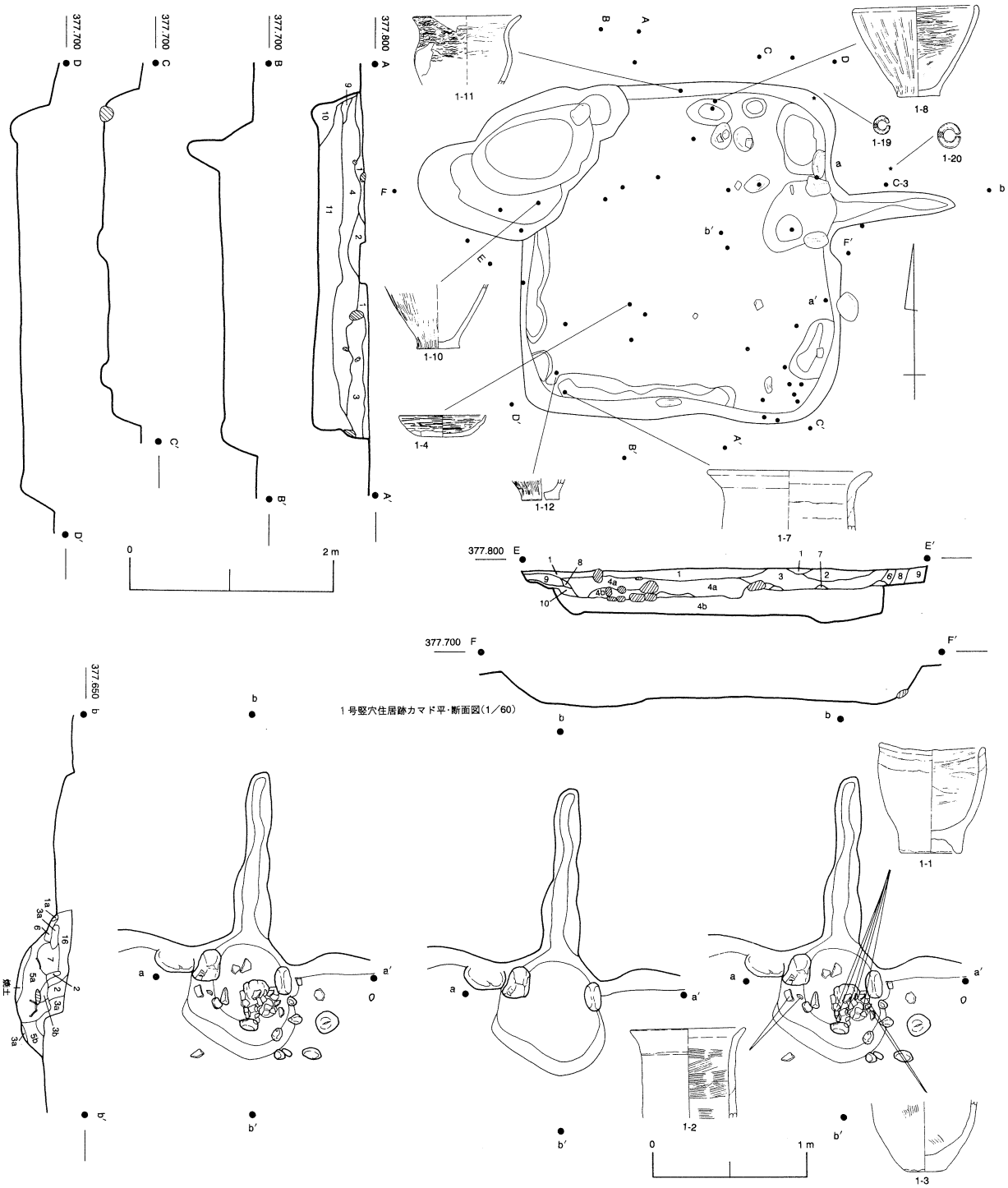
東西方向に走る溝である。１号溝と２号溝の間は約２ｍ空間が存在していた。２号溝と３号溝の重複関係などは確認できなかった。しかし、これらの溝は規模や覆土などから一つの遺構と捉えることができる。

・溝状遺構

F2・F3グリッド周辺には、覆土が約4～5mの幅で南北に堆積していた。溝とするには遺構内の底面に規格性がなく、幅も立ち上がりも一定ではない。そこで、この覆土の帯を溝状遺構とした。断面観察から、遺構は自然堆積によって埋まっていったことがわかる。

遺構観察表

遺構名	位置	主軸方位	規模 東西m×南北m	平面形態	重複関係	カマド位置	時期	備考
1号竪穴住居跡	B2・B3	N-82°-E	2.8×3.1	方形		東カマド・北寄り	古墳時代後期	耳環出土
5号竪穴住居跡	C2・C3	N-76°-E	3.7×3.0	方形		東カマド・南寄り	平安時代	
6号竪穴住居跡	B4・B5	－	－×－	方形	6住→9住	－	古墳時代後期	
7号竪穴住居跡	E3			方形	8住→12住→7住	東カマド・南寄り	平安時代	
8号竪穴住居跡	D3・E3	N-11°-W		方形	8住→12住→7住	北カマド・東寄り	古墳時代後期	
9号竪穴住居跡	B4	N-15°-W	－×5.0	方形	6住→9住	北カマド・中央	古墳時代後期	
10号竪穴住居跡	E4・E5・F4・F5	N-5°-W	4.1×3.5	方形	29住→14・17住→16住→10住→11住	北カマド・中央	平安時代	
11号竪穴住居跡	E5・F5	N-54°-E	3.8×3.6	方形	29住→14・17住→16住→10住→11住	東カマド・南寄り	古墳時代後期	
12号竪穴住居跡	E3・E4			方形	8住→12住→7住	－	奈良時代	
13号竪穴住居跡	C4・C5・D4・D5		7.3×5.5	方形		－	弥生時代後期	
14号竪穴住居跡	F5・G5・F6・G6	N-51°-E	－×4.2	方形	29住→14・17住→16住→10住→11住	東カマド・中央	古墳時代後期	壁際に立石状の配石あり
15号竪穴住居跡	F3・F4	N-67°-E	4.2×3.1	方形		東カマド・北寄り	古墳時代後期	
16号竪穴住居跡	E5・F5・E6・F6	N-25°-E	5.6×5.5	方形	29住→14・17住→16住→10住→11住	北カマド・中央	古墳時代後期	礫敷面２面あり
17号竪穴住居跡	D6・E6	N-165°-E	4.1×4.1	方形	29住→14・17住→16住→10住→11住	南カマド・中央	古墳時代後期	
18号竪穴住居跡	D7・D8	N-22°-E	3.8×4.3	方形		－	弥生時代後期	
19号竪穴住居跡	C6	N-85°-W	2.4×2.4	方形	26住→19・20住→23住	南西カマド・南西隅	古墳時代後期	
20号竪穴住居跡	B6・B7	N-70°-E	－×3.5	方形	26住→19・20住→23住	東カマド・北寄り	古墳時代後期	
21号竪穴住居跡	B9	－	－×－	方形	30住と重複	－	時期不明	
22号竪穴住居跡	F7・F8・G7・G8		3.0×3.1	方形	24住→22住	－	古墳時代後期	住居内に配石あり
23号竪穴住居跡	B6・C6	N-26°-W	－×4.9	方形	26住→19・20住→23住	北カマド・中央	古墳時代後期	住居内に配石あり
24号竪穴住居跡	G7	－	－×3.5	方形	24住→22住	－	古墳時代後期以前	
25号竪穴住居跡	E9・F9	－	5.3×－	方形		－	古墳時代後期	土葺屋根か？
26号竪穴住居跡	B6・B7・C6・C7	N-77°-E	5.0×4.1	方形	26住→19・20住→23住	－	弥生時代後期	
27号竪穴住居跡	E8・F8	N-56°-W	4.7×3.7	方形	27住→３掘→２掘	－	弥生時代後期	
28号竪穴住居跡	C8	N-32°-W	3.7×4.4	方形	28住→１掘	－	弥生時代後期	
29号竪穴住居跡	F6・F7	－	3.2×－	方形	29住→14・17住→16住→10住→11住	－	弥生時代後期	
30号竪穴住居跡	B9	－	－×－	方形	21住と重複	－	時期不明	



1号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／60)

1号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)

カマド土層

1a	明黒褐色土	白砂を含む
1b	〃	砂、焼土ごくわずか
2	〃	白砂、炭化物含む
3a	粘土、明黄白色(焼土含む)	
3b	粘土質 〃	粘土多く含む
4	明黒褐色土	白砂多く含む
5a	〃	粘土、焼土、炭化物多く含む
5b	〃	5aより炭化物多い
6	暗褐色土	白砂、炭化物わずかに含む
7	〃	〃 〃 、焼土含む

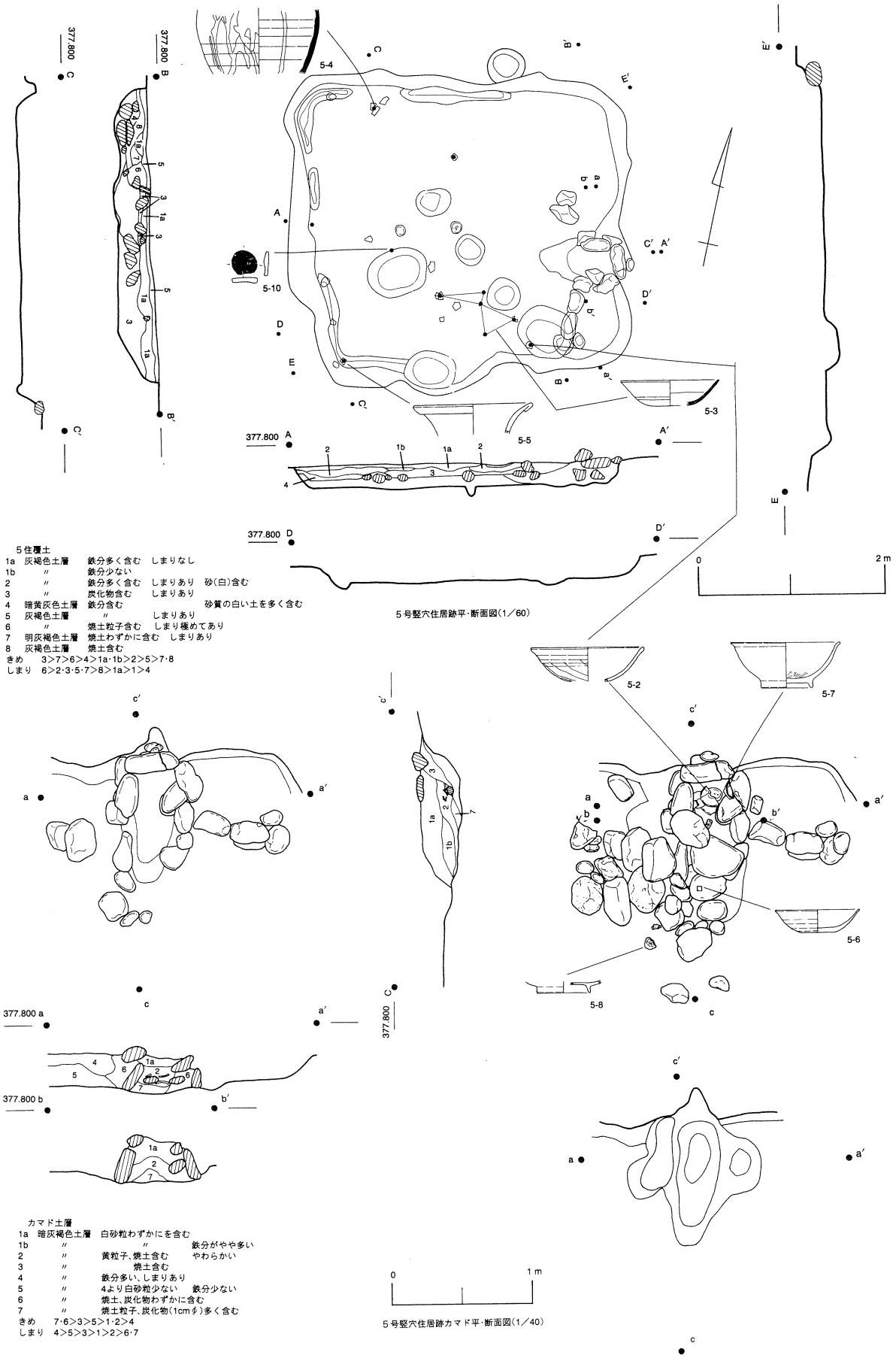
きめ　2>6.1>5>4>3.3b>7
しまり　3.6.7>3b>4>5a·5b>1>2

1住覆土

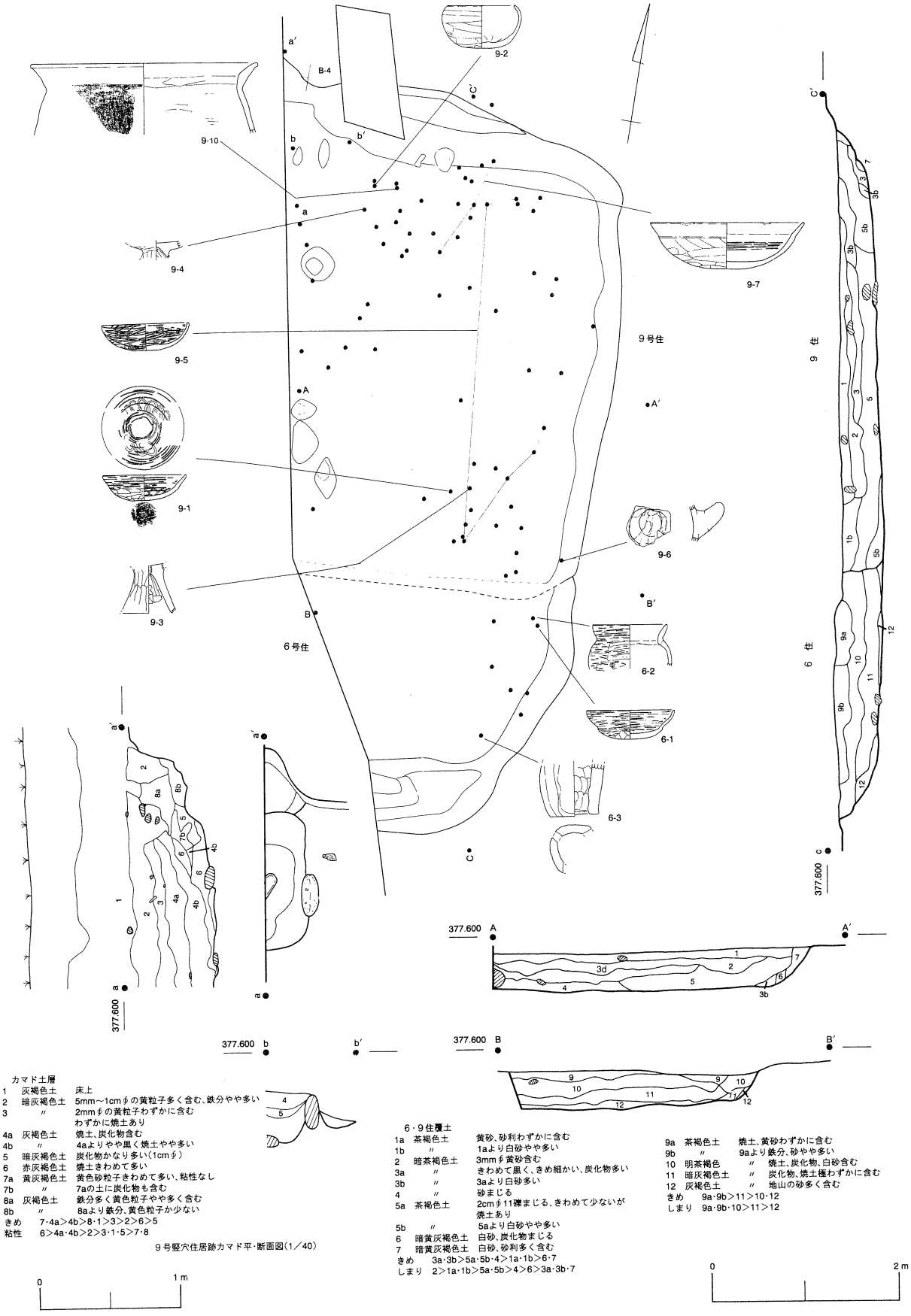
1	暗褐色土	白砂粒多く含む
2	〃	〃 小礫多い(30 mφ)
3	〃	焼土微粒子·砂粒を多く含む
4a	暗灰褐色土	炭化物きわめて多く含む、砂粒わずか
4b	〃	砂粒わずか、炭化物含む
5	灰褐色土	焼土ごくわずかに含む
6	暗褐色土	焼土、砂粒多い
7	明黄灰色土	粘土質多い
8	暗褐色土	炭化物多い、焼土わずか
9	明灰色土	砂粒多い
10	黒褐色土	(砂層)白·地山類似層
11	黒褐色土	砂粒わずかに含む

きめ　5>4a>4b>7>6>3>9>8>2>1
しまり　1>3>7>5>6>4b>2>8>4>9·10

第4図　1号竪穴住居跡平·断面図



第５図　５号竪穴住居跡平・断面図



カマド土層

1	灰褐色土	床土
2	暗灰褐色土	5mm～1cmφの黄粒子多く含む、鉄分やや多い
3	〃	2mmφの黄粒子わずかに含む わずかに焼土あり
4a	灰褐色土	焼土、炭化物含む
4b	〃	4aよりやや黒く焼土やや多い
5	暗灰褐色土	炭化物かなり多い(1cmφ)
6	赤灰褐色土	焼土きわめて多い
7a	黄灰褐色土	黄色砂粒子きわめて多い、粘性なし
7b	〃	7aの土に炭化物も含む
8a	灰褐色土	鉄分多く黄色粒子やや多く含む
8b	〃	8aより鉄分、黄色粒子か少ない

きめ　7·4a＞4b＞8·1＞3＞2＞6＞5
粘性　6＞4a·4b＞2＞3·1·5＞7·8

9号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)

6・9住覆土

1a	茶褐色土	黄砂、砂利わずかに含む
1b	〃	1aより白砂やや多い
2	暗茶褐色土	3mmφ黄砂含む
3a	〃	きわめて黒く、きめ細かい、炭化物多い
3b	〃	3aより白砂多い
4	〃	砂まじる
5a	茶褐色土	2cmφ11礫まじる、きわめて少ないが焼土あり
5b	〃	5aより白砂やや多い
6	暗黄灰褐色土	白砂、炭化物まじる
7	暗黄灰褐色土	白砂、砂利多く含む

きめ　3a·3b＞5a·5b·4＞1a·1b＞6·7
しまり　2＞1a·1b＞5a·5b＞4＞6＞3a·3b·7

9a	茶褐色土	焼土、黄砂わずかに含む
9b	〃	9aより鉄分、砂やや多い
10	明茶褐色	〃 焼土、炭化物、白砂含む
11	暗灰褐色土	〃 炭化物、焼土極わずかに含む
12	灰褐色土	〃 地山の砂多く含む

きめ　9a·9b＞11＞10·12
しまり　9a·9b·10＞11＞12

第６図　６・９号竪穴住居跡平・断面図(1／60)

11住覆土

1a　暗灰褐色土　砂・鉄分を多く含む
1b　暗灰褐色土　2aに類似するが、砂・鉄分を多く含む
2　暗灰褐色土　粘土・焼土・炭化物を多く含む
3　暗灰褐色土　白砂を極めて多く含む
4a　明灰褐色土　炭化物を多く含む、地山の砂が混じる
4b　明灰褐色土　炭化物・砂を多く含む、地山の砂が混じる
5　暗灰褐色土　炭化物多く、焼土わずかに含む

12住覆土

1a　明灰褐色土　焼土・白砂・鉄分を含む
1b　明灰褐色土　1aに類似するが、鉄分少ない
2a　暗灰褐色土　焼土・炭化物やや多い
2b　暗灰褐色土　2aに類似するが、砂・鉄分少ない
3　暗灰褐色土　地山の砂を多く含む
4a　黒灰色土　炭化物極めて多い
4b　黒灰色土　4aに類似するが、鉄分少なく黒い
5a　黄灰色土　地山の砂を多く含む
5b　黄灰色土　炭化物微量含む
6　黒褐色土　炭化物・焼土微量含む
7　黒褐色土　6に類似するが、色調やや黒い
8　黒褐色土　炭化物・砂をやや多く含む
9　暗灰褐色土　炭化物やや多く含む
10a　明灰褐色土　白色砂を多く含む
10b　明灰褐色土　10aに類似するが、鉄分が多い
11　暗灰褐色土　焼土を少なく含む、しまり強い
12　暗灰褐色土　黄色砂・焼土・鉄分を含む
13　明黄灰色土　白色砂を含む
14　暗灰褐色土　焼土・小レキを微量含む
15　暗灰褐色土　12層に類似するが鉄分少ない
16　暗灰褐色土　白色砂を微量含む

重複区

1　暗灰褐色土　黄・白砂・鉄分を含む
2　明灰褐色土　地山の白砂多く含む
3a　暗灰褐色土　白砂を含む
3b　暗灰褐色土　3aよりも白砂を多く含む
4a　黒灰色土　白砂を含む
4B　黒灰色土　4aよりも白砂を含む
5　暗灰褐色土　白砂・レキを含む
6　明黒褐色土　砂・焼土微量に含む
7a　黒褐色土　焼土を少なく含む
7b　黒褐色土　7aよりも白砂やや多い
8　黒褐色土　焼土・炭化物・砂を含む
9　黒褐色土　焼土・炭化物微量含む
10　明黄灰褐色土　地山の白砂多く含む
11　暗灰褐色土　レキを多く含む
12　暗灰褐色土　砂質
13　黒灰色土　炭化物・レキを多く含む
14　暗灰褐色土　12より色調やや明るい
15　暗灰褐色土　砂質

7住覆土

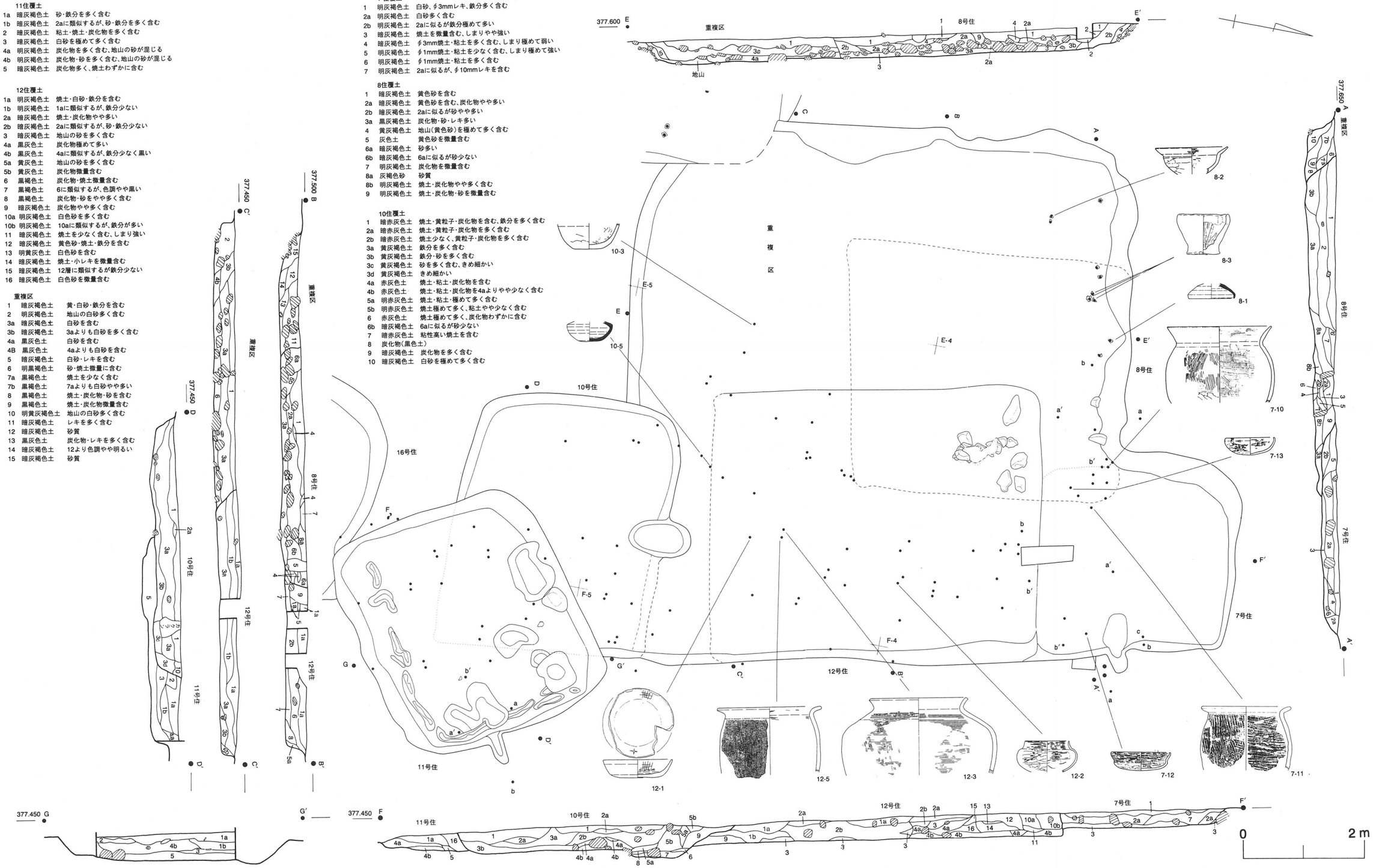
1　明灰褐色土　白砂、φ3mmレキ、鉄分多く含む
2a　明灰褐色土　白砂多く含む
2b　明灰褐色土　2aに似るが鉄分極めて多い
3　暗灰褐色土　焼土を微量含む、しまりやや強い
4　暗灰褐色土　φ3mm焼土・粘土を多く含む、しまり極めて弱い
5　明灰褐色土　φ1mm焼土・粘土を少なく含む、しまり極めて強い
6　明灰褐色土　φ1mm焼土・粘土を多く含む
7　明灰褐色土　2aに似るが、φ10mmレキを含む

8住覆土

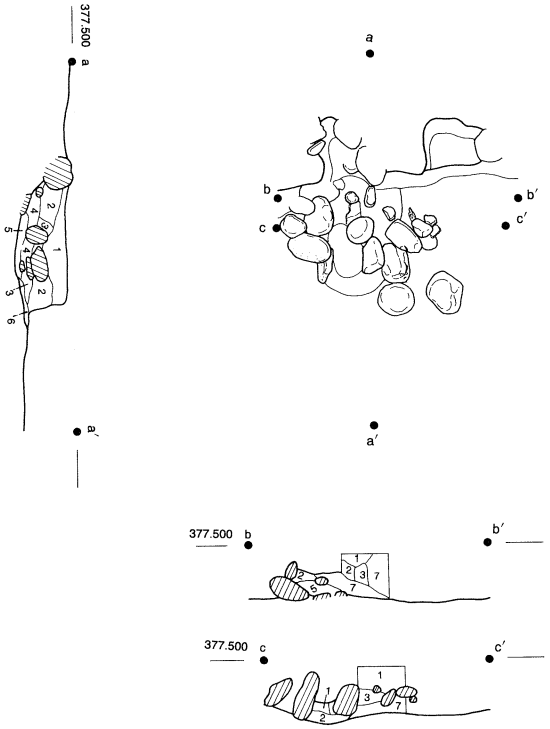
1　暗灰褐色土　黄色砂を含む
2a　暗灰褐色土　黄色砂を含む、炭化物やや多い
2b　暗灰褐色土　2aに似るが砂やや多い
3a　黒灰褐色土　炭化物・砂・レキ多い
4　黄灰褐色土　地山(黄色砂)を極めて多く含む
5　灰色土　黄色砂を微量含む
6a　暗灰褐色土　砂多い
6b　暗灰褐色土　6aに似るが砂少ない
7　明灰褐色土　炭化物を微量含む
8a　灰褐色砂　砂質
8b　明灰褐色土　焼土・炭化物やや多く含む
9　明灰褐色土　焼土・炭化物・砂を微量含む

10住覆土

1　暗赤灰色土　焼土・黄粒子・炭化物を含む、鉄分を多く含む
2a　暗赤灰色土　焼土・黄粒子・炭化物を多く含む
2b　暗赤灰色土　焼土少なく、黄粒子・炭化物を多く含む
3a　黄灰褐色土　鉄分を多く含む
3b　黄灰褐色土　鉄分・砂を多く含む
3c　黄灰褐色土　砂を多く含む、きめ細かい
3d　黄灰褐色土　きめ細かい
4a　赤灰色土　焼土・粘土・炭化物を含む
4b　赤灰色土　焼土・粘土・炭化物を4aよりやや少なく含む
5a　明赤灰色土　焼土・粘土・極めて多く含む
5b　明赤灰色土　焼土極めて多く、粘土やや少なく含む
6　赤灰色土　焼土極めて多く、炭化物わずかに含む
6b　暗灰褐色土　6aに似るが砂少ない
7　暗赤灰色土　粘性高い焼土を含む
8　炭化物(黒色土)
9　暗灰褐色土　炭化物を多く含む
10　暗灰褐色土　白砂を極めて多く含む

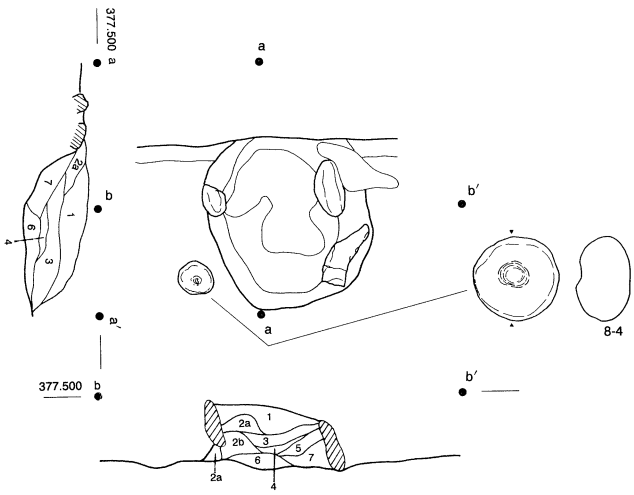


第７図　7･8･10･11･12号竪穴住居跡、住居重複区平・断面図(1／60)

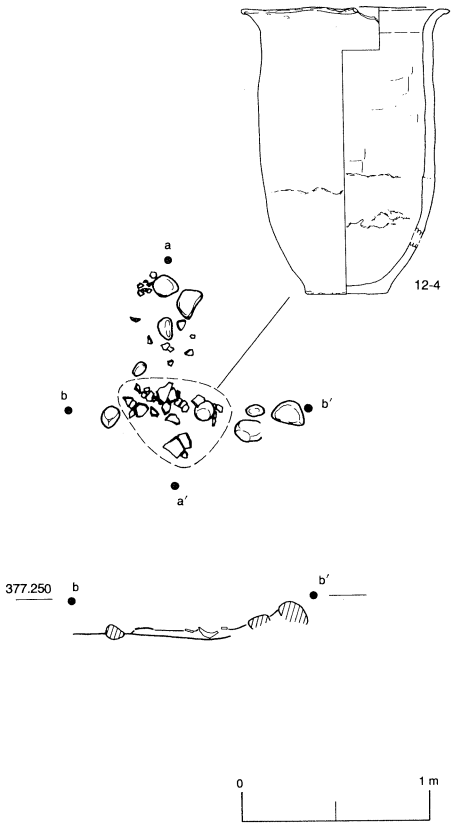


1　暗灰褐色土　小砂利含む
2　明灰褐色土　粘土わずかに含む
3　〃　焼土多く含む、白砂・粘土・黄砂利含む、やわらかい
4　暗赤褐色土　焼土きわめて多く含む、やわらかい
5　暗灰褐色土　小砂利・白砂わずかに含む
6　〃　〃　焼土わずかに含む
7　〃　焼土わずかに含む
きめ　7・2＞4＞3＞1＞5・6
粘性　3＞2＞4＞6・7＞1・5

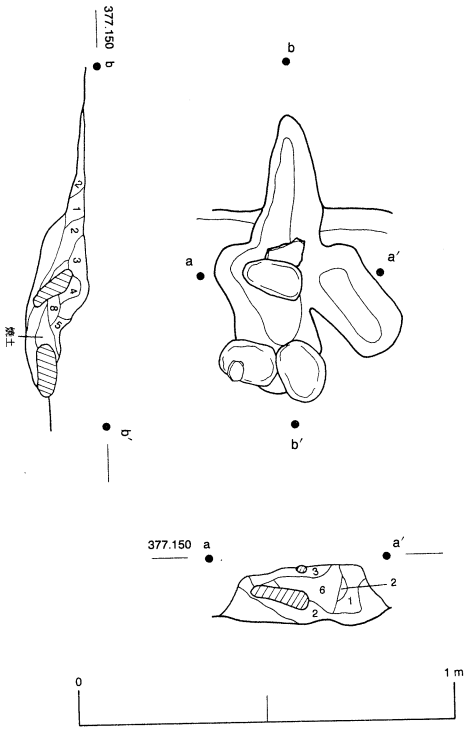
第８図　７号住居跡カマド平・断面図(1／40)



1　明灰褐色土　焼土・炭・小砂利わずかに入る
2a　赤灰褐色土　粘土質・炭わずかに入る、焼土やや少ない
2b　〃　〃・〃　、焼土極めて多い
3　灰褐色土　焼土ごくわずか、炭含む
4　明灰褐色土　焼土多く炭入る
5　赤灰褐色土　焼土きわめて多い、炭ごくわずか含む、粘性はひくいが固い
6　赤褐色土　焼土
7　赤灰褐色土　焼土きわめて多く含む、2b層より焼土多い、炭含む
きめ　1・3＞2a＞4＞2b＞6＞7
粘性　2b＞2a＞5＞4＞1＞3

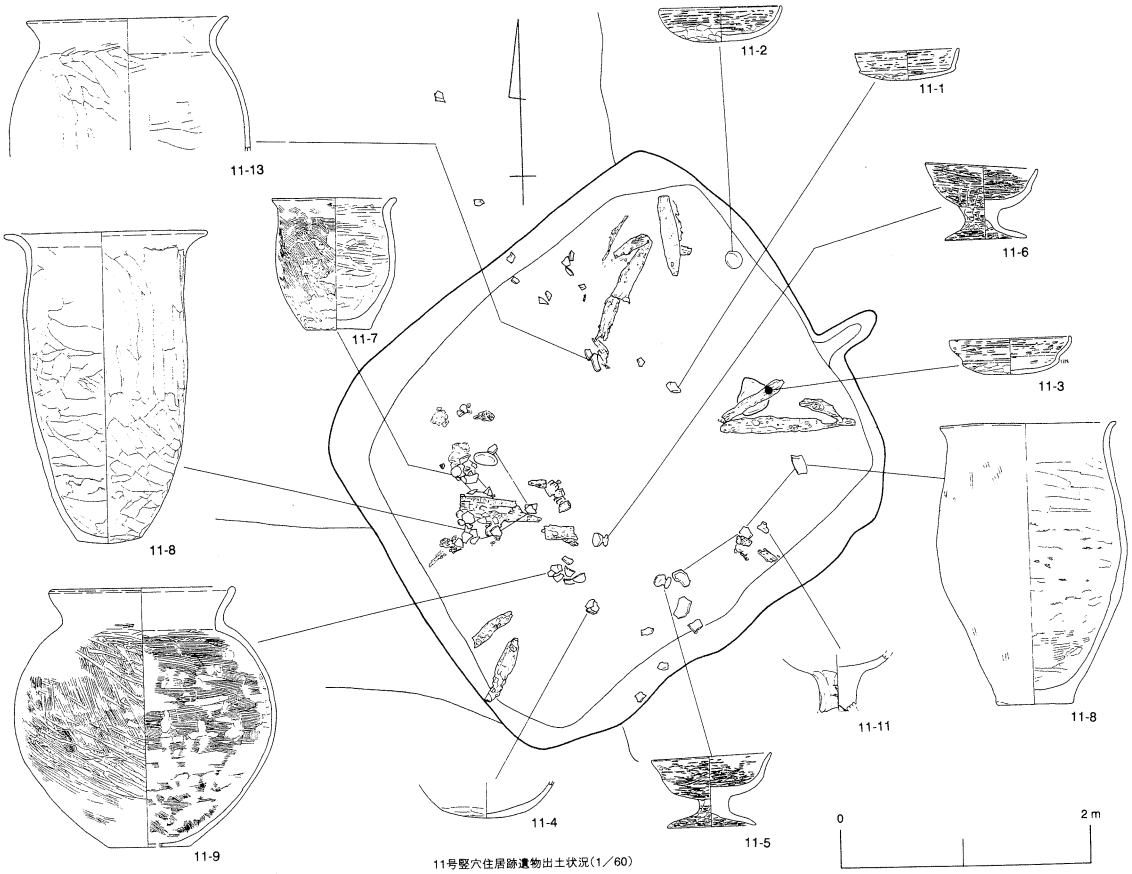


第９図　８号住居跡カマド平・断面図(1／40)　　第10図　12号住居跡土器集中遺物出土状況(1／40)



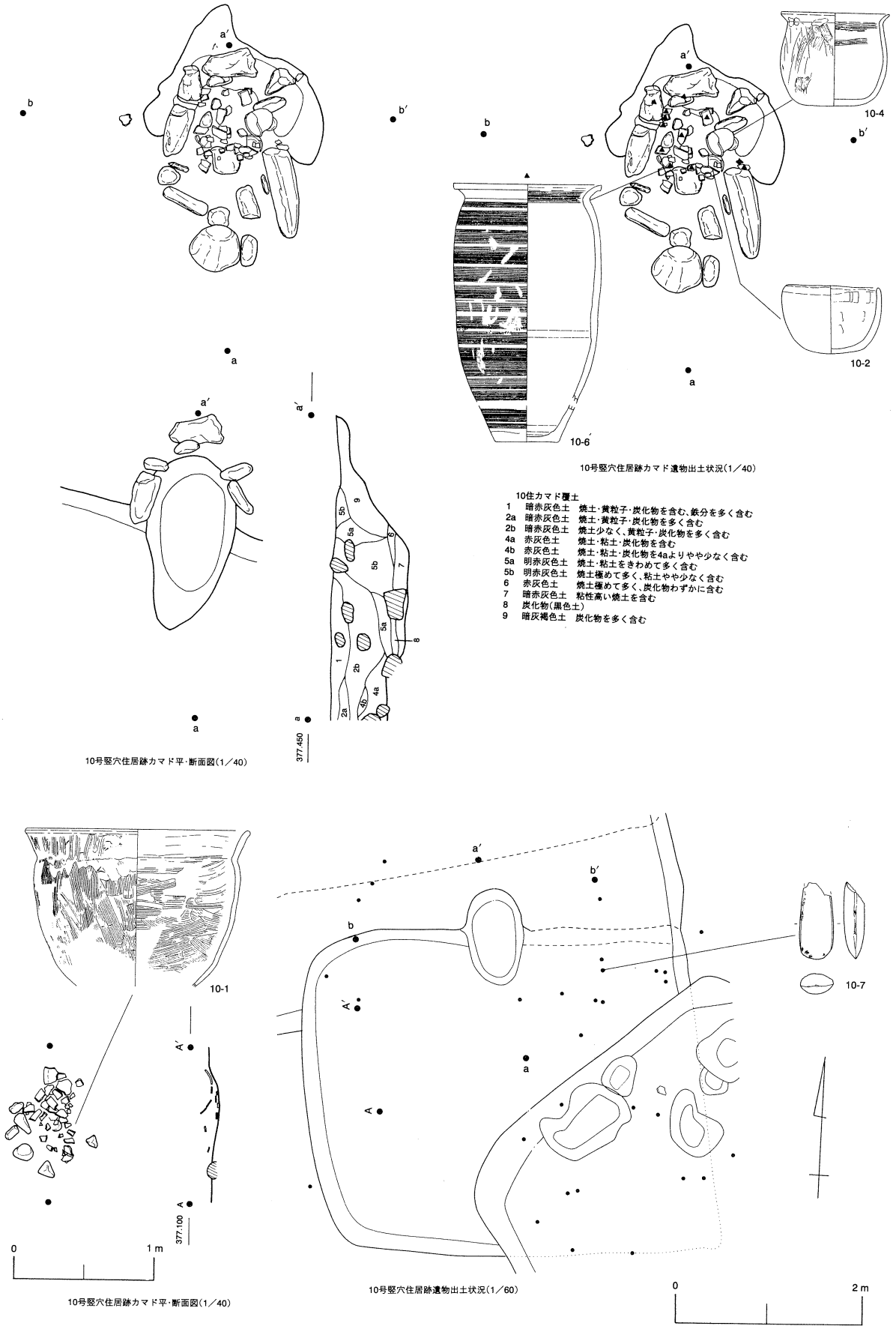
カマド土層
1　黄灰褐色土　白砂・炭化物多い
2　暗灰褐色土　焼土・炭化物やや多い
3　〃　焼土少ない
4　明黄褐色土　砂きわめて多い、固くしまっている、炭化物多い
5　暗黒灰色土　炭化材きわめて多い、わずかに焼土
6　暗赤灰色土　砂・焼土を含む、粘性がやや強い
7　〃　砂質だが焼土、炭化物きわめて多い
8　暗赤灰色土　焼土・炭化物きわめて多い、やや粘り気あり
きめ　7・1・2・3・4>5>6・8
粘性　8>6>3>1・2・4・5

11号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)

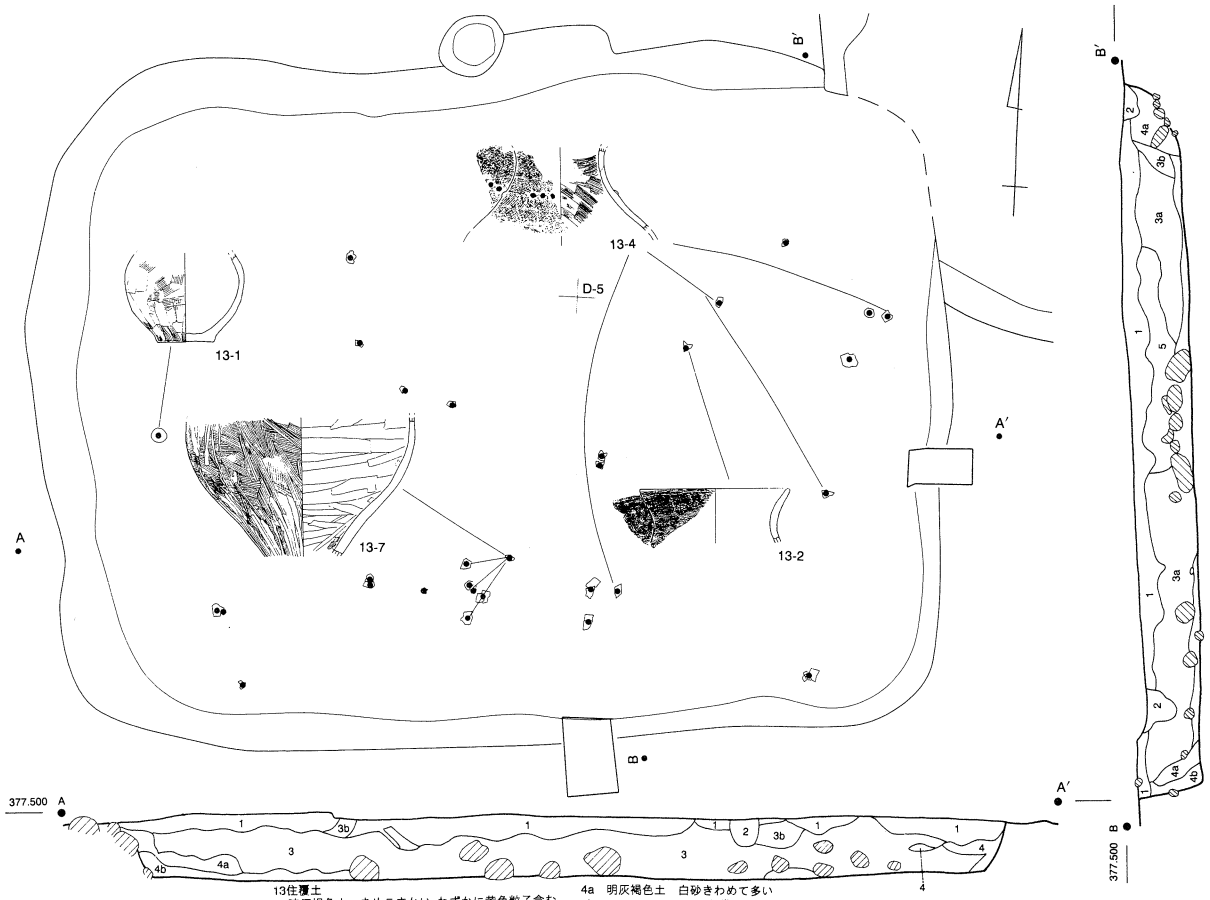


11号竪穴住居跡遺物出土状況(1／60)

第11図　11号竪穴住居跡平面図

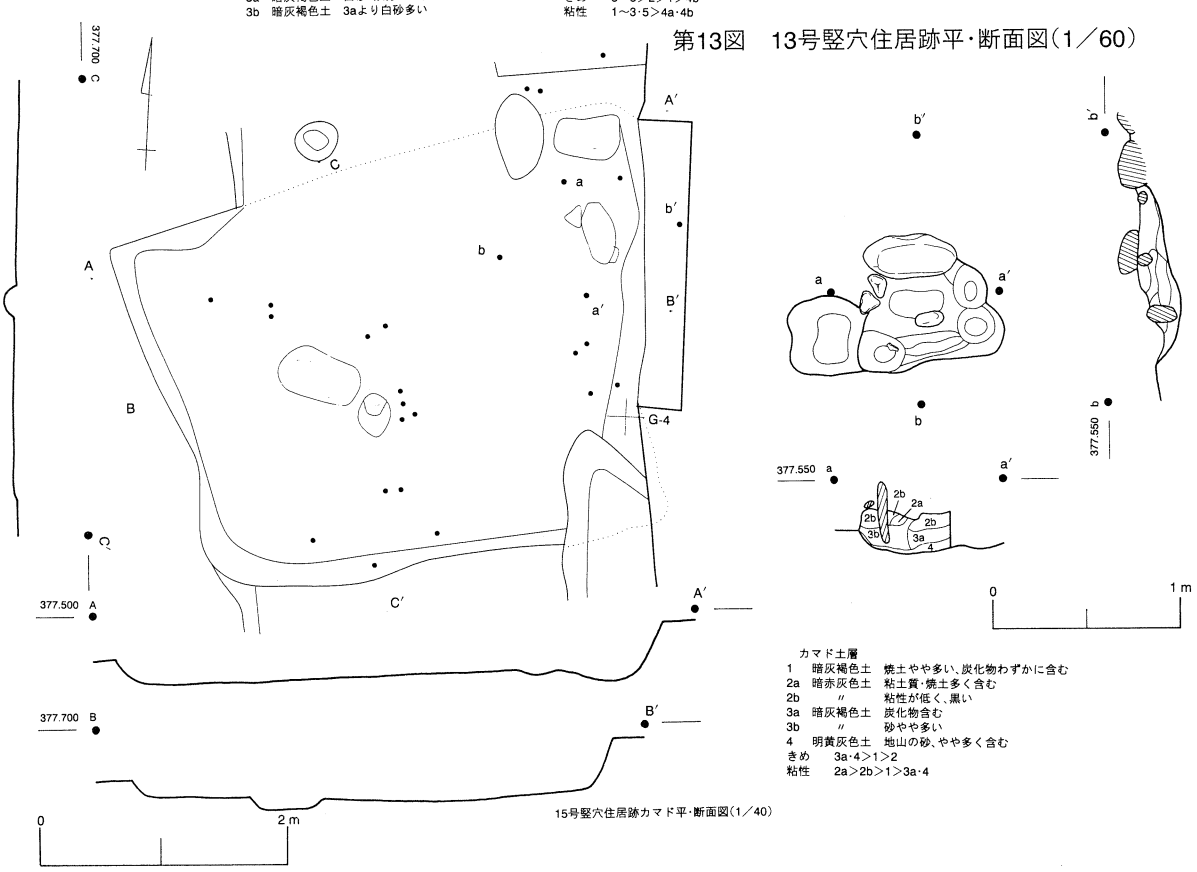


第12図　10号竪穴住居跡平・断面図



13住覆土
1　暗灰褐色土　きめこまかい、わずかに黄色粒子含む
2　暗褐色土　pitきわめて黒く、きめ細かい
3a　暗灰褐色土　白砂・鉄分やや多い
3b　暗灰褐色土　3aより白砂多い
4a　明灰褐色土　白砂きわめて多い
4b　〃　〃・小礫きわめて多い
5a　明灰褐色土　3aより白砂多い
きめ　3〜5>2>1>4b
粘性　1〜3・5>4a・4b

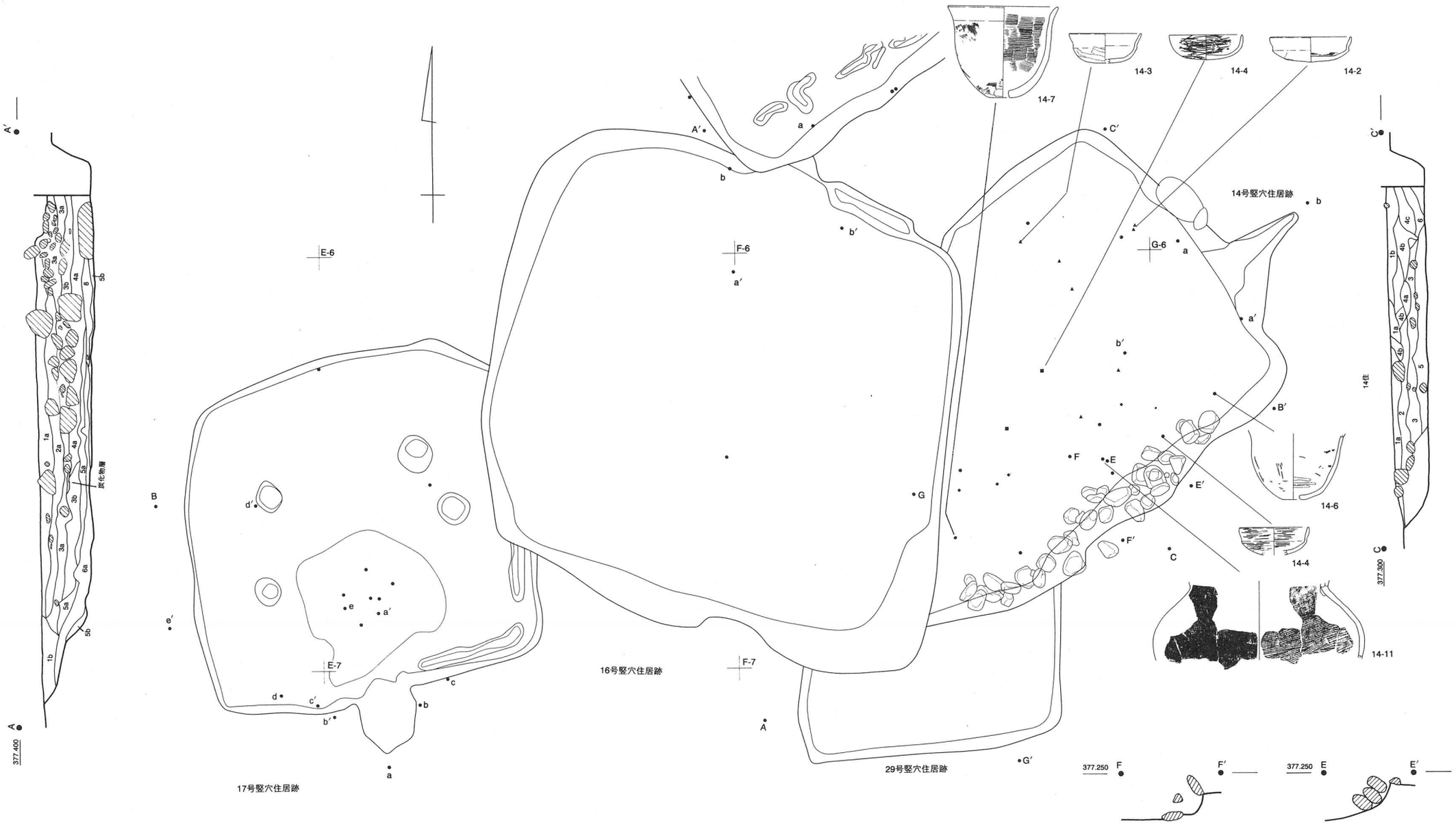
第13図　13号竪穴住居跡平・断面図(1／60)

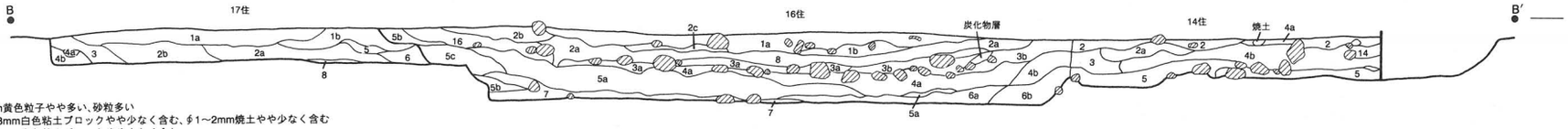


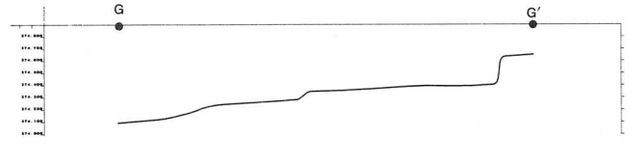
カマド土層
1　暗灰褐色土　焼土やや多い、炭化物わずかに含む
2a　暗赤灰色土　粘土質・焼土多く含む
2b　〃　粘性が低く、黒い
3a　暗灰褐色土　炭化物含む
3b　〃　砂やや多い
4　明黄灰色土　地山の砂、やや多く含む
きめ　3a・4>1>2
粘性　2a>2b>1>3a・4

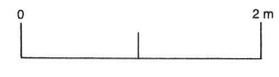
15号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)

第14図　15号竪穴住居跡平・断面図(1／60)







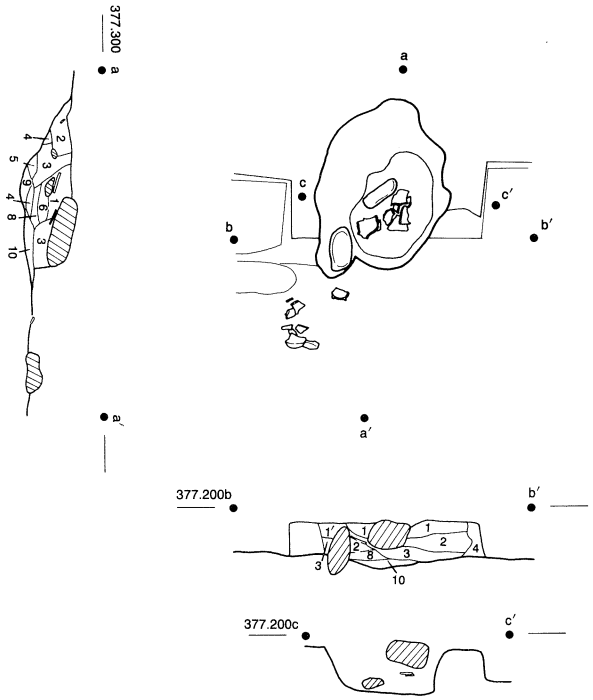


17住覆土
1a　暗褐色土　φ1mm黄色粒子やや多い、砂粒多い
1b　〃　φ2～3mm白色粘土ブロックややや少なく含む、φ1～2mm焼土やや少なく含む
2a　〃　φ2～3mm白色粘土ブロックややや少なく含む
2b　〃　〃　砂粒やや少なく含む
3　〃　砂粒やや多い
4a　〃
4b　暗灰黒色　砂層
5　暗赤褐色　φ5～10mm白色粘土やや多い、φ2mm炭化物少量含む
6　暗黒褐色　φ1～2mm炭化物微かに含む
7　〃　5層に以るが、しまりやや強い
8　暗灰色　白色粒子の砂層

14住覆土
1a　暗灰褐色土　焼土微粒子・炭化物を少し、白砂粒子を微かに含む
1b　〃　〃　をごくわずか、炭化物を少し、白砂粒子をやや多く含む
2　〃　〃　〃　炭化物を少し含む
3　灰褐色土　〃　を極めて微かに、炭化物・白砂粒子をやや多く含む
4a　暗黄灰色土　焼土粒子φ1～3mmを多く、炭化物・白砂粒子をやや多く、粘土多くまじる
4b　暗灰褐色土　〃　φ5mmをわずかに、炭化物をやや多く、白砂粒子をわずかに、粘土やや多く含む
4c　〃　〃　を微か、炭化物極微か、白砂粒子やや多く含む
5　暗黒灰色土　炭化物少し、白色粒子をわずかに含む
6　暗灰褐色土　〃　多く、　〃
　きめ　1＞2＞3＞5･6＞4a･4b＞4
　粘性　4＞4a＞4b＞1･2･3･5･6

16住覆土
1a　明黄灰褐色土　φ5mmの焼土多く含む
1b　〃　〃　やや多い
2a　黒灰色土　極めて粘性強い、白砂極微かに含む
2b　明黒灰色土　粘性やや高い、鉄分多い
2c　〃　粘性高い、白砂極微かに含む
3a　暗灰褐色土　炭化物ややまじる、粘性やや高い
3b　灰褐色土　炭化物ややまじる
4a　灰褐色土　炭化物・極微かな焼土まじる
4b　〃　4aに類似するが白砂やや多い
5a　黄灰褐色土　鉄分やや多い
5b　明黄灰褐色土　鉄分極めて多い
5c　〃　焼土・炭化物極微かに入る、鉄分極めて多い
6a　暗灰褐色土　焼土極微かに入る、炭化物やや多い、φ2mmの小砂利やや多い
6b　〃　6aに似るが白砂が多い
7　灰褐色土　極微かに炭化物含む、φ2mmの小砂利多い
8　暗灰褐色土　炭化物かなり多く、焼土やや多く、極微かに粘土入る、やわらかくきめ細かい
　粘性　8･3b･4a＞5a･5b･5c･6a＞1a＞2a＞7
　しまり　2a･＞2c＞2b･6a＞3a･6b＞1a･5a･5b･8＞3b･4a･6a･5c

第15図　14･16･17･29号竪穴住居跡平・断面図(1／60)

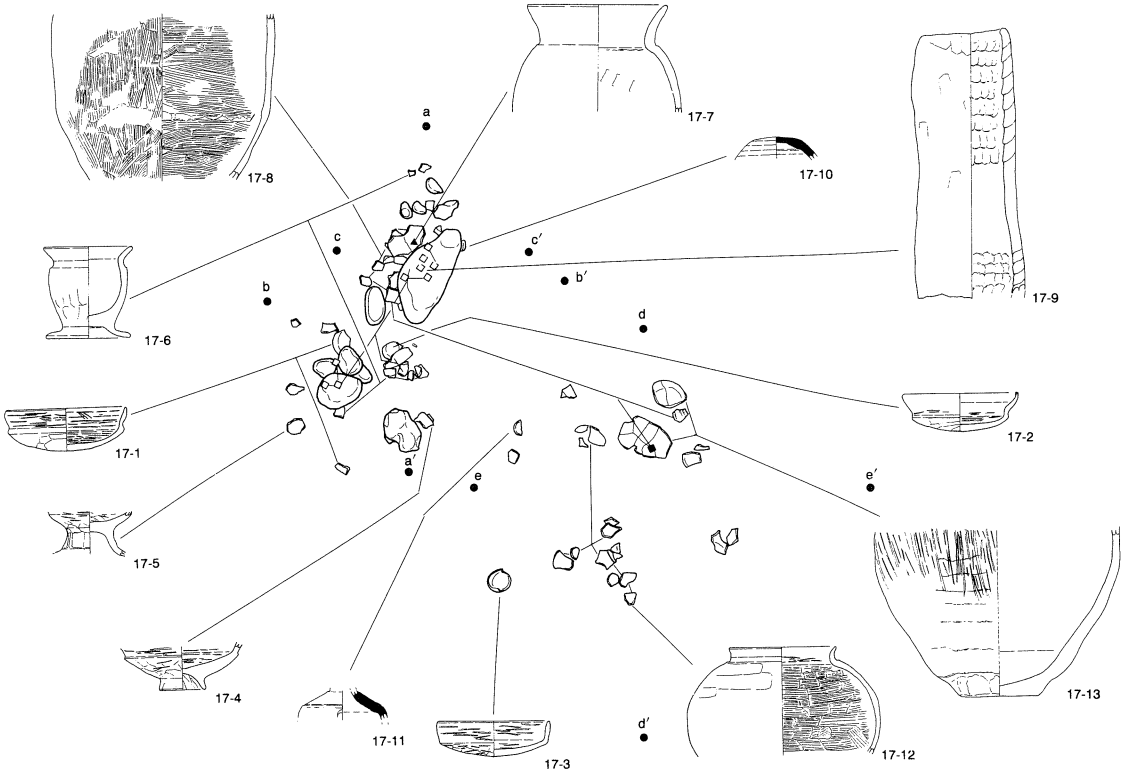


カマド土層

1	明灰褐色土	焼土・炭化物ごくわずかに入る
2	〃	〃 含む、粘土多い
3	暗赤灰褐色土	焼土かなり多い、炭化物ややまじる
4	暗黄灰色土	白砂多くまじる、ごくわずかに焼土まじる
5	暗灰赤褐色土	焼土(5mmφ)含む、炭化物わずかに含む
6	暗赤灰色土	焼土きわめて多い、炭化物含む (焼土もっとも多い)(3よりもきわめて多い)
7	暗灰褐色土	炭化物(5mmφ)多く含む、わずかに焼土・粘土
8	明灰褐色土	焼土・粘土かなり多い、炭化物やや多い(3に粘土がまじった層)
9	〃	やや赤がかっている、焼土・炭化物やや多い
10	暗赤白色土	粘土質・焼土・炭化物(3cmφ)多く含む

きめ　1>2>3・4・5>7>6・8・9・10
粘性　8・2>3>1>4・5・7・9・10>6

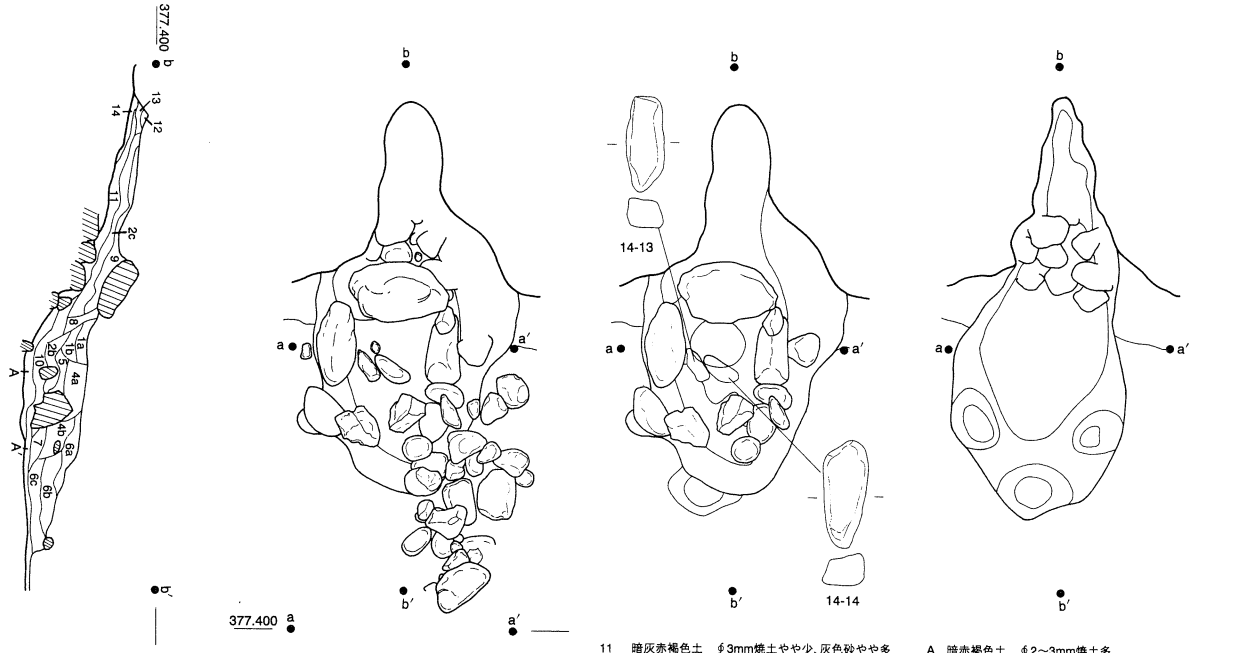
17号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)



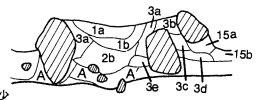
17号竪穴住居跡カマド遺物出土状況(1／40)

17号竪穴住居跡土器集中場所(1／40)

第16図　17号竪穴住居跡平面図



1a　暗黒褐色土　φ1～2mm焼土やや多
　　φ1mm炭化物やや少
1b　暗黒灰褐色土　φ1～2mm焼土やや多
　　白色粒子1aより多
2a　暗赤褐色土　2bと3の混合土
2b　〃　焼土ブロック多、灰色砂層やや少
2c　〃　焼土層と灰白砂層がまだらに混合する
3a　暗灰赤褐色土　黒灰色粘土と焼土の混合土
3b　暗灰黒色土　φ1mm焼土・炭化物やや少
3c　〃　〃　やや多
3d　暗黒褐色土　φ1mm炭化物、微
3e　暗黒赤褐色土　φ3～5mm焼土ブロック・炭化物少
4a　暗黒褐色土　φ2mm焼土少、φ1mm炭化物、微
4b　〃　〃　〃
　　灰白色粘土を4aよりやや多く含む
5　暗灰赤褐色土　灰色砂と焼土の混合土、φ1mm炭化物、微
6a　暗黒赤褐色土　φ3～5mm焼土ブロックやや少
6b　暗黒褐色土　φ1mm炭化物、微、6a層を少量混合する
6c　〃　〃



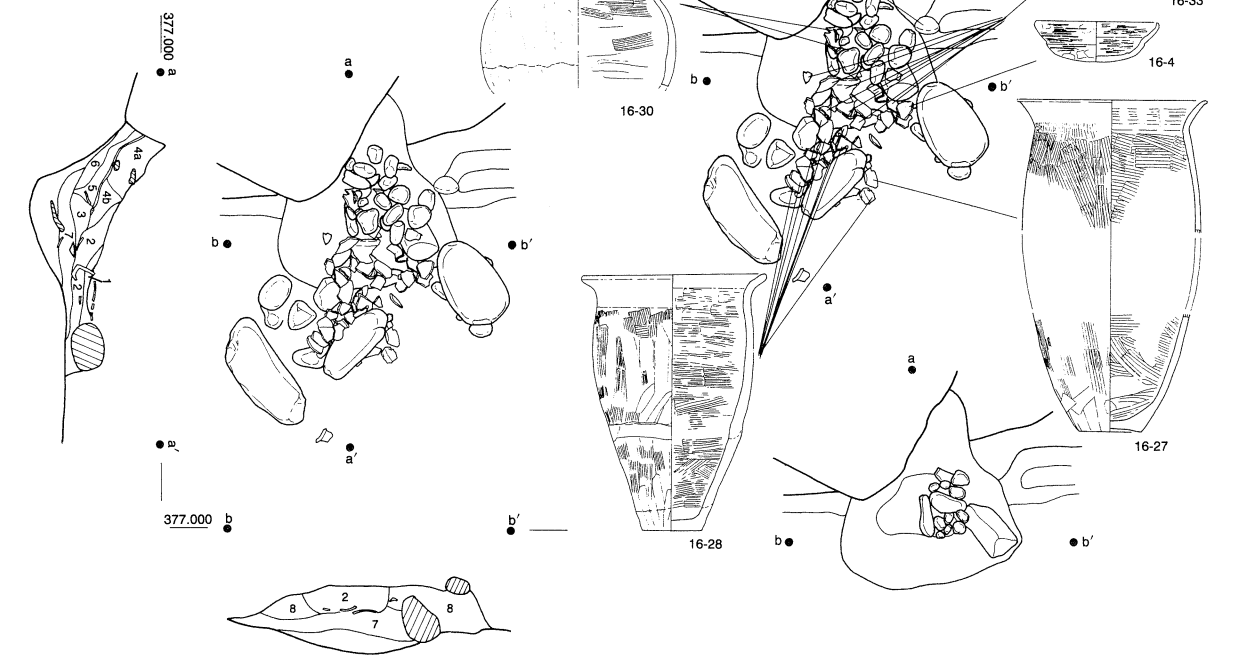
7　暗黒赤褐色土　φ2～3mm焼土やや
　　φ1mm炭化物やや少
8　暗灰黒褐色土　φ2mm焼土少
　　灰色粘土少
9　暗灰赤褐色土　φ2mm焼土少
10　暗灰黒褐色土　φ2mm焼土少
　　灰色粘土やや少

11　暗灰赤褐色土　φ3mm焼土やや少、灰色砂やや多
12　暗赤褐色土　焼土ブロック
13　暗黒褐色土　φ3mm焼土やや少、φ1mm炭化物少
14　暗灰黒砂層　地山の可能性大
15a　暗黒灰色土　φ2mm焼土、炭化物やや少
15b　〃　〃　微

A　暗赤褐色土　φ2～3mm焼土多
A′　暗褐色土

粘性　3・4・5＞10＞8・9＞1a・1b・6a～c＞15・2a～c・7・11～13＞14
しまり　3・4・5＞8・9＞2a・2b・10＞1a・1b・2c＞6a～c・7・11～14
きめ　14＞2c・7＞11～13・15＞6a～c＞1a～2b・8・9・10＞3～5

第17図　14号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)

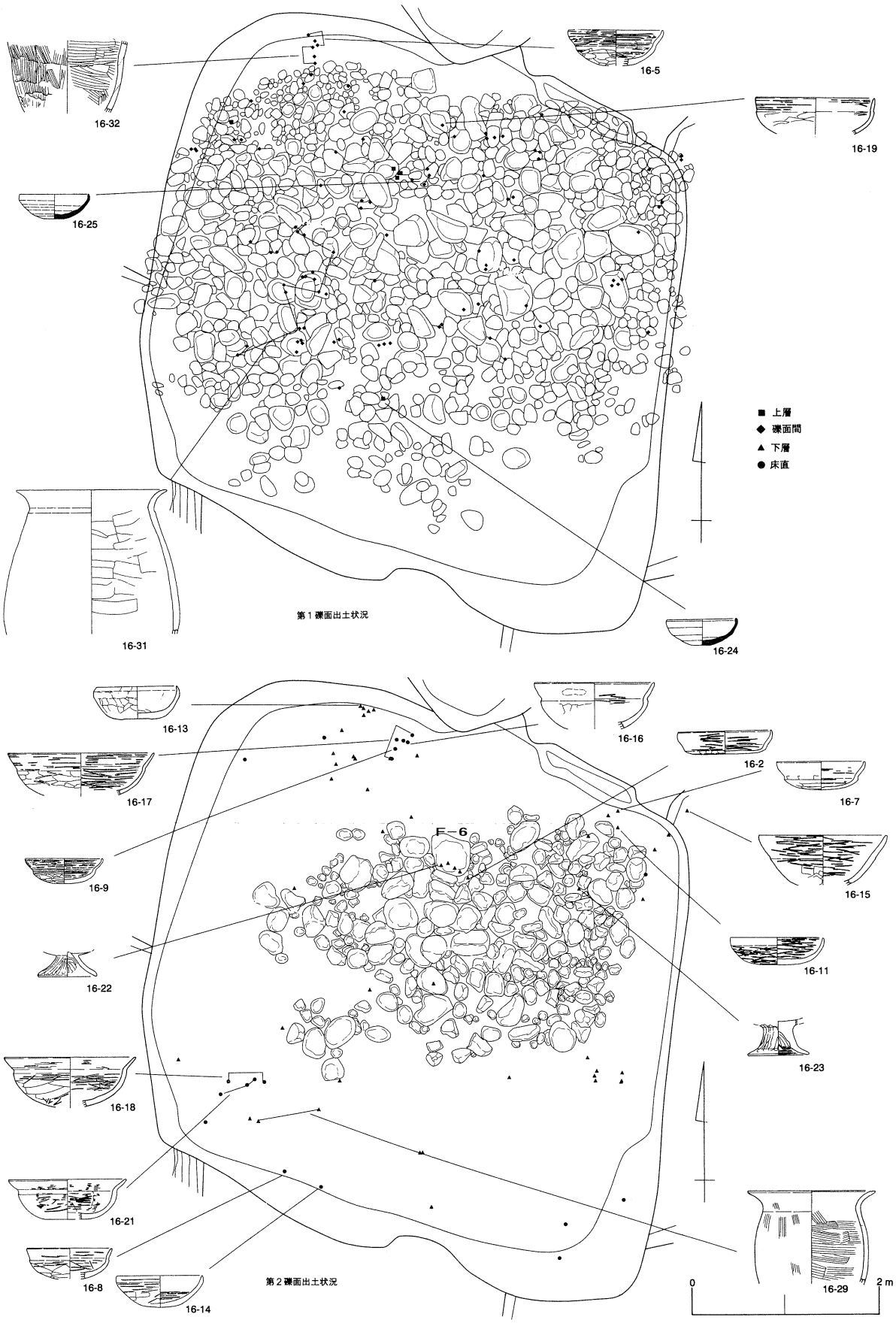


1　暗灰黒色土　φ1～2mm焼土少
2　暗黒褐色土　φ2～3mm焼土やや少、φ1mm炭化物少
3　黒色土　φ2～3mm炭化物多、φ1～2mm焼土少
4a　灰赤褐色土　φ3～5mm焼土ブロックやや少
4b　赤灰褐色土　〃　多、φ3～5mm礫少
5　暗赤灰色土　φ2～3mm焼土ブロックやや多、
　　φ2～3mm炭化物少
　　※上層面に砂層
6　灰色砂層　φ3mm焼土ブロック少
7　暗黒褐色土　灰色砂やや多
8　〃　φ2～3mm焼土ブロック、炭化物やや少

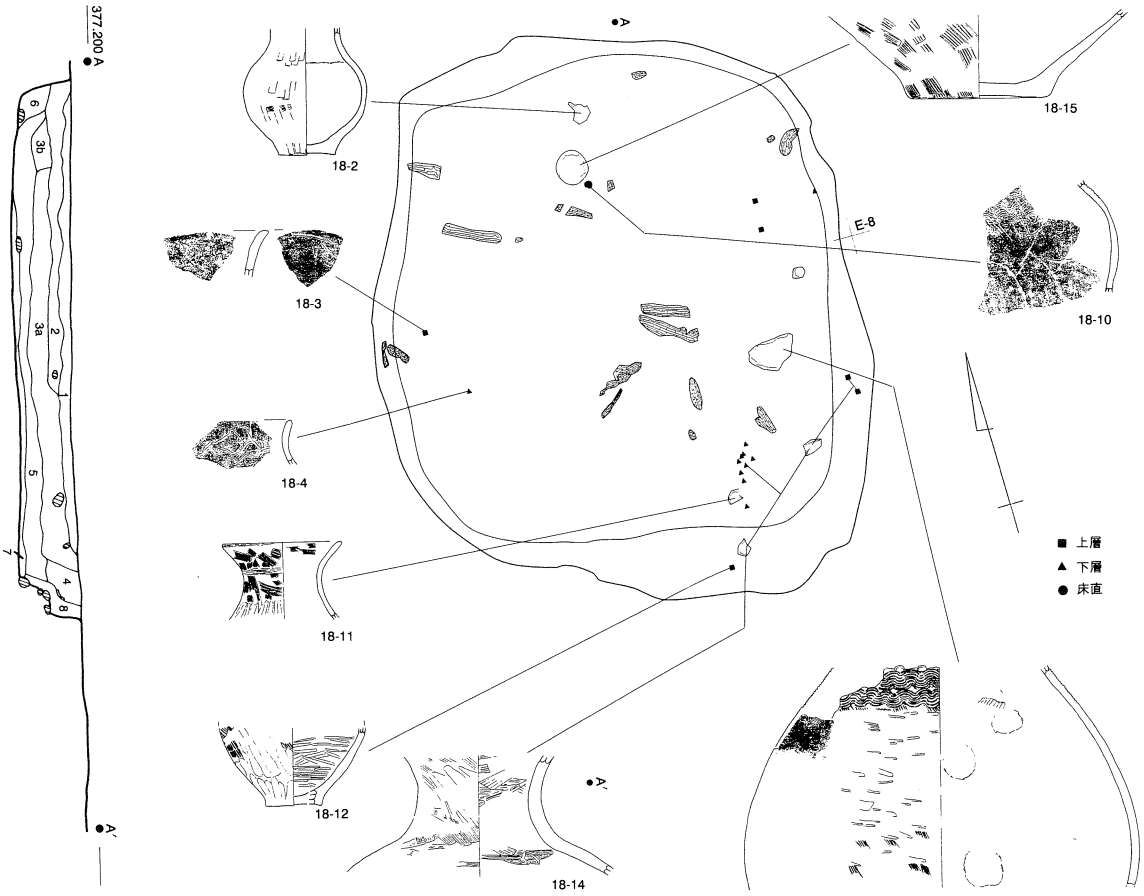
粘性　2・4a・4b・8＞7・6＞3・5＞1
しまり　2・4a・4b・8＞7・6＞3・5＞1
きめ　1＞3・5・6・7＞2・4a・4b・8

0　1m

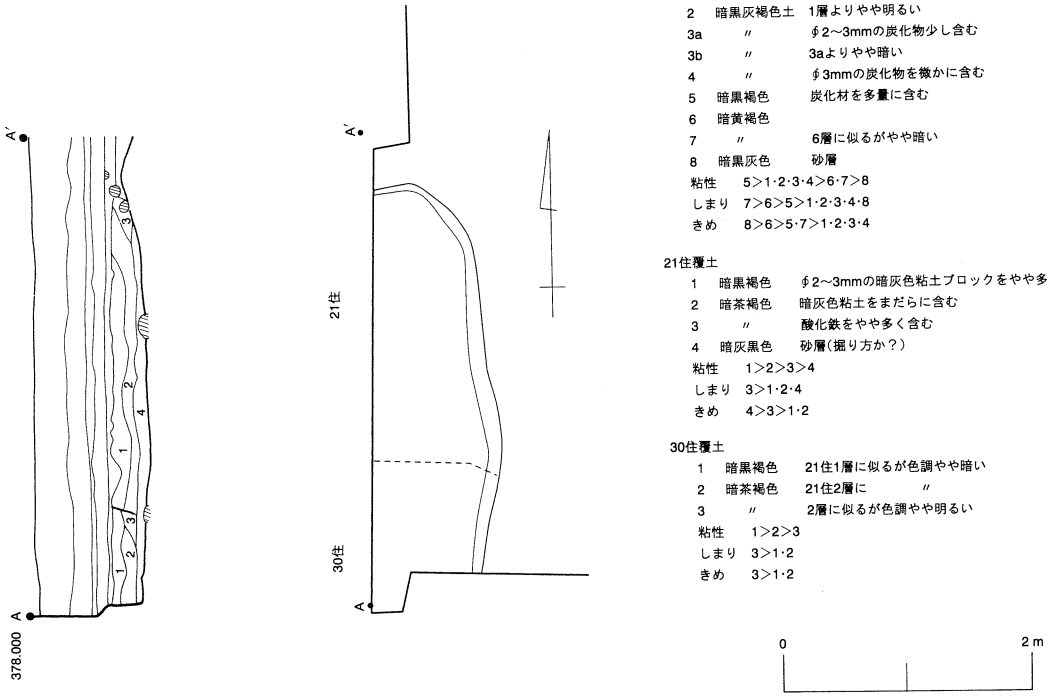
第18図　16号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)



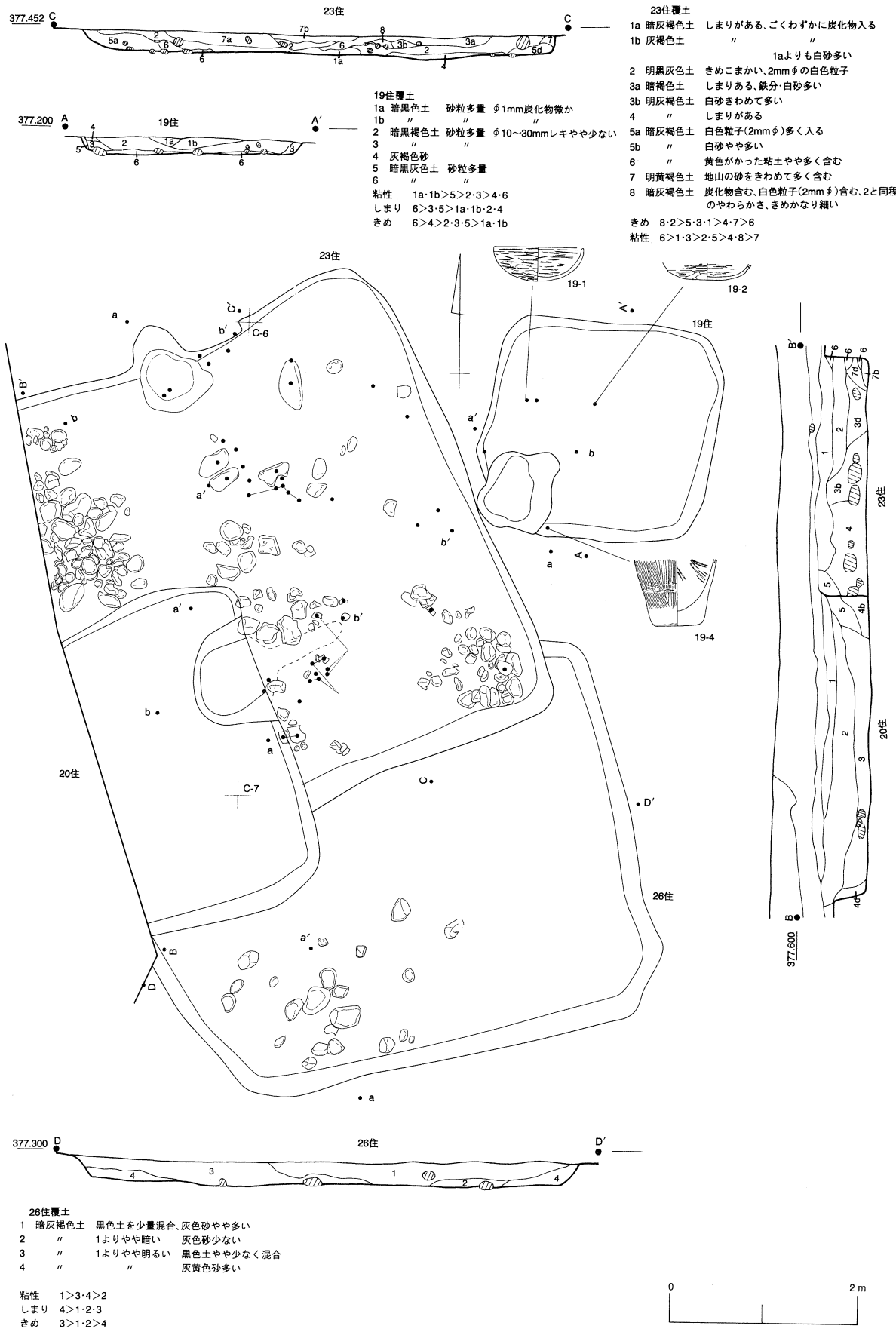
第19図　16号竪穴住居跡礫出土状況（1／60）



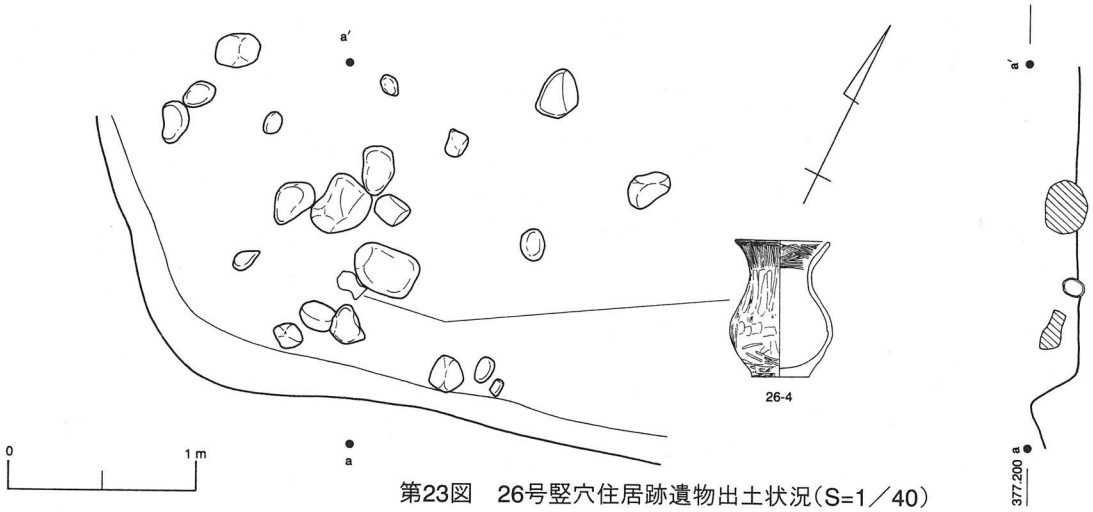
第20図　18号竪穴住居跡平・断面図(1／60)



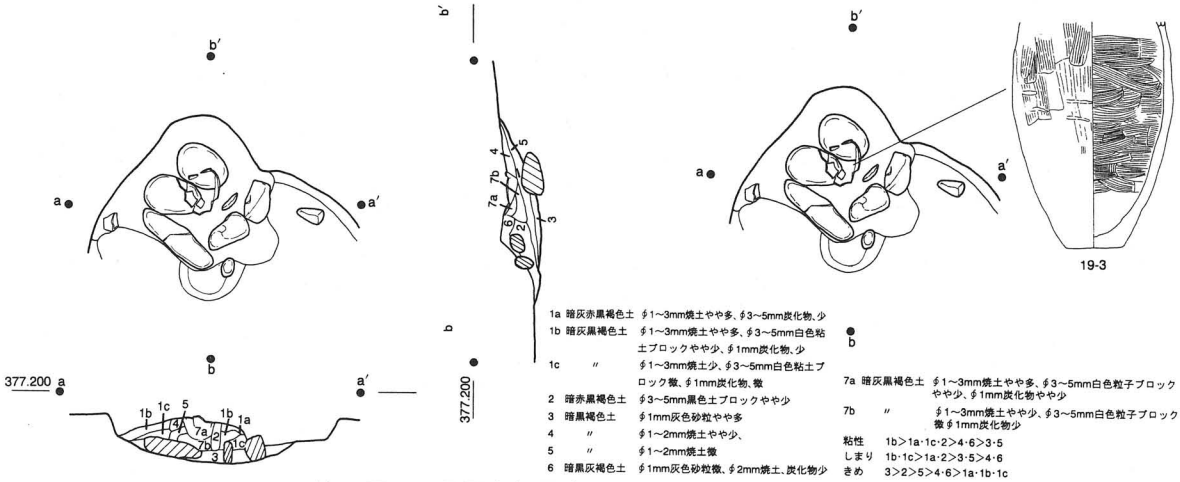
第21図　21·30号竪穴住居跡平・断面図(1／60)



第22図　19·20·23·26号竪穴住居跡平·断面図(1／60)



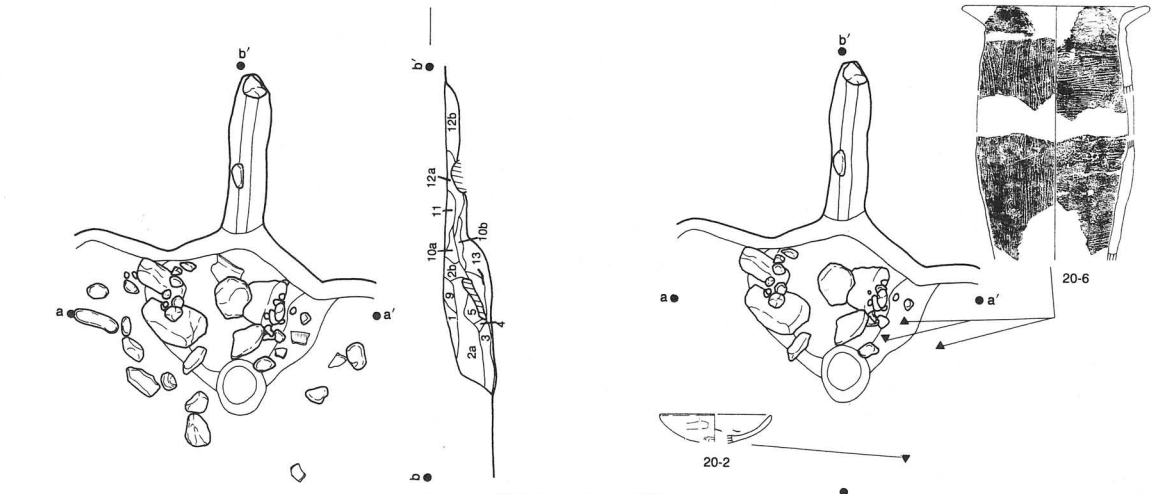
第23図　26号竪穴住居跡遺物出土状況(S=1／40)



1a 暗灰赤黒褐色土　φ1～3mm焼土やや多、φ3～5mm炭化物、少
1b 暗灰黒褐色土　φ1～3mm焼土やや多、φ3～5mm白色粘土ブロックやや少、φ1mm炭化物、少
1c　〃　φ1～3mm焼土少、φ3～5mm白色粘土ブロック微、φ1mm炭化物、微
2　暗赤黒褐色土　φ3～5mm黒色土ブロックやや少
3　暗黒褐色土　φ1mm灰色砂粒やや多
4　〃　φ1～2mm焼土やや少、
5　〃　φ1～2mm焼土微
6　暗黒灰褐色土　φ1mm灰色砂粒微、φ2mm焼土、炭化物少
7a 暗灰黒褐色土　φ1～3mm焼土やや多、φ3～5mm白色粒子ブロックやや少、φ1mm炭化物やや少
7b　〃　φ1～3mm焼土やや少、φ3～5mm白色粒子ブロック微φ1mm炭化物少

粘性　1b>1a·1c·2>4·6>3·5
しまり　1b·1c>1a·2>3·5>4·6
きめ　3>2>5>4·6>1a·1b·1c

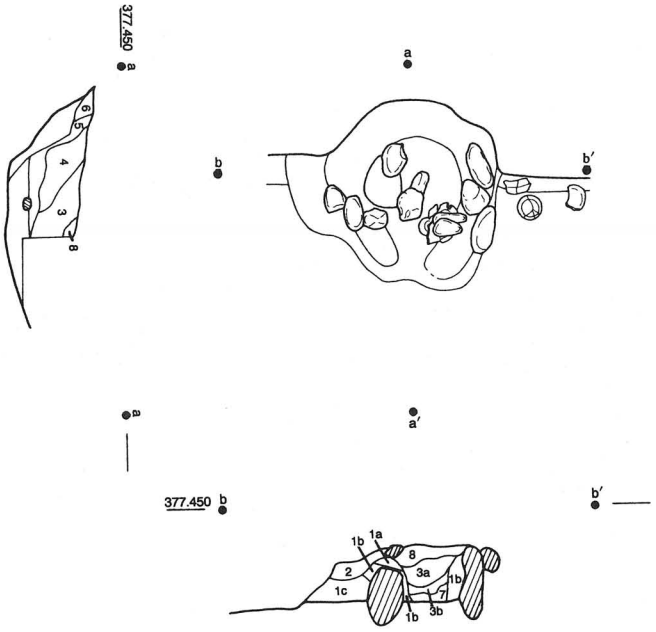
第24図　19号竪穴住居跡カマド平・断面図(S=1／40)

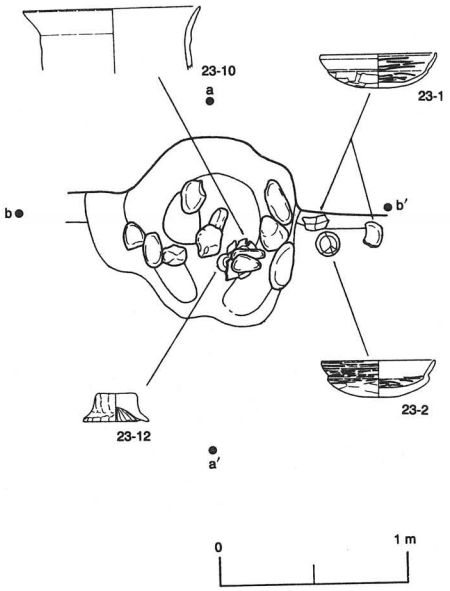


1　暗黒色土　φ1～2mm炭化物少
2　暗黒褐色土　φ1mm焼土・炭化物、微
3　暗黒色土　φ2mm白色土ブロック少
4　赤褐色土　焼土層
5　暗黄褐色土　粘土と2層の混合土
6　暗黒赤褐色土　φ1～2mm焼土やや多、φ1mm炭化物少
7　明灰赤褐色土　φ10～20mm礫やや少、φ1～2mm焼土やや少
8　暗黒褐色土　φ1～2mm炭化物少
9　明灰赤褐色土　φ1mm焼土やや多、灰色粘土主体
10a 暗灰褐色土　暗黒褐色土を混合する
10b　〃　〃　が10aよりも少ない
11　暗黒褐色土　φ1mm焼土、微
12a 暗黒褐色土　φ2mm炭化物、少
12b　〃　12aに似るがやや明るい
13　暗灰黒色土　灰色砂層に黒色土の混合

粘性　5·9>10a·10b>1～4·6～8>11～12b>13
しまり　9>13·3>5·10a·10b>1·2·4·6～8·11～12b
きめ　3·13>11～12b>5～8>1·2·4·10a·10b·9

第25図　20号竪穴住居跡カマド平・断面図(S=1／40)



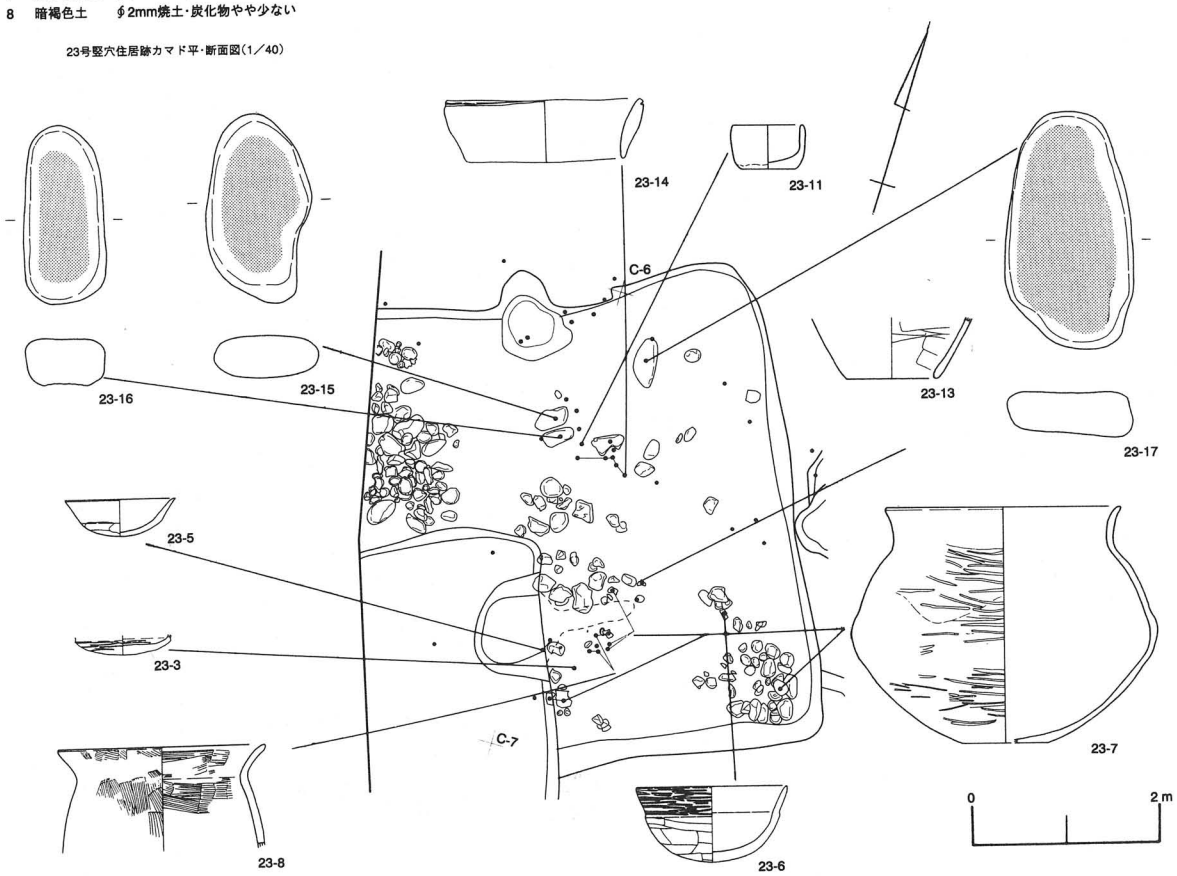


23号竪穴住居跡遺物出土状況(1／40)

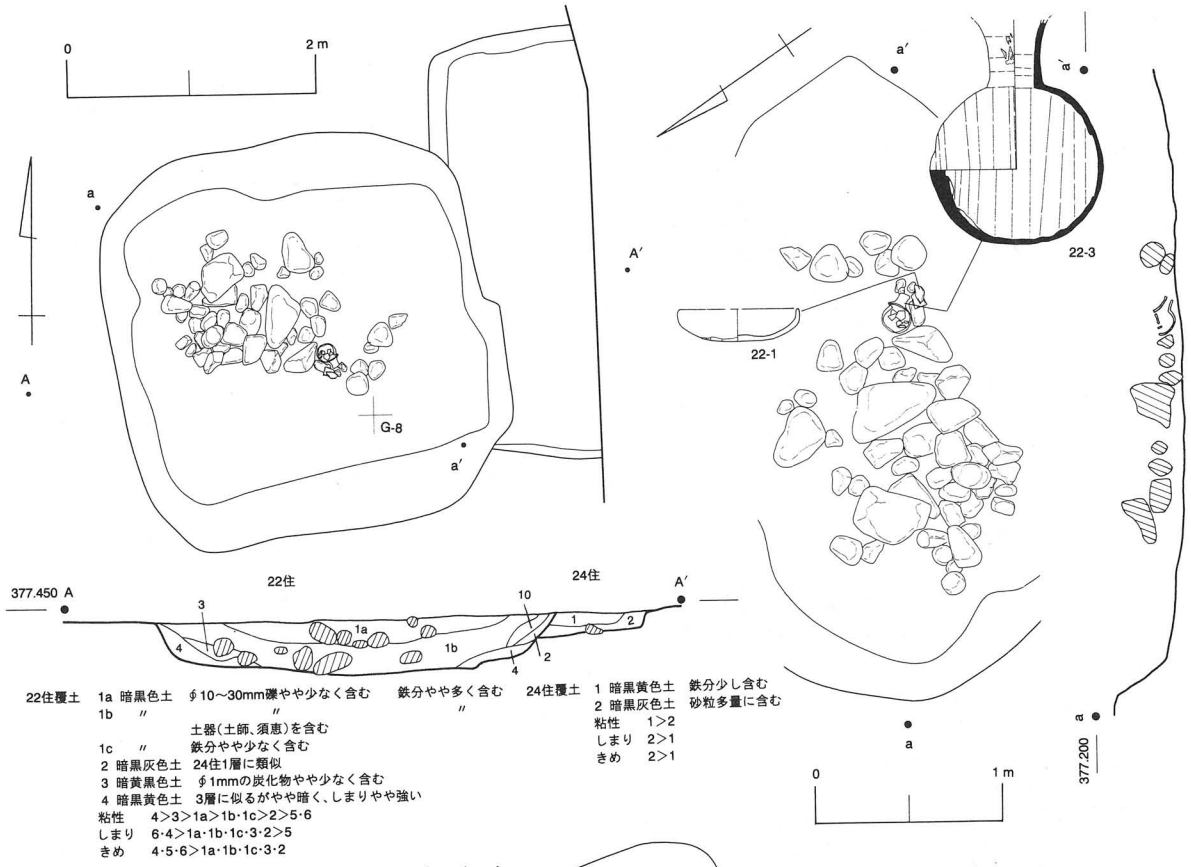
カマド土層

1a	暗褐色土	φ1mm焼土、φ1mm白色粘土粒子多く含む
1b	〃	φ10mm黄色粘土ブロック少し含む
1c	暗黒褐色土	φ1mm焼土少し含む
2	〃	φ1mm焼土やや少ない、φ1～2mm炭化物少ない
3a	〃	φ3～10mm炭化物やや多い、φ1mm焼土少ない
3b	〃	3aよりやや暗い
4	〃	φ1～2mm焼土多い、φ2～3mm炭化物少ない
5	〃	φ5～10mm焼け粘土やや少ない
6	〃	φ1mm炭化物少ない
7	暗赤褐色土	φ3～10mm焼土やや多い、φ1mm炭化物やや少
8	暗褐色土	φ2mm焼土・炭化物やや少ない

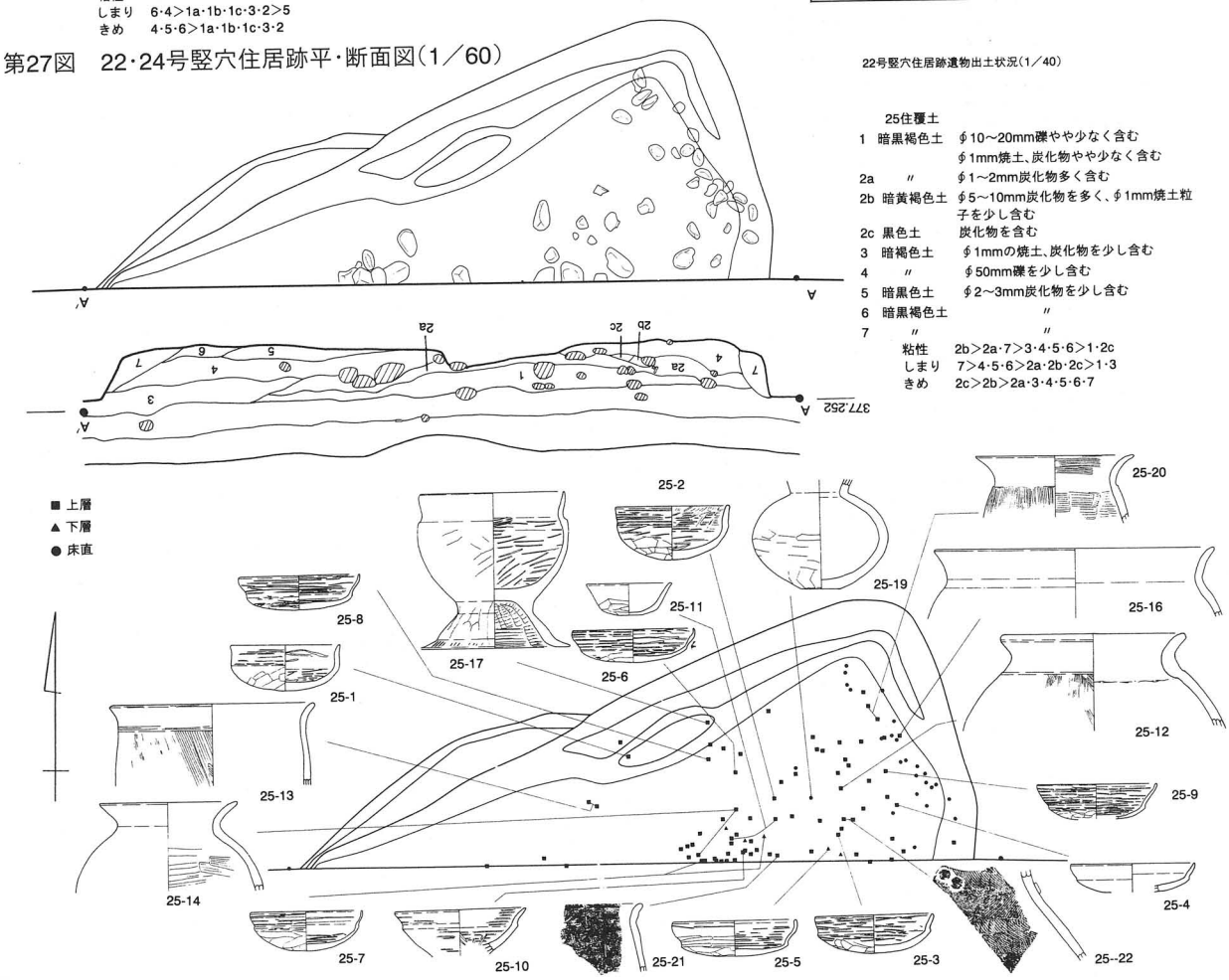
23号竪穴住居跡カマド平・断面図(1／40)



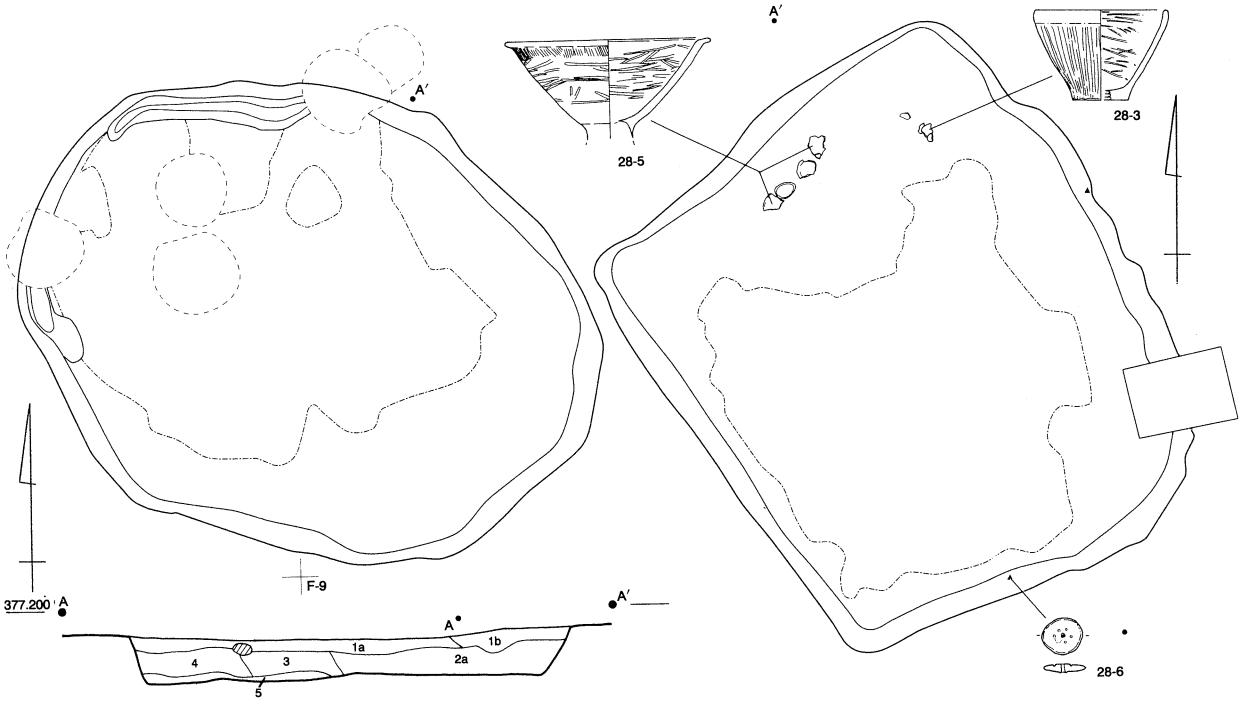
第26図　23号竪穴住居跡平面図(1／80)



第27図　22·24号竪穴住居跡平·断面図(1／60)



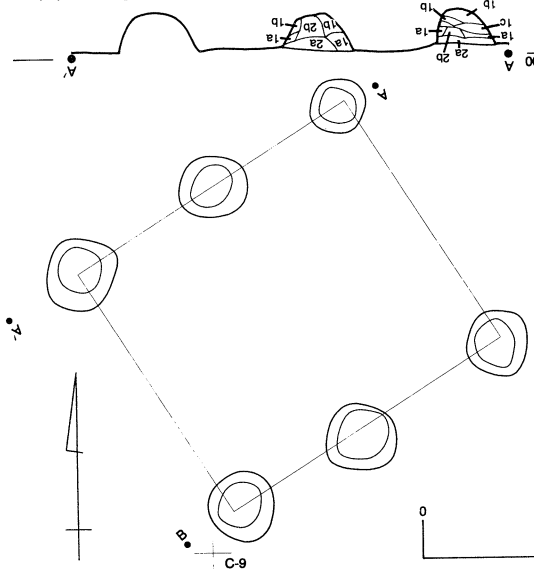
第28図　25号竪穴住居跡平·断面図(1／60)

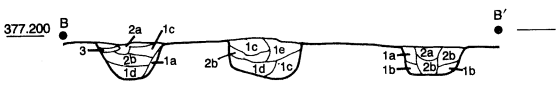


27·28住覆土
1a 明灰褐色土 鉄分が多い、砂粒(2mmφ)やや多い、(1bは白砂が多く入る)
2a 暗灰褐色土 鉄分が少ない 〃 やや少ない
2b 〃 鉄分2aより少ない
3 〃 砂粒がやや多い
4 〃 もっとも黒い、わずかに砂粒が入る
5 暗黄灰褐色土
6 暗黄灰褐色土 白砂がかなり多い、鉄分やや少なめ
きめ 2a>3>2b>1b>46>1a>5
粘性 5>2a·2b·3·4·6>1a·1b

第30図 28号竪穴住居跡平・断面図(1／60)

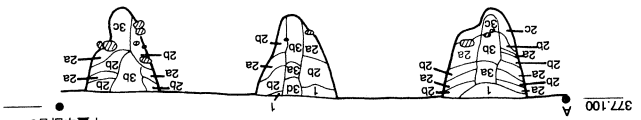
第29図 27号竪穴住居跡平・断面図(1／60)





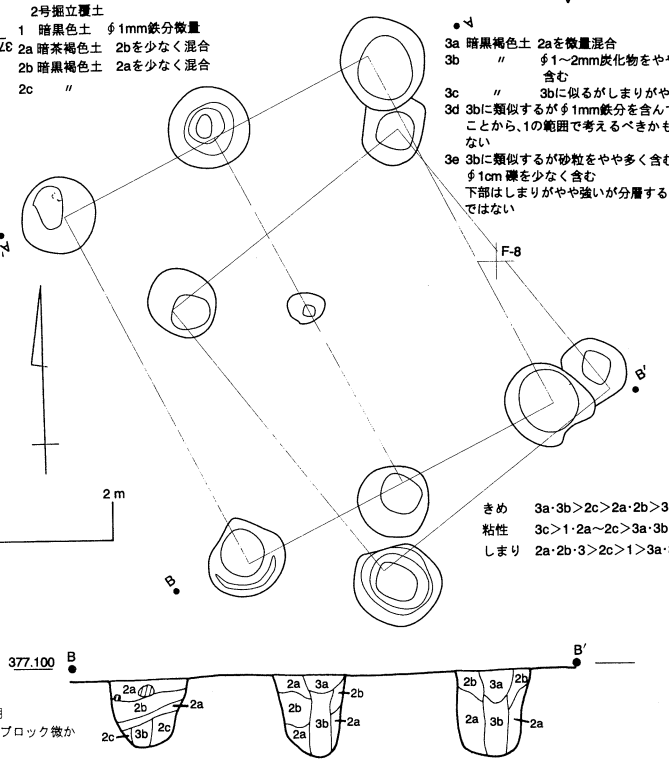
1号掘立覆土
1a 暗黒色土 φ5～10mm灰色土ブロック少し含む
1b 〃 φ2～3mm 〃 微かに含む
1c 暗黒灰色土 黒色土が少量混ざる
1d 〃 φ2～3mm灰色土が少量混ざる
1e 暗黒色土 灰色土が斑に含まれる

2a 暗黒色土 2bより色調やや明
2b 〃 φ2～3mm灰色土ブロック微かに含む
3 砂層
きめ 3>2b>2a·1a～1e
粘性 1a～1e>2a·2b>3
しまり 1a·1b>2a>1c～1e>2b·3



2号掘立覆土
1 暗黒色土 φ1mm鉄分微量
2a 暗茶褐色土 2bを少なく混合
2b 暗黒褐色土 2aを少なく混合
2c 〃

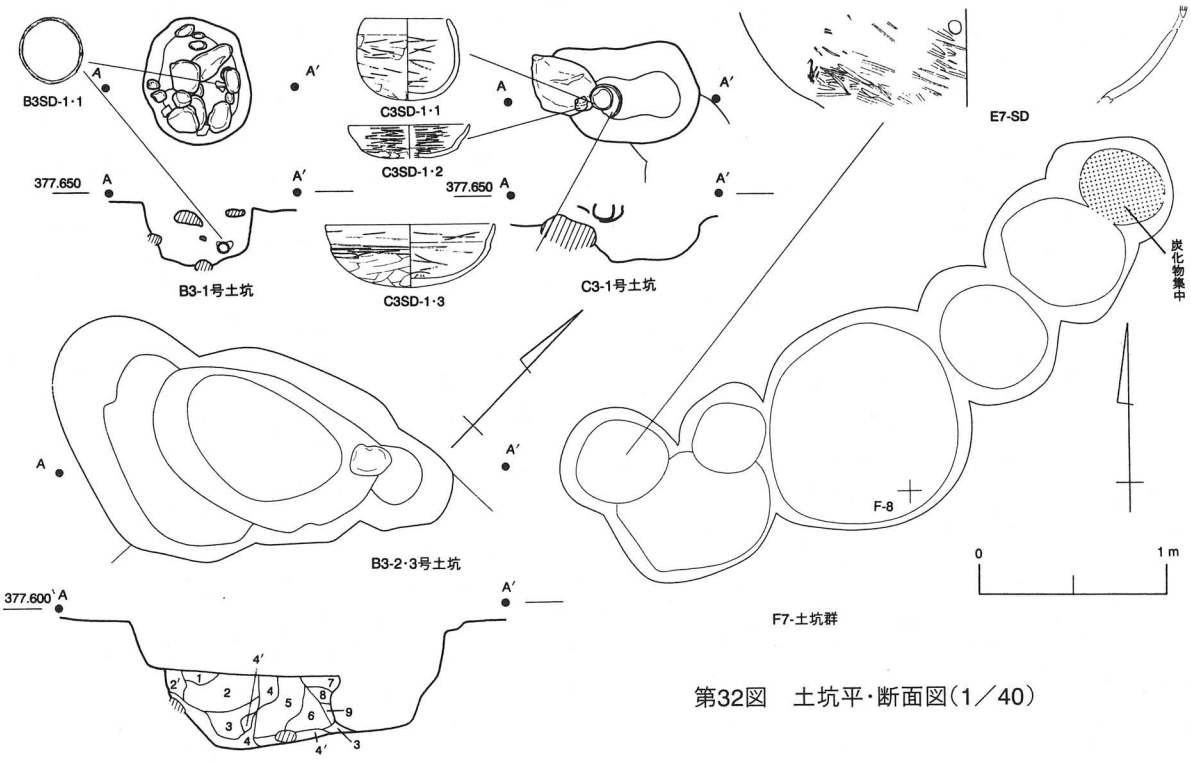
3a 暗黒褐色土 2aを微量混合
3b 〃 φ1～2mm炭化物をやや少し含む
3c 〃 3bに似るがしまりがやや強い
3d 3bに類似するがφ1mm鉄分を含んでいることから、1の範囲で考えるべきかもしれない
3e 3bに類似するが砂粒をやや多く含む、又、φ1cm 礫を少なく含む
下部はしまりがやや強いが分層する程の差ではない



きめ 3a·3b>2c>2a·2b>3c·1
粘性 3c>1·2a～2c>3a·3b
しまり 2a·2b·3>2c>1>3a·3b

第31a図 1号掘立柱建物跡平・断面図(1／60)

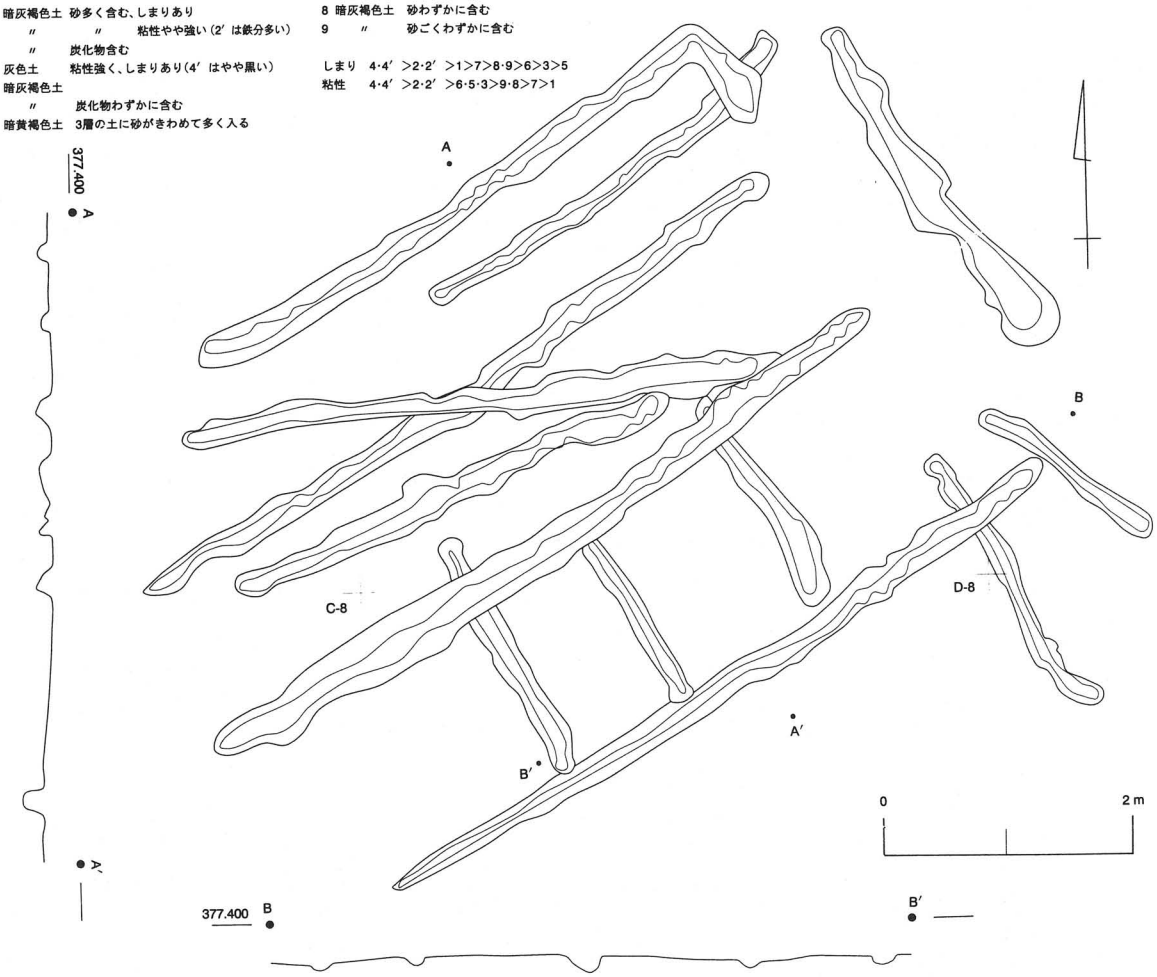
第31b図 2·3号掘立柱建物跡平・断面図(1／60)



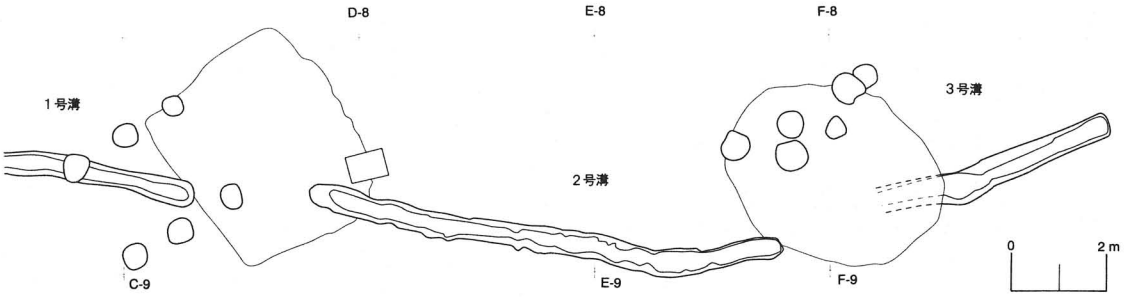
第32図　土坑平・断面図(1／40)

1 暗灰褐色土　砂多く含む、しまりあり
2　〃　〃　粘性やや強い（2′は鉄分多い）
3　〃　炭化物含む
4 灰色土　粘性強く、しまりあり（4′はやや黒い）
5 暗灰褐色土
6　〃　炭化物わずかに含む
7 暗黄褐色土　3層の土に砂がきわめて多く入る
8 暗灰褐色土　砂わずかに含む
9　〃　砂ごくわずかに含む

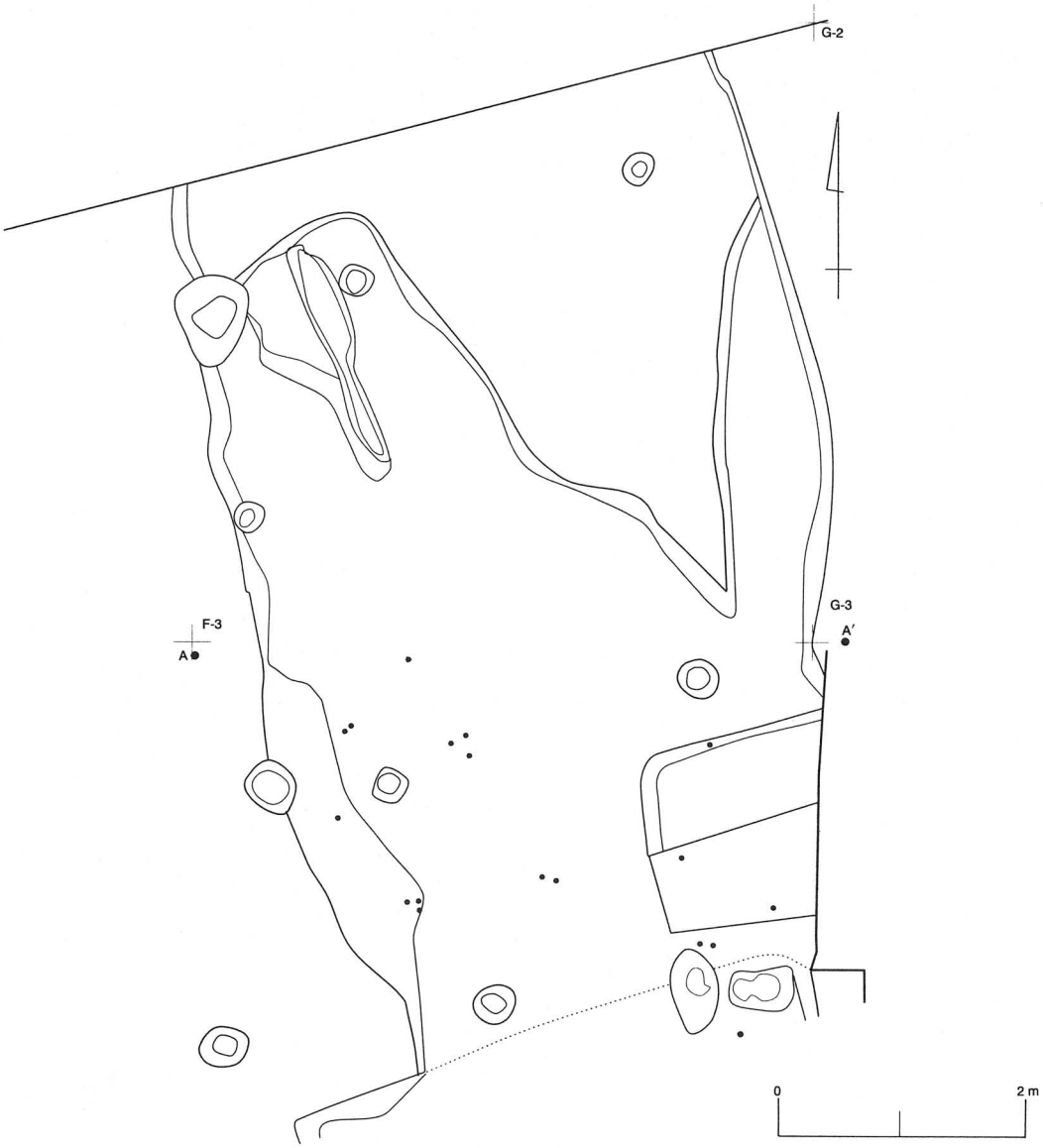
しまり　4・4′＞2・2′＞1＞7＞8・9＞6＞3＞5
粘性　4・4′＞2・2′＞6・5・3＞9・8＞7＞1



第33図　畝状遺構平・断面図(1／60)

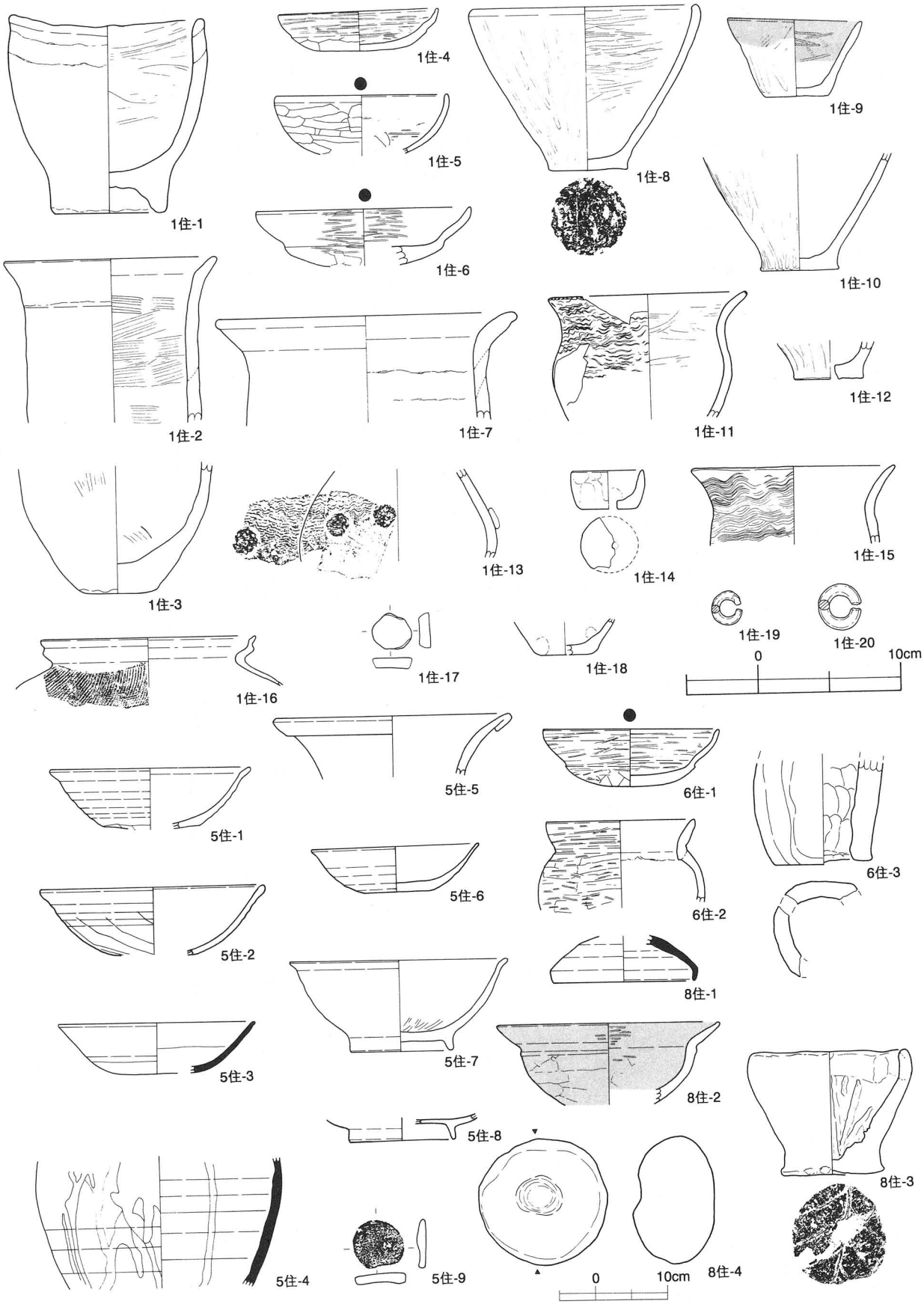


第34図　1･2･3号溝平面図(1／160)

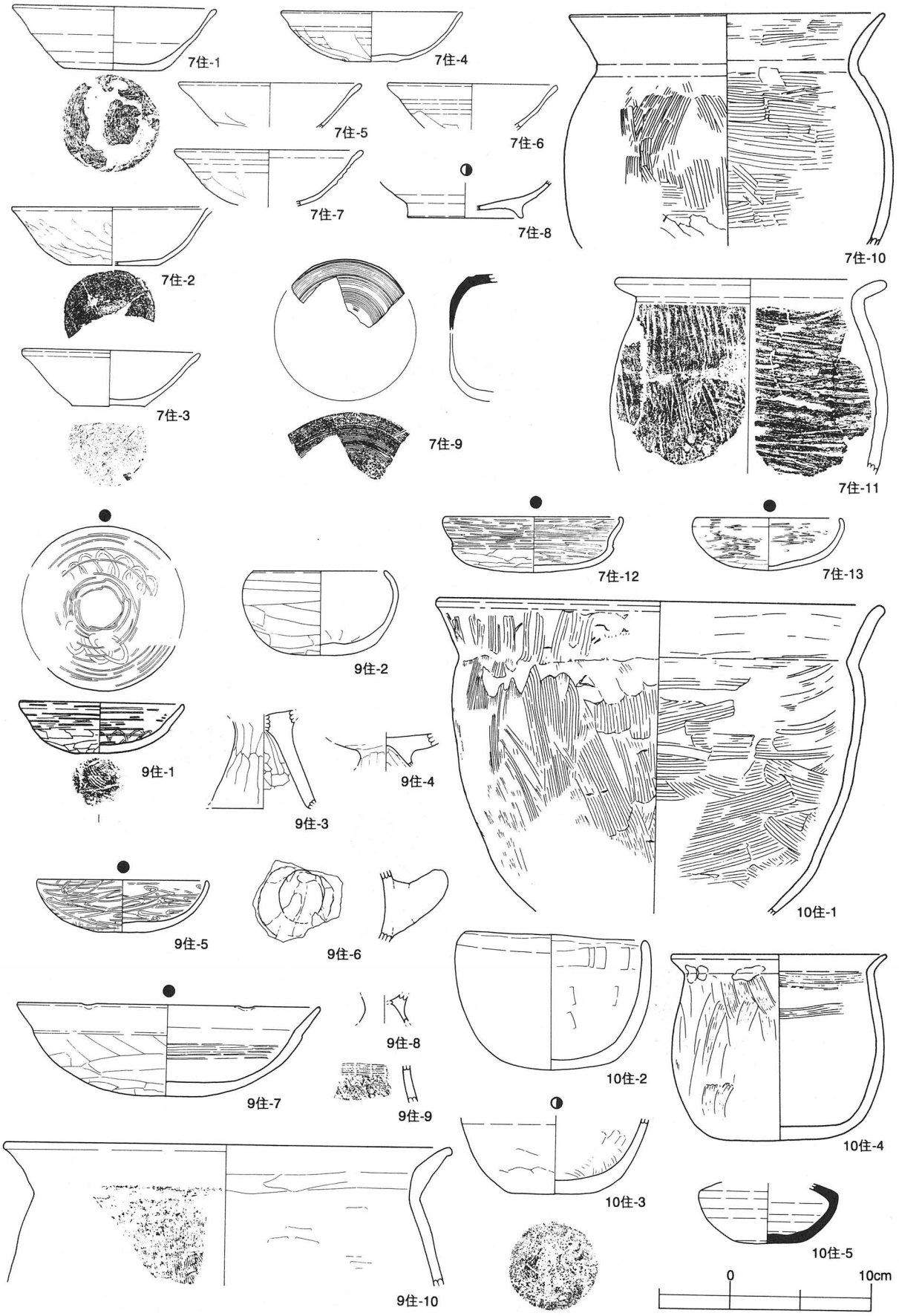


1	暗灰褐色土	焼土わずかに含む、砂含む	きめ	2>4>3>1
2a	〃	〃　鉄分なし、炭化物わずかに含む	粘性	2>1･3･4
2b	〃	2a+鉄分		
3a	〃	鉄分多い		
3b	〃	砂多い		
4	灰褐色土	鉄分わずかに含む、白色粒子多く含む		

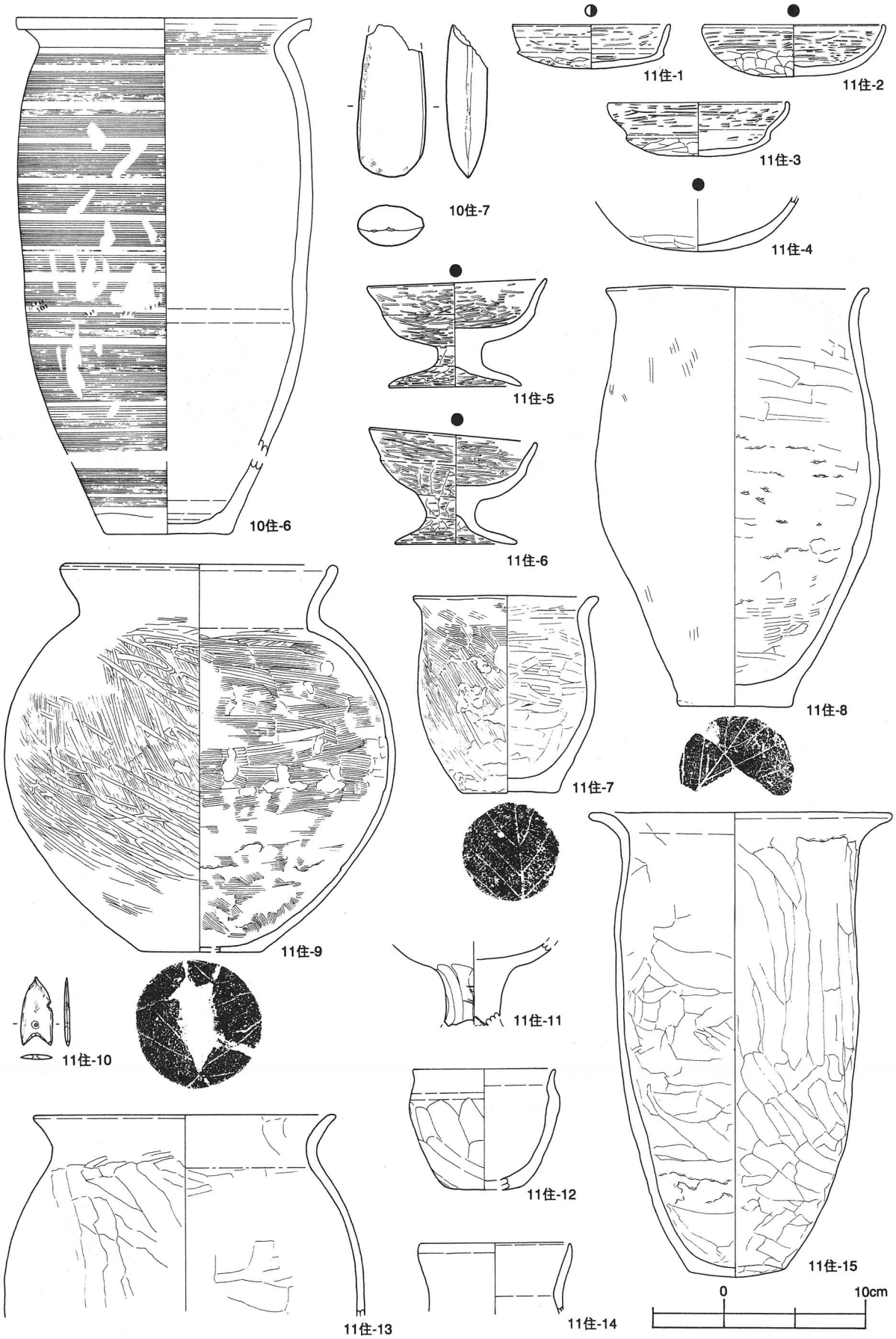
第35図　溝状遺構平･断面図(1／60)



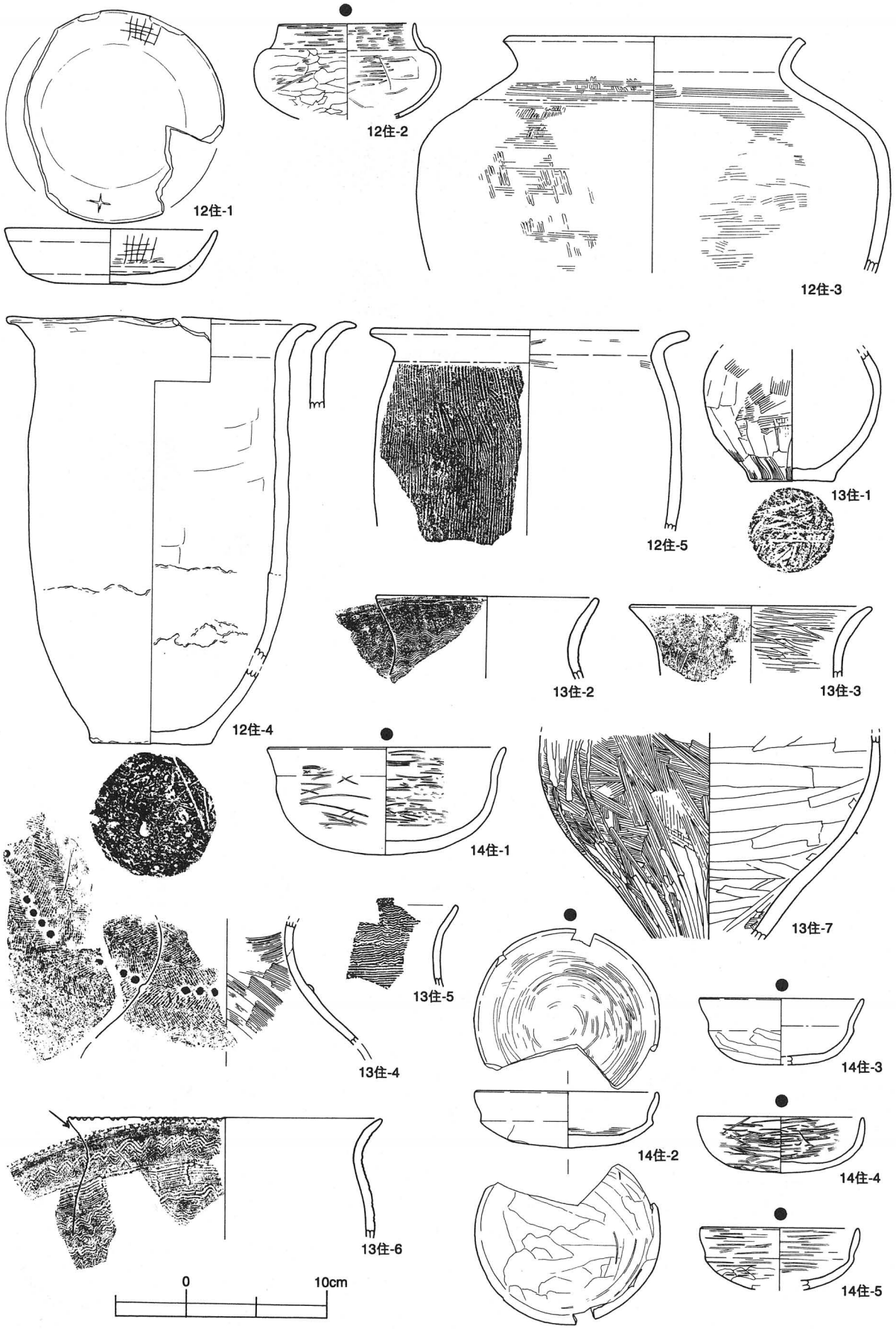
第36図　1･5･6･8号竪穴住居跡出土遺物



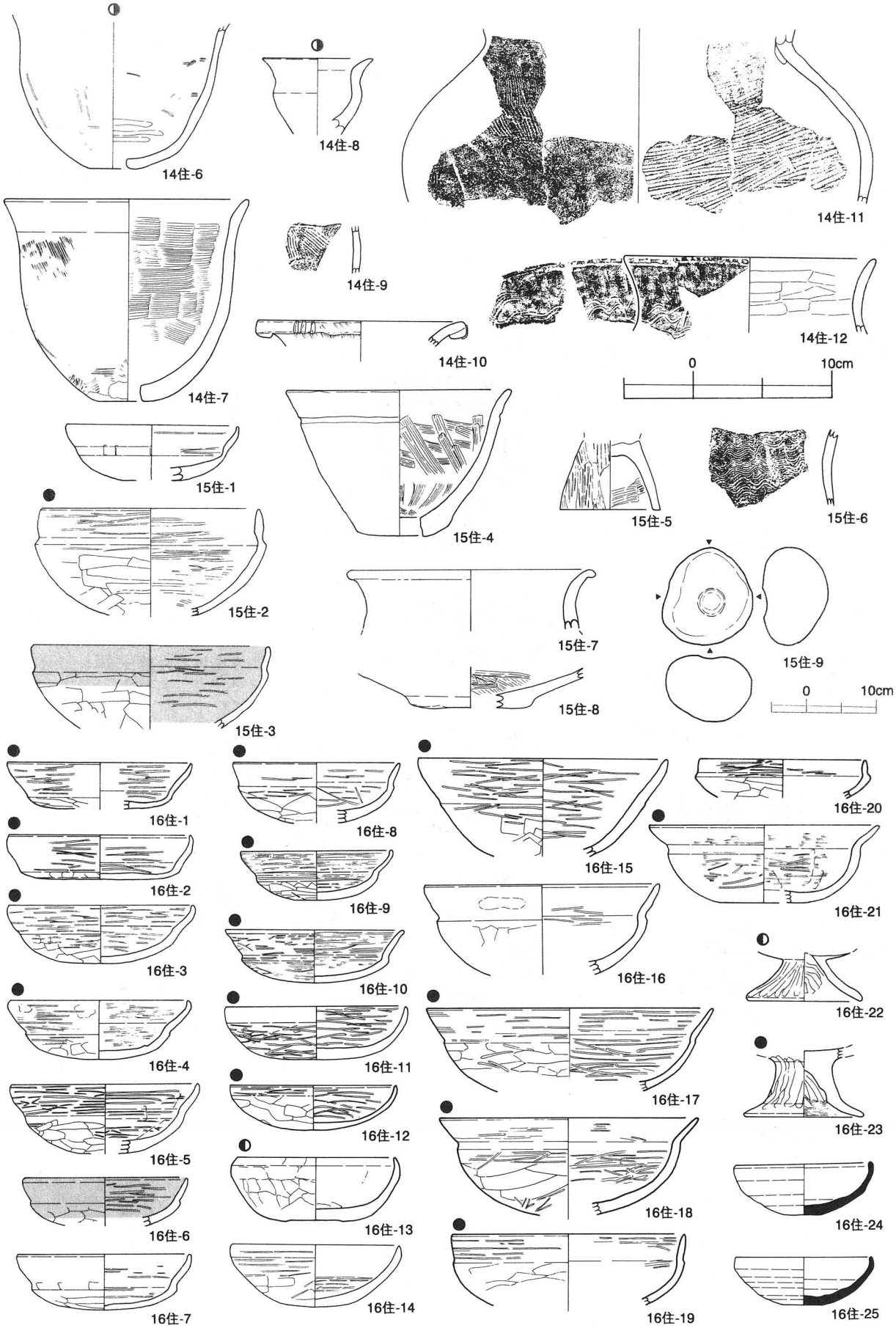
第37図　7･9･10号竪穴住居跡出土遺物



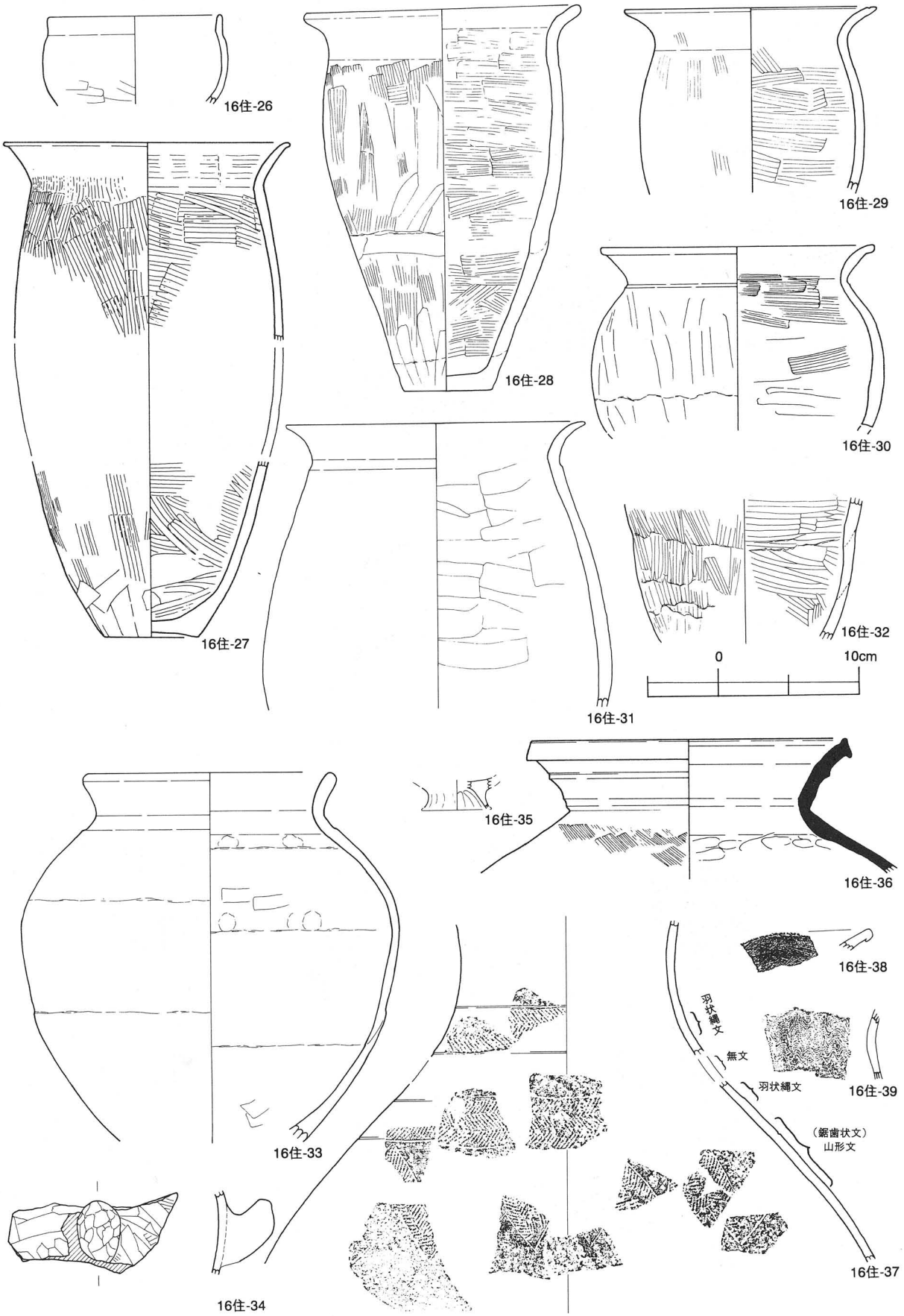
第38図　10・11号竪穴住居跡出土遺物



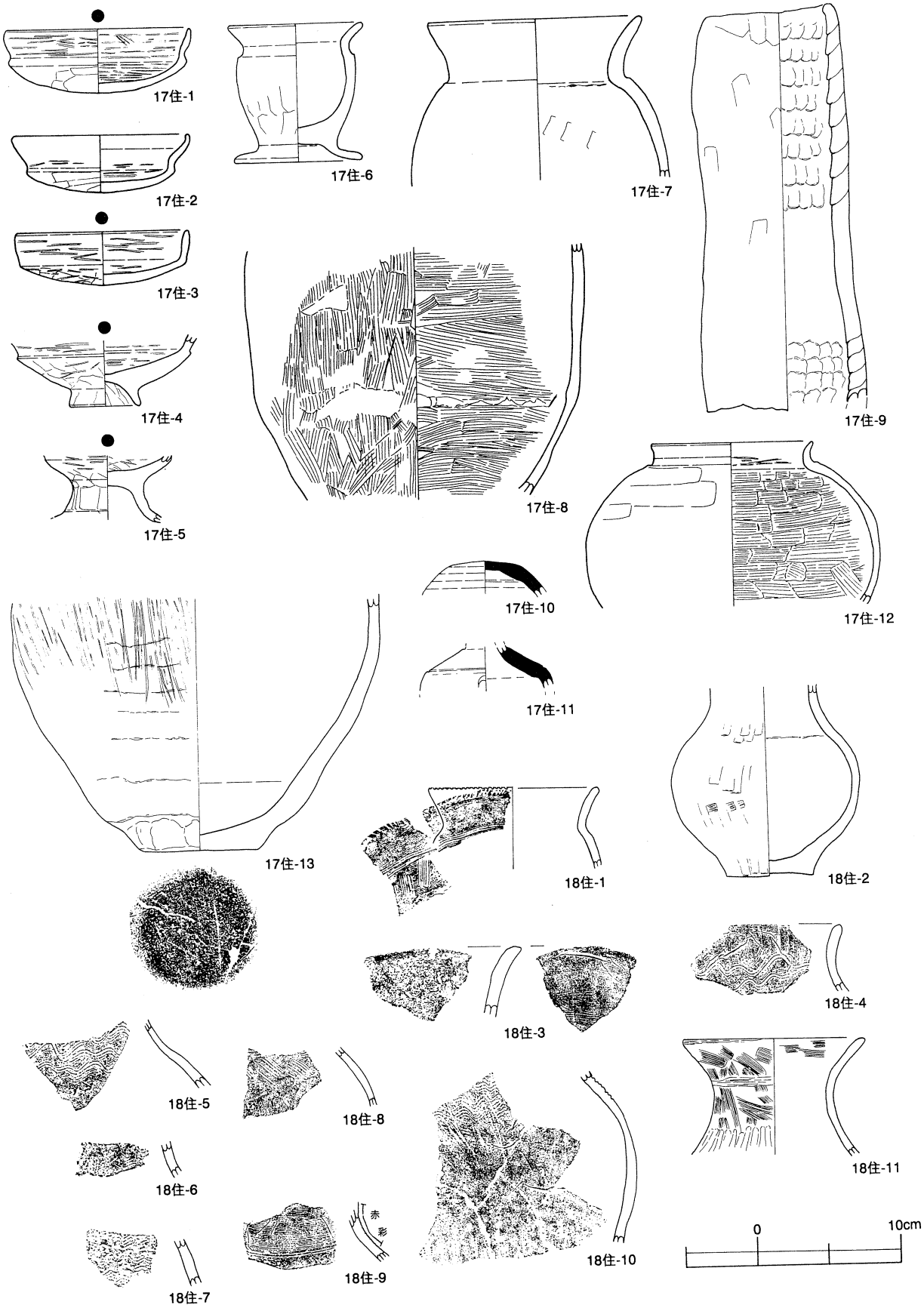
第39図　12・13・14号竪穴住居跡出土遺物



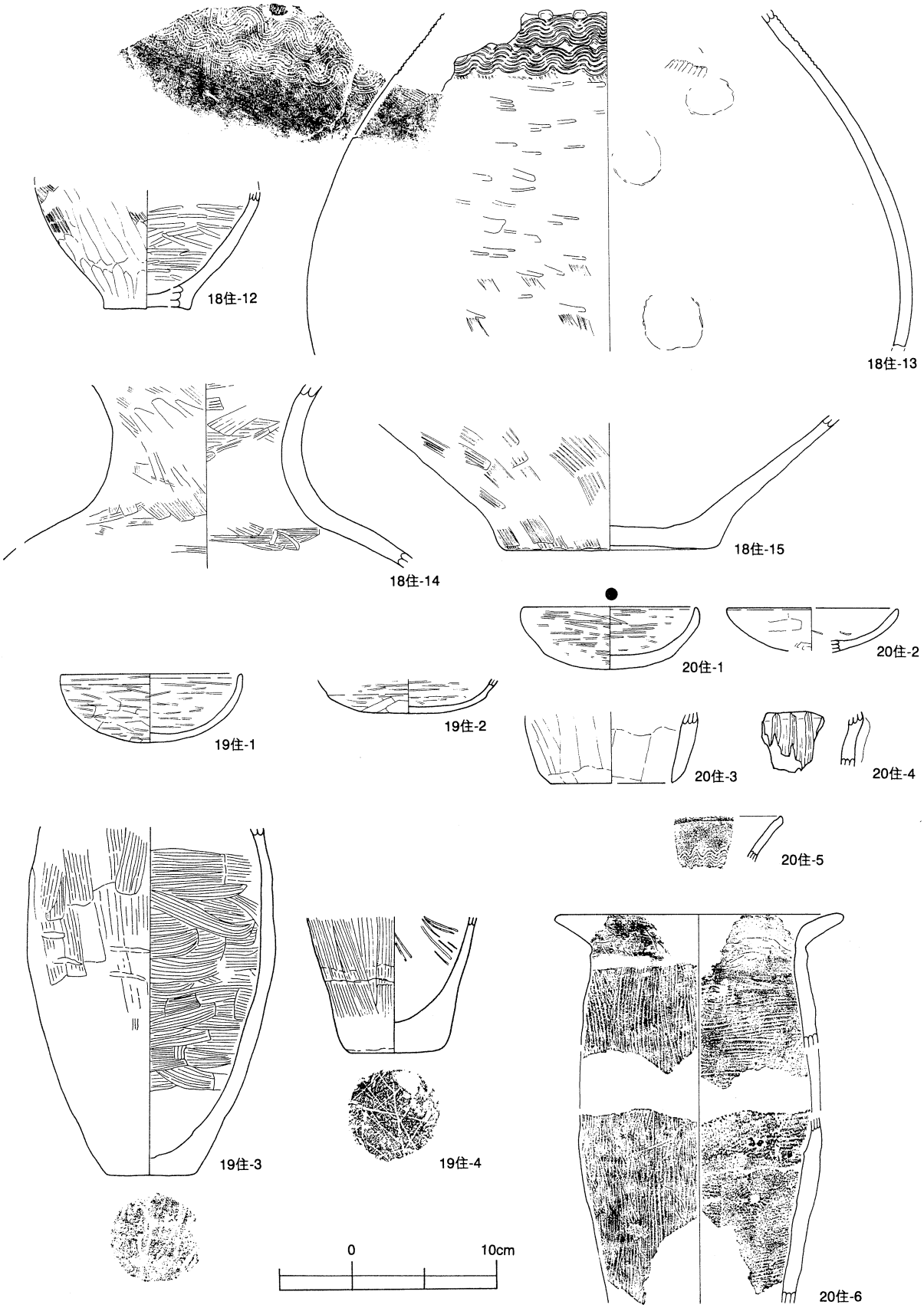
第40図　14･15･16号竪穴住居跡出土遺物



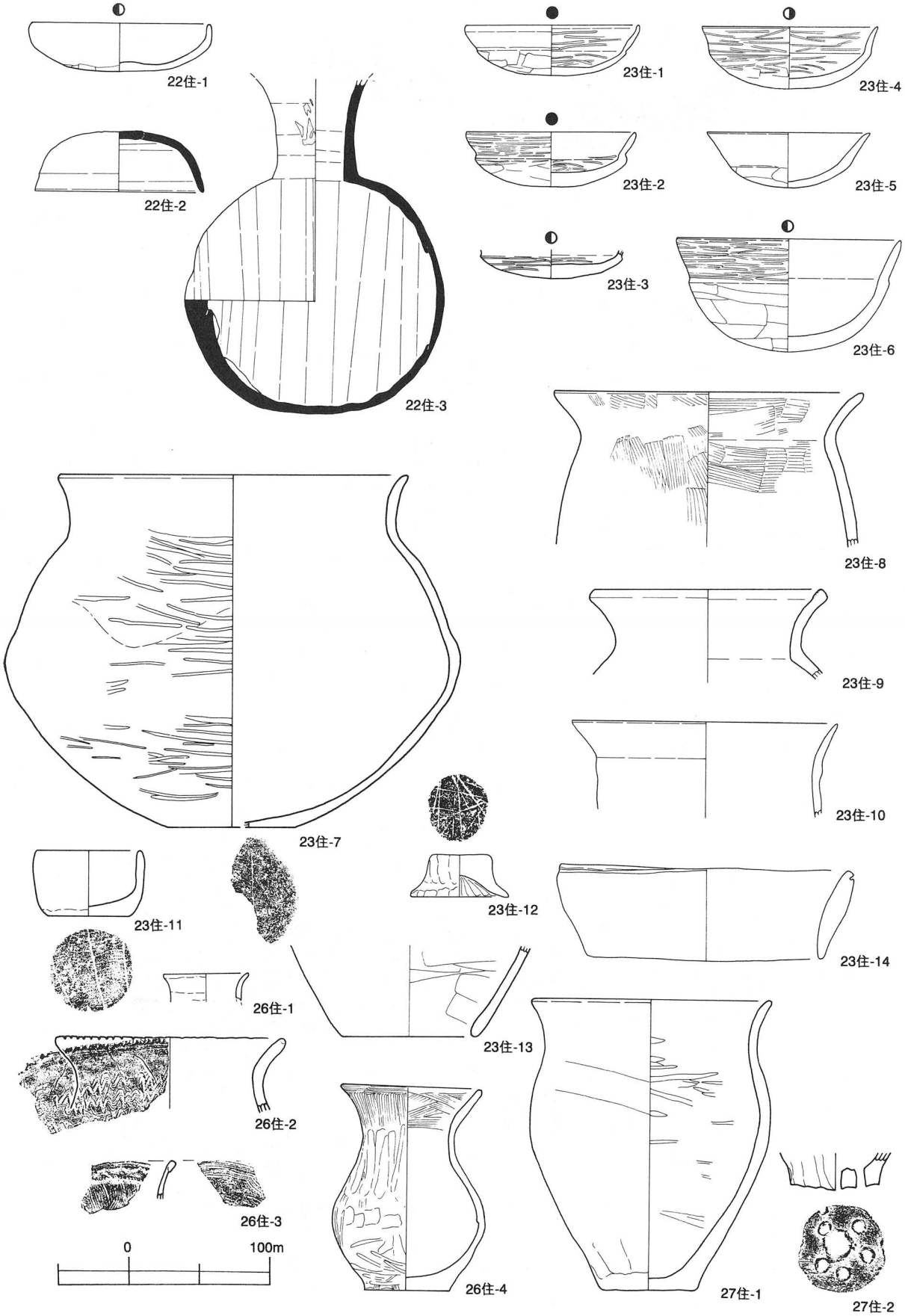
第41図　16号竪穴住居跡出土遺物



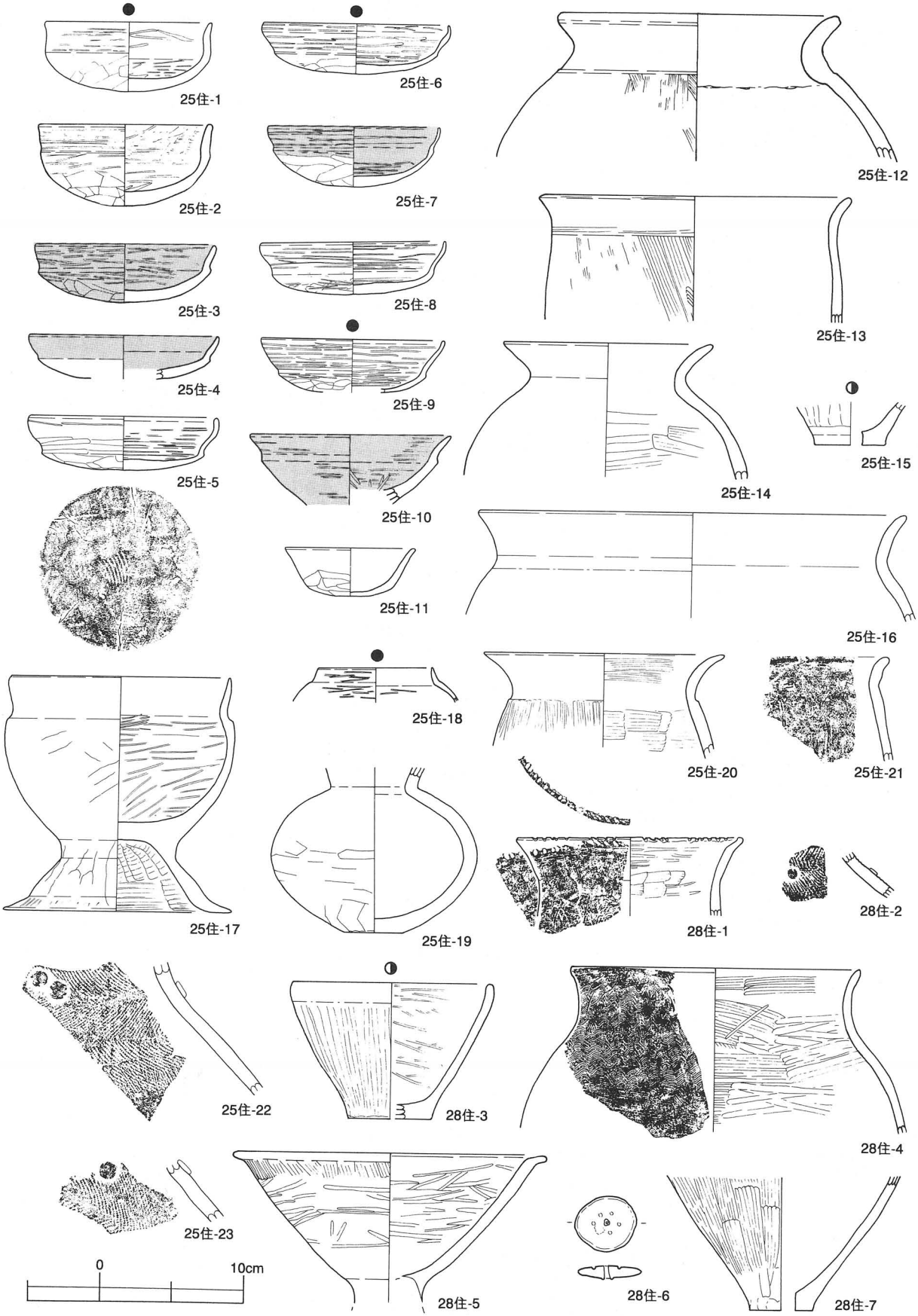
第42図　17･18号竪穴住居跡出土遺物



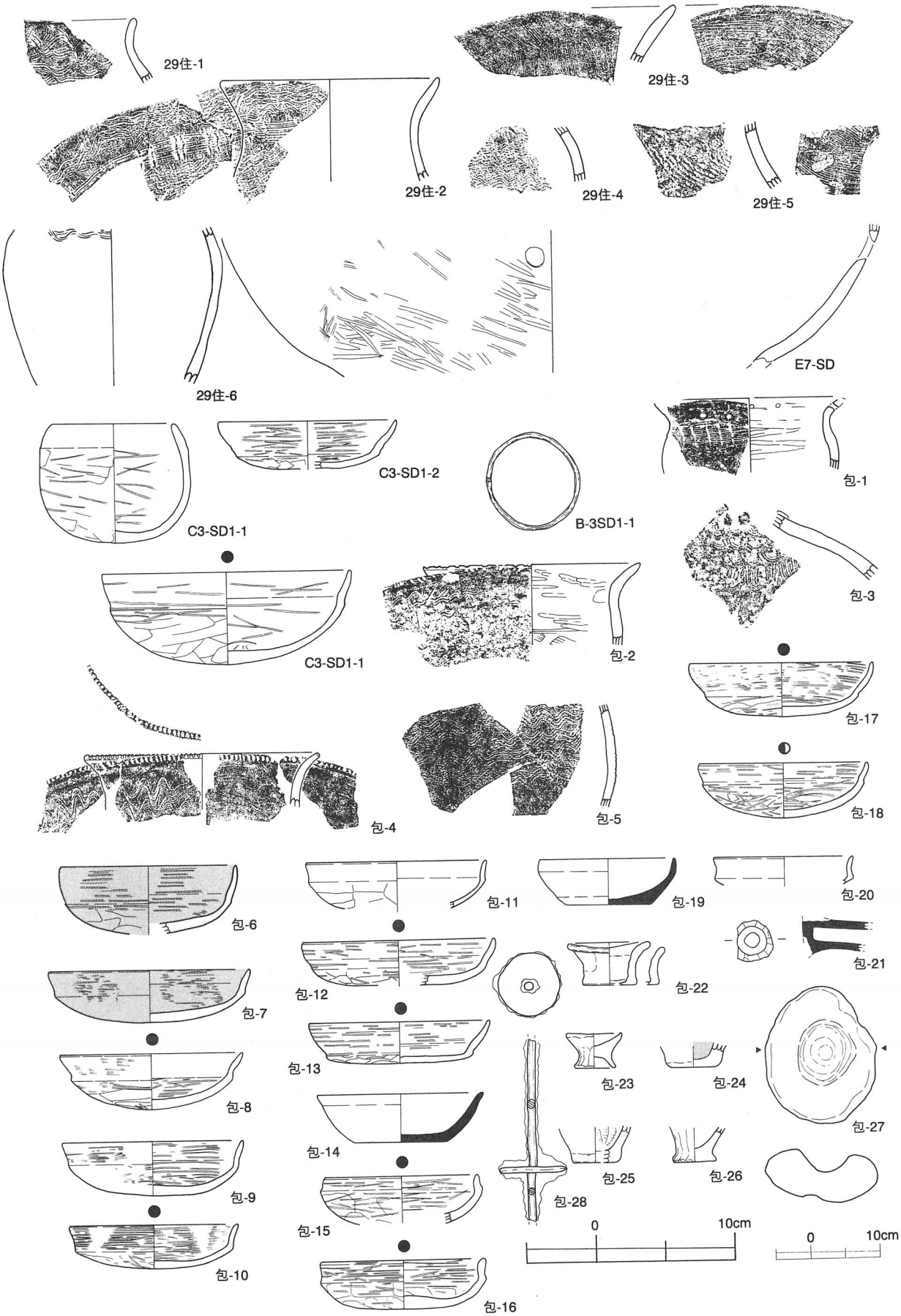
第43図　18･19･20号竪穴住居跡出土遺物



第44図　22・23・26・27号竪穴住居跡出土遺物



第45図　25･28号竪穴住居跡出土遺物



第46図　29号竪穴住居跡・土坑・包含層出土遺物

出土土器・土製品観察表

出土位置	層位	器種	時期	法量(cm)	色調(内・外)	胎土	調整	残存率
1住-1	ｶﾏﾄﾞ内	台付甕	古墳	13.5 13 8	灰褐色 橙色	白、赤、黒色粒子を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-輪積痕	1/2
1住-2	ｶﾏﾄﾞ内	甕	古墳	14.8 - -	にぶい赤褐色 橙色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ 外-縦ｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	破片
1住-3	ｶﾏﾄﾞ内	長胴甕	古墳	- - 5	暗赤褐色 赤褐色	粗い赤色、白・黒色粒子	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ？ 外-縦ﾊｹﾒ	体部～底部破片
1住-4	フク	坏	古墳	11.2 2.8 5	褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内-横ﾐｶﾞｷ 外-横ﾐｶﾞｷ　体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/6
1住-5	フク	坏	古墳	12 - -	灰褐色 褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ少 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ　黒色処理	1/6
1住-6	フク	坏	古墳	15.1 - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾐｶﾞｷ	1/5
1住-7	フク	甕	古墳	20.8 - -	灰褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	輪積痕 内-横ﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ→縦ﾅﾃﾞ	口縁～体部破片
1住-8	フク	鉢	弥生	15.8 11.6 5.5	赤色 赤色	白、赤色粒子と雲母を含む	内外赤彩 内-横ﾐｶﾞｷ 外-丁寧な縦ﾐｶﾞｷ　底部木葉痕？	1/4
1住-9	床直	小鉢	弥生	9.4 5.5 4.3	赤色～明褐灰色 口縁赤色体部にぶい橙色	白、赤色粒子と雲母を含む	内外面赤彩 内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾊｹﾒ　体部ﾍﾗﾅﾃﾞ	ほぼ完形
1住-10	フク	壷	弥生	- - -	黄灰色 にぶい褐色	白、黒色粒子と雲母を含む	外-ﾐｶﾞｷ状縦ﾅﾃﾞ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体下部～底部破片
1住-11	フク	甕	弥生	14 - -	にぶい橙色 褐色	白色粒子と雲母を含む	内-ﾊｹ→ﾅﾃﾞ 外-口縁部ｷｻﾞﾐﾒ　口縁～体部波状文	口縁部破片
1住-12	フク	甑	弥生	- - -	にぶい橙色 灰褐色	白、黒色粒子を含む	外-ﾊｹﾒ	底部破片
1住-13	フク	壷	弥生	- - -	橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-横ﾊｹﾒ？ 外-体部波状文　ﾎﾞﾀﾝ状貼付文	破片
1住-14	フク	ﾐﾆﾁｭｱ土器(甑)	■	4.9 2.7 3.8	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子と雲母を含む	底部中央に単孔 内-横ﾅﾃﾞ 外-縦ｹｽﾞﾘ(上部に指頭痕残)	1/4
1住-15	床直	甕	弥生	14.2 - -	橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ状横ﾅﾃﾞ 外-櫛描波状文	口縁部破片
1住-16	床直	甕	弥生～古墳	15.1 - -	橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	S字状口縁 外-ﾊｹﾒ	口縁部破片
1住-17	フク	土器片製円盤	■	2.7 0.7 -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色		側縁部全磨滅	完形
1住-18	フク	ﾐﾆﾁｭｱ土器	古墳	- - 3.5	橙色 橙色	白、黒色粒子を含む	内-横ﾅﾃﾞ 外-横ﾍﾗﾅﾃﾞ(指頭痕底部付有)	体部～底部破片
5住-1	ｶﾏﾄﾞ周	坏	平安	14 4.5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子を含む	ﾛｸﾛ指ﾅﾃﾞ、 外-底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部3/4
5住-2	フク	坏	平安	16 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　体部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/4
5住-3	フク	須恵坏	平安	13.6 3.6 5	灰白色 灰白色	白、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形 内-灰釉のﾊｹｶﾞｹか？ 外-体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/5
5住-4	フク	須恵甕	平安	- - -	灰白色 灰白色	白、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形 内-灰釉 外-灰釉　胴部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	胴部破片

5住-5	フク	壷	弥生 平安	16.3 - -	にぶい橙色 オリーブ黒色	白、黒色粒子、雲母を含む	内-横ﾅﾃﾞ 外-口唇部横ﾅﾃﾞ　胴部横ﾊｹｰ丁寧な縦ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部破片
5住-6	ｶﾏﾄﾞ 内	坏	平安	12 3.2 4.8	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ほぼ完形
5住-7	ｶﾏﾄﾞ 内	椀	平安	15.4 6.5 7.2	黒色 橙色	白、黒色粒子を含む	内-黒色付着物	ほぼ完形
5住-8	ｶﾏﾄﾞ 内	椀	平安	- - 7.6	灰黄褐色 灰黄褐色	白色粒子を含む	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	底部破片
5住-9	フク	土器片 製円盤	弥生	5.5mm 短3.4長3.7 重量10.6ｇ	にぶい赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	側面全摩滅	
6住-1	フク	坏	古墳	12.3 4.2 -	黒褐色　黒褐色	赤色粒子を含む	内外-丁寧な横ﾐｶﾞｷ	1/2
6住-2	フク	鉢	古墳	10.4 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	赤色粒子を含む	内-口縁部指ﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ→横ﾐｶﾞｷ　輪積痕	口縁部1/4
6住-3	床直	円筒形 土器	古墳	- - 7	明褐色 橙色	白色粒子を含む	内-指頭痕 外-四方と角をｹｽﾞﾘ	底部破片
7住-1	ｶﾏﾄﾞ 周	坏	平安	14.4 4.5 7	明黄褐色 明黄褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	ﾛｸﾛ整形 外-底部回転糸切痕、一部剥離 器面摩滅によりｻﾞﾗﾂｷｱﾘ	口縁部3/4 欠損
7住-2	フク	坏	平安	14.3 4.2 6.5	明赤褐色 橙色	白、赤色粒子、雲母を含む	外-体部ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ　底部回転糸切→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	2/5
7住-3	フク	坏	平安	12.8 4 5.2	にぶい橙色 にぶい橙色	白、赤色粒子を含む	内-ﾛｸﾛ回転ﾅﾃﾞ 外-ﾛｸﾛ回転ﾅﾃﾞ 底-回転糸切痕	ほぼ完形
7住-4	フク	坏	平安	13 3.6 -	にぶい橙色 明赤褐色	白色粒子を含む	内-ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8 底部1/2
7住-5	フク	坏	平安	12.2 - -	にぶい橙色 明赤褐色	白色粒子を含む	内-ﾛｸﾛ回転ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾛｸﾛ回転ﾅﾃﾞ　胴部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/4
7住-6	下層	坏	平安	13.2 - -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、黒色粒子を含む	内-ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/4
7住-7	ｶﾏﾄﾞ 周	坏	古墳	17.6 - -	にぶい橙色 橙色	白、赤、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形 内-口縁部指ﾅﾃﾞ 外-口縁部指ﾅﾃﾞ	1/3
7住-8	ｶﾏﾄﾞ 内	高台付 坏	平安	- - 8.2	黒色 灰黄色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ、暗文 外-磨滅によりｻﾞﾗﾂｷｱﾘ	底部破片
7住-9	フク	須恵 提瓶	古墳	- - -	灰色 灰色	白色粒子を含む	外-体部同心円状ｶｷﾒ	体部破片
7住-10	下層	甕	古墳	22.4 - -	橙色 橙色一部黒変	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-口縁横指ﾅﾃﾞ　胴部縦ﾊｹﾒ 胴下部ﾅﾃﾞ　頸部丁寧なﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部破片
7住-11	床直	甕	平安	19 - -	にぶい赤褐色～褐灰色 明赤褐色	白、赤色粒子(粗い)、雲母を含む	内-口縁部指ﾅﾃﾞ　体部棒状工具ｏｒ半竹外皮による横ﾅﾃﾞ 外-口縁部指ﾅﾃﾞ　体部５mm半竹状工具を束ねたﾊｹ状工具によるﾊｹﾒ	口縁部破片
7住-12	上層	坏	古墳	12.7 4 7.6	にぶい赤褐色 橙色～にぶい褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾐｶﾞｷ体下～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/3
7住-13	床直	坏	古墳	10.4 3.8 -	灰黄褐色 灰黄褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内外-ﾍﾗｰﾐｶﾞｷ	口縁部欠損
8住-1	下層	須恵蓋	古墳	9.9 - -	灰色 灰色一部暗灰色	白、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形	縁端～体部破片
8住-2	床直	高坏	古墳	15.7 - -	赤色 赤色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-下部ﾍﾗｰﾐｶﾞｷ 外-体部ﾍﾗ、 内外-口縁部ﾐｶﾞｷ	口縁部破片

8住-3	床直	小甕	古墳	10.7 8.7 -	にぶい橙色 にぶい橙色	粗い赤、白色粒子、 雲母を含む	内-整形時ﾍﾗ痕　上部横ﾅﾃﾞ　底部木葉痕 外-ﾅﾃﾞ	2/3
9住-1	下層	坏	古墳	11.6 3.5 2.7	黒褐色 黒褐色	赤色粒子、砂粒（少量）を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部指ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部回転糸切り	2/3
9住-2	床直	椀	古墳	9.2 6 4	明褐色 明褐色	白、赤色粒子、砂粒子を含む	内-口縁部指ﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、口縁部ﾅﾃﾞ　底部中央盛り上がる	1/4
9住-3	上層	高坏	古墳	- - -	橙色 橙色	砂粒子を含む	内外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部のみ 1/2
9住-4	フク	高坏	古墳	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	細かな白色粒子の目立つ砂粒を含む	内-脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ 外-脚部ﾐｶﾞｷ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部破片
9住-5	上層	坏	古墳	12.1 3.7 3.7	褐色 褐色	白色粒子、砂粒を含む	内外-ﾐｶﾞｷ 外-底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/2
9住-6	上層	甑	古墳	- - -	明褐色 明褐色	白、赤、黒色粒子、 雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-指ﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾅﾃﾞ、爪痕	把手部のみ
9住-7	下層	大型坏	古墳	21.4 6.5 -	褐色 褐色	白色粒子の目立つ砂粒を含む	内-ﾐｶﾞｷ、口縁部横指ﾅﾃﾞ 外-口縁部横指ﾅﾃﾞ　体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ　口唇部外反する小さな窪み	1/5
9住-8	フク	ﾐﾆﾁｭｱ土器	古墳	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、 黒雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾊｹ	1/4
9住-9	フク	壷	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂粒子を含む	外-簾状文、波状文	胴部破片
9住-10	下層	甕	古墳	31.6 - -	黒褐色 黒褐色	白色粒子の目立つ砂粒を含む	内-口縁部横指ﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ、縦ﾅﾃﾞ 外-口縁部横指ﾅﾃﾞ　胴部縦ﾊｹﾒ	口縁部破片
10住-1	床直	甕	平安	31.2 - -	にぶい橙色～赤橙色 にぶい橙色～赤橙色	径2～3mmの白色礫、白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-縦ﾊｹﾒ	胴下部～底部欠損
10住-2	ｶﾏﾄﾞ周	鉢	平安	12.8 9.5 8	にぶい橙色（口縁褐灰色） 橙色～赤橙色	白、赤、黒色粒子を含む	内-口縁部付近横ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-熱による剥落が激しい　体部下半（底部）ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ほぼ完形
10住-3	フク	鉢	平安	6 - -	黒褐色暗褐色 黒褐色暗褐色	やや粗い白色粒子が目立つ赤、黒色粒子を微量に含む	内-ﾐｶﾞｷ？　見込み部横ﾊｹﾒ 外-器面ｻﾞﾗﾂｷ　底部木葉痕	底部破片
10住-4	ｶﾏﾄﾞ内	小型甕	平安	15 13.3 8	にぶい橙色 橙色～灰褐色	白、黒色粒子、雲母を含む	内-横ﾅﾃﾞ　胴上部一部横ﾊｹﾒｱﾘ 外-口縁部横ﾅﾃﾞ　胴部縦ﾊｹﾒ	4/5
10住-5	フク	須恵平瓶	平安	5 - -	灰白色 灰白色	白、黒色粒子を含む	内-見込み部自然釉 外-肩部自然釉　底部自然釉塊付着 底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾅﾃﾞ？	肩部～底部破片
10住-6	ｶﾏﾄﾞ内	甕	平安	20.8 - -	橙色～明赤褐色 橙色～明赤褐色	白、赤、黒色粒子、 雲母を含む	内-頸部横ﾊｹﾒ　胴部横ﾅﾃﾞ 外-口縁部横ﾅﾃﾞ　胴部横ｶｷﾒ輪積付近にﾀﾀｷﾒ	底部欠損
11住-1	下層	坏	古墳	11 3.1 -	にぶい橙色 橙色	赤色粒子が目立つ白、黒色粒子、雲母も含む	内-ﾐｶﾞｷ 底-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	4/5
11住-2	床直	坏	古墳	12.7 3.7 -	にぶい橙色～にぶい赤褐色 にぶい橙色～にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	完形
11住-3	床直	坏	古墳	12.7 3.8 -	橙色～明赤褐色 橙色～明赤褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	3/5
11住-4	床直	椀	古墳	- - -	灰褐色 灰褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ？ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部のみ
11住-5	床直	高坏	古墳	12.7 7.3 9.4	浅黄橙色～にぶい赤褐色 橙色～にぶい赤褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-丁寧なﾐｶﾞｷ 外-丁寧なﾐｶﾞｷ　脚部縦ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾐｶﾞｷ	5/6
11住-6	床直	高坏	古墳	11.9 7.7 8.5	暗赤褐色 暗赤褐色～橙色	白、赤、黒色粒子、 雲母を含む	内-ﾍﾗｹｽﾞﾘ一丁寧なﾐｶﾞｷ 外-体部～脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ一丁寧なﾐｶﾞｷ	口縁一部欠損

11住-7	下層	小型甕	古墳	12.8 14 6.7	赤色 一部黒変	白、赤色粒子、雲母を含む	内-横ﾊｹﾒ一横ﾅﾃﾞ 外-斜縦ﾊｹﾒ一下部ﾅﾃﾞ　底部-木葉痕 口縁横ﾅﾃﾞ	ほぼ完形
11住-8	床直	甕	古墳	18.4 29.6 7.9	明赤褐色～極暗赤褐色 橙色～にぶい赤褐色一部黒変	白、赤色粒子、雲母を含む	内-口縁横ﾅﾃﾞ　胴部横ﾅﾃﾞ　胴下部ﾊｹﾒ整形痕 外-ﾊｹﾒ一ﾅﾃﾞ？　底部木葉痕	1/3
11住-9	床直	甕	古墳	19.2 27.6 8.5	にぶい橙色一部黒変 にぶい橙色一部黒変	内一横ﾊｹﾒ指頭痕 外一ﾊｹ整形一ﾐｶﾞｷ口縁横ﾅﾃﾞ底部木葉痕	内-横ﾊｹﾒ、指頭痕 外-ﾊｹ整形一ﾐｶﾞｷ　口縁内外横ﾅﾃﾞ 底部木葉痕	1/3
11住-11	床直	高坏	古墳	- - -	橙色みこみ部明赤褐色 橙色みこみ部明赤褐色	やや粗い赤色粒子、雲母、白、黒色粒子含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-脚台部ﾍﾗ縦ﾅﾃﾞ　横方向の暗文あり	脚台部破片
11住-12	下層	鉢	古墳	9.9 8.6 -	にぶい橙色～灰褐色 にぶい橙色～灰褐色	粗い白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-横ﾅﾃﾞ 外-口縁部横ﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	2/1
11住-13	床直	甕	古墳	21.1 - -	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-口縁、胴部横ﾅﾃﾞ 外-胴部縦斜め方向ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部破片
11住-14	下層	小型甕	古墳	10.6 - -	灰褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子と雲母を含む	内-横ﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部破片
11住-15	下層	甕	古墳	21 32.9 6.7	にぶい橙色 にぶい橙色～赤褐色一部黒変	白、赤、黒色粒子(粗い)、雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-上半部縦ﾍﾗｹｽﾞﾘ　下半部斜めﾍﾗｹｽﾞﾘ　底部静止ﾍﾗｹｽﾞﾘ　口縁横ﾅﾃﾞ	3/4
12住-1	フク	坏	奈良	15 3.9 7.6	にぶい黄橙色～橙色 明赤褐色～淡黄色	やや粗い白、黒色粒子、細かい赤色粒子、雲母を含む	内-体部５本の縦ﾗｲﾝ、十字刻み文、ﾐｶﾞｷ 外-体部横ﾅﾃﾞ　下部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	3/4
12住-2	フク	椀	古墳	9.6 - -	灰黄褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-口縁部丁寧なﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗ調整、ﾐｶﾞｷ痕 外-口縁部丁寧な横ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾐｶﾞｷ痕	1/4
12住-3	フク	甕	奈良	27 - -	明赤褐色 一部黒変	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-上部ｶｷﾒ、下部ﾊｹﾒ？ 外-ﾀﾀｷ一ｶｷﾒ	口縁部破片
12住-4	床直	甕	古墳	22.8 30.3 8.3	橙色、一部黒変 橙色、一部黒変	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-口縁部横ﾅﾃﾞ　胴部ﾍﾗ状工具による調整痕　下部ﾅﾃﾞ 外-ﾅﾃﾞ	2/3
12住-5	フク	甕	古墳	22.2 - -	にぶい橙色 明赤褐色～橙色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-横ﾊｹ調整一ﾍﾗﾅﾃﾞ？ 外-口縁部横ﾅﾃﾞ　胴部縦ﾊｹﾒ	口縁部破片
13住-1	フク	壷	弥生	- - 6	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白色粒子の目立つ砂粒を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-全体ﾊｹﾒ調整一縦ﾍﾗｹｽﾞﾘ一横ﾅﾃﾞ	上部欠損
13住-2	上層	甕	弥生	16 - -	橙色 橙色	白、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾅﾃﾞ、波状文	口縁部破片
13住-3	下層	甕	弥生	17 - -	暗褐色 暗褐色	砂粒、金雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-縦ﾊｹﾒ	口縁部破片
13住-4	下層	壷	弥生	- - -	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	砂粒子を含む	内-ﾊｹﾒ 外-端部結節RL、LR縄文、4個一組のﾎﾞﾀﾝ状貼付文	頚部破片
13住-5	フク	甕	弥生	- - -	灰黄褐色 にぶい黄橙色	白、黒色粒子を含む	口唇部単節LR縄文の回転施文口縁部波状沈線文頚部櫛描平行　線文	口縁部破片
13住-6	フク	甕	弥生	22.4 - -	灰黄褐色 灰黄褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部刻み目　口縁下部波状文体上部簾状文体下部波状文	口縁部破片
13住-7	下層	甕	弥生	- - -	にぶい橙色 にぶい黄褐色	砂粒子を含む	内-ﾊｹﾒ一ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-ﾊｹﾒ一縦ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴下部破片
14住-1	ｶﾏﾄﾞ周	椀	古墳	16.8 7.7 5	黒褐色 灰褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-体部横ﾐｶﾞｷ 外-体部横ﾐｶﾞｷ	3/5

14住-2	下層	坏	古墳	12.9 4.1 5	にぶい橙色 橙色～にぶい橙色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-丁寧なﾐｶﾞｷ 外-ﾐｶﾞｷ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	3/4
14住-3	下層	坏	古墳	11.5 4.8 4	灰褐色 にぶい赤褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-横ﾅﾃﾞ 外-体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	2/5
14住-4	上層	坏	古墳	11.8 4 -	明赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内外-器面全体にﾐｶﾞｷ	7/8
14住-5	床直	坏	古墳	11.4 4.5 -	にぶい褐色 褐色	白色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	1/4
14住-6	床直	甑	古墳	- - 3.6	赤黒色 赤褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾊｹﾒ 外-縦横方向のﾊｹﾒ	口縁部欠損
14住-7	床直	甑	古墳	17.5 14.7 5	橙色 黒褐色～橙色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-横ﾊｹﾒ、体下部使用により摩滅？	5/6
14住-8	フク	台付椀	古墳	7.8 - -	黒褐色 橙色～淡橙色	白、赤、黒色粒子を含む	内-丁寧なﾅﾃﾞ 外-横ﾅﾃﾞ	2/5
14住-9	フク	甕	弥生	- - -	にぶい橙色 にぶい褐色	白、黒色粒子、金色雲母を含む	内-横ﾅﾃﾞ 外-斜位ﾊｹﾒ	破片
14住-10	フク	壷	弥生	15.4 - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口唇部三本隆帯	口縁部破片
14住-11	床直	壷	古墳	- - -	明赤褐色 橙色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-縦ﾊｹﾒ	胴部破片
14住-12	フク	甕	弥生	18.2 - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤色粒子、金色雲母を含む	内-ﾍﾗｹｽﾞﾘ 外-口唇部ｷｻﾞﾐ波状文	口縁部1/8
15住-1	下層	坏	古墳	12.4 4 -	明赤褐色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部1/4
15住-2	上層	大型坏	古墳	15.6 - -	灰褐色 灰褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁ﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	口縁部1/4
15住-3	下層	大型坏	古墳	17.2 - -	赤色 にぶい橙色	赤、黒色粒子、半透明粒子を含む	内-丁寧なﾐｶﾞｷ、ﾅﾃﾞ 外-口縁丁寧なﾐｶﾞｷ、ﾅﾃﾞ体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/2
15住-4	上層	甑	古墳	16.2 10.6 -	にぶい橙色(黒斑ｱﾘ) にぶい橙色(黒斑ｱﾘ)	白色、半透明粒子(石英)を含む	内-口縁横ﾅﾃﾞ　体部横ﾊｹﾒ→縦ﾊｹﾒ 外-口縁横ﾅﾃﾞ　体部粗いﾅﾃﾞ調整 底部横ﾅﾃﾞ	ほぼ完形
15住-5	下層	台付甕	古墳	- - -	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	脚部のみ
15住-6	下層	甕	弥生	- - -	黒褐色 褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-丁寧なﾅﾃﾞ 外-波状沈線文	胴部破片
15住-7	上層	甕	古墳	18 - -	にぶい橙色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内外-ﾅﾃﾞ	口縁部のみ 3/4残
15住-8	フク	甕	古墳	- - 8.8	にぶい橙色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾊｹﾒ 外-ﾅﾃﾞ	底部破片
16住-1	フク	坏	古墳	13.4 3.4 -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む、黒色雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-体部ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/8
16住-2	下層	坏	古墳	13.4 3.2 -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-頚部ﾐｶﾞｷ　底部ｹｽﾞﾘ	1/8
16住-3	ｶﾏﾄﾞ内	坏	古墳	13.6 5 -	にぶい橙色 にぶい橙色(半分は黒色)	赤色粒子が内外ともに目立つ	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	完形
16住-4	ｶﾏﾄﾞ内	坏	古墳	13.2 4.2 -	黒色、にぶい明黄褐色 にぶい橙色	赤色粒子が目立つ 白色粒子、金色粒子(僅か)	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	ほぼ完形
16住-5	中層	坏	古墳	13.6 5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ 外-体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ　口縁部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	口縁～体部 1/2
16住-5	下層	坏	古墳	12 - -	赤褐色 赤褐色	赤色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ 外-頚部ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ？ 体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/4

16住-7	下層	坏	古墳	12.6 - -	明赤褐色 橙色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ ｰﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ 体部ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾅﾃﾞ	口縁部1/2
16住-8	床直	坏	古墳	12 4.3 -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ ｰﾐｶﾞｷ 外-口縁横ﾅﾃﾞ 体部ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ横ﾐｶﾞｷ	1/4
16住-9	床直	坏	古墳	10.9 3.7 -	にぶい赤褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ(底部ﾍﾗﾅﾃﾞ痕ｱﾘ) 外-口縁部丁寧なﾐｶﾞｷ体上部ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ内外ともに指痕ｱﾘ(口縁部)	4/5
16住-10	下層	坏	古墳	12.8 3.9 -	にぶい橙色～灰褐色 にぶい橙色～灰褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ ｰﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗﾅﾃﾞ ｰﾐｶﾞｷ 外-口縁部丁寧なﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ	1/2
16住-11	下層	坏	古墳	13 3.8 -	にぶい褐色 にぶい橙色	白、赤色粒子	内-ﾐｶﾞｷ 外-頸部横ﾅﾃﾞ　体部ﾐｶﾞｷ	2/3
16住-12	下層	坏	古墳	12 32 -	黒色 黒色	白色粒子、黒雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-頸部ﾅﾃﾞ ｰﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/4
16住-13	中層	坏	古墳	11.6 4.5 -	黒褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾅﾃﾞ	口縁部～底部1/3
16住-14	床直	坏	古墳	12.2 4.5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-底部ﾐｶﾞｷ 外-頸部ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ	口縁部3/4
16住-15	下層	大型坏	古墳	18 - -	黒色 にぶい橙色～褐色	白、赤色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-頸部ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/4
16住-16	床直	大型坏	古墳	17 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/4
16住-17	下層	大型坏	古墳	20.4 - -	褐色 褐色	砂粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	体部1/3
16住-18	床直	大型坏	古墳	18.4 - -	黒色 暗褐色	白、赤色粒子、砂粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	体部1/3
16住-19	中層	大型坏	古墳	16.6 - -	褐色 褐色	赤色粒子、砂粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	口縁部破片
16住-20	フク	坏	古墳	12.2 - -	にぶい橙色 にぶい橙色	白色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ (一部ﾐｶﾞｷ?) 外-頸部ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/8
16住-21	床直	大型坏	古墳	16.5 5.6 5.8	黒色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ 体上部ﾍﾗﾅﾃﾞ 体上半ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ 外-口縁部ﾅﾃﾞ、体上部、上半、下部ともにﾍﾗﾅﾃﾞ ｰﾐｶﾞｷ	1/4
16住-22	下層	高坏	古墳	- - 8	にぶい橙色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ　脚部横ﾅﾃﾞ 外-脚部縦ﾍﾗﾅﾃﾞ　脚部横ﾅﾃﾞ	脚部破片
16住-23	下層	高坏	古墳	- - 8.3	にぶい赤褐色～灰褐色 にぶい赤褐色～灰褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ　裾部横ﾅﾃﾞ 外-脚部縦ﾍﾗﾅﾃﾞ　裾部横ﾅﾃﾞ	脚部破片
16住-24	上層	須恵坏	古墳	9.7 3.8 2.1	灰色 灰色	白、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形	4/5
16住-25	中層	須恵坏	古墳	9.7 3.5 2.8	灰色 灰色	白、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形	4/5
16住-26	下層	椀	古墳	12.4 - -	橙色 にぶい橙色	赤色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-頸部ﾅﾃﾞ　体部粗いﾅﾃﾞ	1/4
16住-27	下層	甕	古墳	20 - 6.6	暗赤褐色 暗赤褐色	大粒の白色粒子と砂粒子を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ　口縁部下半～頸部ﾊｹｰﾅﾃﾞ　胴部横ﾊｹ 外-口縁部上半丁寧なﾅﾃﾞ	口縁部、底部破片

16住-28	ｶﾏﾄﾞ内	甕	古墳	19.6 24.2 6.4	にぶい褐色 上にぶい赤褐色 下暗褐色	白、赤色粒子を含む	内-口縁上部横ﾅﾃﾞ（指か）口縁下部ﾊｹｰﾅﾃﾞ（多）体部ﾊｹｰﾅﾃﾞ（少） 外-口縁部横ﾅﾃﾞ（指か）　体部ﾊｹ一縦方向ﾅﾃﾞ　体下部輪積み一横ﾅﾃﾞ底部ﾍﾗﾅﾃﾞ	ほぼ完形
16住-29	下層	甕	古墳	17.8 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-頚部横ﾅﾃﾞ　胴部横ﾊｹ 外-胴部縦ﾊｹﾒ	口縁部1/4
16住-30	ｶﾏﾄﾞ内	甕	古墳	18.6 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子、黒雲母を含む	内-横ﾊｹ　横ﾅﾃﾞ 外-体部縦ﾅﾃﾞ(ﾍﾗ?)	口縁部1/8
16住-31	下層	甕	古墳	21.2 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-口縁部横ﾅﾃﾞ　胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-頚部ﾍﾗ横ﾅﾃﾞ	口縁部1/4
16住-32	中層	甕	古墳	- - -	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	白、赤色粒子を含む	内外-ﾊｹﾒ	胴部破片
16住-33	ｶﾏﾄﾞ内	甕	古墳	18 - -	橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子を含む	内-横ﾍﾗﾅﾃﾞ指頭痕、輪積痕残 外-頚部横ﾅﾃﾞ　体部縦ﾅﾃﾞ	6/8
16住-34	下層	甑	古墳	- - -	黒褐色 黒褐色	白、赤色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾊｹﾒ一ﾍﾗﾅﾃﾞ	把手部破片
16住-35	フク	ﾐﾆﾁｭｱ土器（高坏脚部）	古墳	- - -	褐灰色 褐灰色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗﾐｶﾞｷ一ﾅﾃﾞ	脚部破片
16住-36	上層	須恵甕	古墳	22.2 - -	灰白色 灰白色	砂粒子を含む	内-横ﾅﾃﾞ、指頭痕 外-ﾊｹﾒ、ｵﾘｰﾌﾞ灰色自然釉	口縁部破片
16住-37	上層	壷	弥生	- - -	にぶい橙色 にぶい黄橙色～暗灰黄色	粗い砂粒子を含む	外-縄文一沈線、磨消縄文	頚部、胴部破片
16住-38	フク	壷	弥生	- - -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾊｹ一ﾐｶﾞｷ 外-横ﾅﾃﾞ口唇部折返、ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部破片
16住-39	フク	甕	弥生	- - -	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	白、赤、黒色粒子を含む	内-頚部指頭痕ありﾅﾃﾞ 外-櫛描波状文	頚部破片 1/8
17住-1	ｶﾏﾄﾞ周	坏	古墳	13 4.5 -	にぶい黄褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	ほぼ完形
17住-2	ｶﾏﾄﾞ周	坏	古墳	12.4 4 -	橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子と金色雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	ほぼ完形
17住-3	下層	坏	古墳	12.2 4.8 -	赤褐色 黒褐色	白、黒色粒子、雲母含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	ほぼ完形
17住-4	ｶﾏﾄﾞ周	高坏	古墳	- 4.8 4.8	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-坏部ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ　脚部ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-坏部ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾐｶﾞｷ　脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部～脚部 2/3
17住-5	ｶﾏﾄﾞ周	高坏	古墳	- - -	にぶい褐色 灰褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-脚部ﾅﾃﾞ　坏部ﾍﾗﾐｶﾞｷ 外-脚部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部～脚部 1/2
17住-6	ｶﾏﾄﾞ周	台付鉢	古墳	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子と金色雲母を含む	内-口縁横ﾅﾃﾞ 外-口縁横ﾅﾃﾞ　胴部ﾅﾃﾞ	ほぼ完形
17住-7	ｶﾏﾄﾞ内	甕	古墳	15 - -	橙色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子と金色雲母を含む	内-口縁横ﾅﾃﾞ　胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-口縁横ﾅﾃﾞ　胴部ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾅﾃﾞ	1/8
17住-8	ｶﾏﾄﾞ内	甕	古墳	- - -	明赤褐色 暗赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-縦ﾊｹﾒ	胴部1/3
17住-9	ｶﾏﾄﾞ周	円筒土器	古墳	- 28 -	赤褐色 赤褐色		内-ﾍﾗﾅﾃﾞ？ 外-輪積痕、指頭痕ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾅﾃﾞ一ﾅﾃﾞ	ほぼ完形

17住-10	ｶﾏﾄﾞ内	須恵蓋	古墳	- - -	灰色 灰色	白、赤、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	体部1/2
17住-11	ｶﾏﾄﾞ周	須恵瓹	古墳	- - -	灰色 灰色	白色粒子を含む	内-指ﾅﾃﾞ 外-ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	体部1/16
17住-12	下層	壷	古墳	11.4 - -	黒褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾊｹﾒ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾅﾃﾞ	口縁部～胴部1/3
17住-13	下層	甕	古墳	- - 8	にぶい褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子を含む	外-ﾊｹﾒ	胴部～底部1/8
18住-1	フク	甕	弥生	12 - -	にぶい褐色 黒褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口唇刻み目　頚部簾状文　胴部斜行短線文	口縁、胴部破片
18住-2	下層	壷	古墳	- - 6	にぶい橙色 にぶい橙色	白色粒子	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾊｹ調整一丁寧なﾍﾗﾅﾃﾞ	胴部～底部2/3
18住-3	フク	甕	弥生	- - -	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾊｹﾒ一ﾅﾃﾞ 外-ﾐｶﾞｷ	口縁部破片
18住-4	下層	甕	弥生	- - -	灰色 灰色	白色粒子を含む	外-波状沈線文	口縁部破片
18住-5	フク	甕	弥生	- - -	灰褐色 灰褐色	白色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-櫛描波状文	胴部破片
18住-6	フク	甕	弥生	- - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白色粒子を含む	内-ﾊｹﾒ 外-櫛描波状文	胴部破片
18住-7	フク	甕	弥生	- - -	灰褐色 にぶい赤褐色	白、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾊｹﾒ 外-櫛描波状文	胴部破片
18住-8	フク	甕	弥生	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	外-頚部櫛描平行線文　胴部斜行短線文	胴部破片
18住-9	フク	甕	弥生	- - -	にぶい褐色胴部赤褐色 にぶい褐色胴部赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-頚部櫛描平行線文　胴部赤彩	頚部～胴部破片
18住-10	フク	甕	弥生	- - -	にぶい橙色 橙色	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-波状文	胴部破片
18住-11	上層	壷	古墳	12.8 - -	黒色 橙色	白・赤色半透明粒子	内-ﾊｹﾒ一丁寧なﾅﾃﾞ 外-口唇横ﾊｹ　頚部縦ﾊｹ 胴部ﾊｹﾒ一縦ﾐｶﾞｷ	口縁部のみ1/8
18住-12	上層	甕	古墳	- - 6	明暗褐色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾊｹﾒ調整一縦ﾐｶﾞｷ	底部1/4
18住-13	上層	壷	弥生	- - -	灰褐色 灰褐色	白・赤色粒子	内-ﾊｹﾒ一ﾅﾃﾞ　指頭痕凹みあり 外-縦ﾊｹﾒ一ﾐｶﾞｷ	胴部片1/6
18住-14	上層	壷	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾊｹﾒ一ﾅﾃﾞ 外-ﾊｹﾒ一ﾐｶﾞｷ	頚部1/2
18住-15	床直	壷	弥生	- - 14.4	橙色 橙色	白、赤色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ?器面は極めて粗い 外-ﾊｹﾒ一ﾅﾃﾞ、指頭痕	底部のみ1/6
19住-1	床直	坏	古墳	12.8 4.8 -	にぶい橙色 橙色	白、黒色粒子を含む	内-底部ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾐｶﾞｷ	ほぼ完形
19住-2	床直	坏	古墳	- - 6	にぶい赤褐色 赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	底部破片
19住-3	ｶﾏﾄﾞ内	甕	古墳	- - 6	暗褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子と金色雲母を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-縦ﾊｹﾒ	1/2
19住-4	床直	甕	古墳	- - 6.2	にぶい橙色 にぶい褐色	白、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾐｶﾞｷ　底部木葉痕	底部1/6

20住-1	フク	坏	古墳	11.8 4.3 -	暗赤褐色 暗赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内外-ﾐｶﾞｷ	口縁部1/8
20住-2	ｶﾏﾄﾞ周	坏	古墳	11.8 3 -	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	外-口縁部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部破片1/6
20住-3	フク	甑	古墳	- 4.8 8.4	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-胴部上部ﾅﾃﾞ　下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ 外-胴部上部ﾍﾗﾅﾃﾞ	胴部1/4
20住-4	フク	壷	弥生	- - 6	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	外-粘土貼付ｰﾅﾃﾞ	口縁部破片
20住-5	フク	甕	弥生	- - 6	暗赤褐色 暗赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	外-櫛描波状文	口縁部破片
20住-6	ｶﾏﾄﾞ周	甕	古墳	20 - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ　胴部横ﾊｹﾒ 外-胴部縦ﾊｹﾒ	口縁部～胴部1/4
22住-1	下層	坏	古墳	13 3.4 -	にぶい橙色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁横ﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/2
22住-2	フク	須恵蓋	古墳	12 4.3 -	黄灰色 黄灰色	白、黒色粒子を含む	内外-ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	1/4
22住-3	床直	須恵長頸壷	古墳	- 23.7 -	黄灰色 褐灰色	白、黒色粒子を含む	内外-ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ほぼ完形
23住-1	ｶﾏﾄﾞ周	坏	古墳	12.4 3.6 -	赤褐色 にぶい褐色	赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞｰﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ体部ﾐｶﾞｷ底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ほぼ完形
23住-2	ｶﾏﾄﾞ周	坏	古墳	12 3.9 -	灰褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ　体部ｱﾊﾞﾀ状の剥落、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	完形
23住-3	床直	坏	古墳	- - 6	にぶい橙色 橙色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ	底部1/8
23住-4	ｶﾏﾄﾞ周	坏	古墳	12.4 4.4 -	にぶい褐色 にぶい橙色	赤色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞｰﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞｰﾐｶﾞｷ　体上部ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ほぼ完形
23住-5	床直	坏	古墳	11.6 4 -	赤褐色(やや褐色に近い) 赤褐色(やや褐色に近い)	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	5/6
23住-6	床直	坏	古墳	16 8.1 -	褐色 褐色	2mm赤色粒子、1mm白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾅﾃﾞｰﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘｰﾅﾃﾞ？	ほぼ完形
23住-7	床直	甕	古墳	24.8 25 -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-口縁ﾅﾃﾞ胴部ﾐｶﾞｷ底部木葉痕	口縁部1/3
23住-8	床直	甕	古墳	20.8 - -	明赤褐色 明赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾊｹﾒ 外-口縁ﾊｹﾒｰﾅﾃﾞ　胴部ﾊｹﾒ	口縁部1/16
23住-9	フク	甕	古墳	16 - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内外-ﾅﾃﾞ	口縁部破片1/16
23住-10	ｶﾏﾄﾞ内	長胴甕	古墳	18.6 - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、透明粒子を含む	内-口縁部横ﾅﾃﾞ　体上部横ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-口縁部横ﾅﾃﾞ　体上部縦ﾅﾃﾞ	7/8
23住-11	床直	小型土器	古墳	- - -	赤褐色 赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-ﾅﾃﾞ　底部木葉痕	ほぼ完形
23住-12	ｶﾏﾄﾞ内	台盤状土製品	古墳	4.6 3 7	明赤褐色 橙色	白、赤、黒色粒子、黒色雲母を含む	内-底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ 外-指頭痕	完形
23住-13	床直	甑	古墳	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾊｹﾒｰﾅﾃﾞ 外-ﾅﾃﾞ	胴部1/8
23住-14	床直	■	古墳	21 6.6 17	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、黒色粒子を含む	内-横ﾅﾃﾞ　口縁部つぶれ、横ﾅﾃﾞ	完形
25住-1	上層	坏	古墳	11.6 4.9 -	灰黄褐色 灰黄褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部2/3

25住-2	上層	坏	古墳	12 5.7 -	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部指ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ　体部上部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ　下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ほぼ完形
25住-3	上層	坏	古墳	12.6 4.1 -	赤色 赤色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部指ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ほぼ完形
25住-4	上層	坏	古墳	13.4 - -	暗赤褐色 暗赤褐色、にぶい橙色	赤色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ？ 外-口縁ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ？　体部ｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ？	口縁部1/4
25住-5	下層	坏	古墳	13.6 - -	にぶい橙色 にぶい橙色	赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ、糸切痕	ほぼ完形
25住-6	上層	坏	古墳	13.2 3.5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/2
25住-7	下層	坏	古墳	12 4.2 -	赤褐色 赤褐色	白、赤色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁～ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ほぼ完形
25住-8	上層	坏	古墳	13 3.6 -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁～体部ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	口縁部1/2
25住-9	上層	坏	古墳	13 - -	暗褐色 黒色	黒色粒子含む	内-ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	口縁部1/3
25住-10	上層	高坏	古墳	14 5 -	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-口縁部指ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ 外-体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	口縁部破片
25住-11	上層	坏	古墳	9.1 3.4 -	灰褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾅﾃﾞ　体部～底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/2
25住-12	上層	甕	古墳	19.4 - -	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾅﾃﾞ　胴部ﾊｹﾒ	口縁部1/6
25住-13	上層	甕	古墳	21.4 8.8 -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁部ﾅﾃﾞ　胴部ﾊｹﾒ	口縁部破片
25住-14	上層	壷	古墳	14.8 9.5 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾊｹﾒ 外-口縁部ﾅﾃﾞ　胴部ﾊｹﾒ	口縁部1/2、胴部1/8
25住-15	フク	甑	古墳	- - 5	黒色 にぶい褐色	白、黒色粒子、雲母含む	内-ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ 外-体部ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　底部ﾐｶﾞｷ	底部破片
25住-16	上層	甕	古墳	- - 7.2	灰黄褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内-横ﾅﾃﾞ 外-口縁部横ﾅﾃﾞ　体部丁寧なﾅﾃﾞ	口縁部破片、底部のみ
25住-17	上層	高坏	古墳	15.4 16.5 16	にぶい橙色 にぶい褐色	白、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-胴部ﾍﾗｹｽﾞﾘ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	口縁部1/2
25住-18	フク	椀	古墳	8.2 - -	黒褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内外-ﾐｶﾞｷ	口縁部破片
25住-19	床直	坏	古墳	- - 4.2	明赤褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	外-頚部～胴上部ﾅﾃﾞ　胴下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	胴部～底部口縁部のみ欠損
25住-20	上層	甕	古墳	16.8 - -	暗褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾊｹﾒ 外-口縁部ﾅﾃﾞ　胴部ﾊｹﾒ	口縁部1/6
25住-21	上層	甕	古墳	23 - -	にぶい赤褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母、を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ　黒曜石含む	口縁部破片
25住-22	上層	壷	弥生	- - -	にぶい褐色 明赤褐色	白、赤、黒色粒子を含む	ﾎﾞﾀﾝ状貼付文　RL·LR羽状縄文	胴部破片
25住-23	フク	壷	弥生	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	ﾎﾞﾀﾝ状貼付文　RL·LR羽状縄文	胴部破片

26住-1	フク	ﾐﾆﾁｭｱ土器	古墳	6 - -	にぶい褐色 にぶい褐色	黒色粒子含む	外-ﾅﾃﾞ	1/3
26住-2	フク	甕	弥生	16.4 - -	赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-櫛描波状文	口縁部破片
26住-3	フク	甕	弥生	- - -	黒色 褐色	赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-横ﾊｹ 外-頚部指頭痕　体部縦ﾊｹ	口縁部破片
26住-4	床直	壷	古墳	9.4 14.4 6	にぶい黄橙色 にぶい橙色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-口唇部ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ 外-口唇部横ﾊｹ　体部縦ﾊｹ一縦横ﾐｶﾞｷ及びﾅﾃﾞ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	完形
27住-1	床直	甕	古墳	17 20.6 6.8	にぶい黄褐色 灰黄褐色	白、赤、黒色粒子、黒色雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ　胴部上部横ﾍﾗﾅﾃﾞ下部縦ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部1/2
27住-2	床直	甑	古墳	- - -	黒褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部のみ
28住-1	床直	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	口縁ｷｻﾞﾐ 内-ﾊｹ調整一ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ 外-ﾅﾃﾞ波状文	口縁部破片
28住-2	床直	壷	弥生	- - -	にぶい褐色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	ﾎﾞﾀﾝ状貼付文、櫛歯状工具による羽状施文	胴部破片
28住-3	床直	椀	古墳	14.4 9.5 5.8	黒褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子、雲母を含む	内外-ﾐｶﾞｷ	口縁部1/4
28住-4	床直	甕	古墳	24 - -	にぶい褐色 にぶい橙色	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ 外-櫛描波状文	口縁部1/8
28住-5	床直	高坏	古墳	22 - -	にぶい褐色 赤褐色	白、黒色粒子を含む	内外-口縁ﾅﾃﾞ体部ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ	1/2
28住-6	下層	土製紡すい車？	弥生				中央に貫通した孔１つ　表-５孔(非貫通)、中央の孔　裏-中央の孔のみ　表側から孔あけを行っている表面ﾍﾗ状工具で僅かにﾅﾃﾞ	
28住-7	下層	甑	古墳	- - 4.4	にぶい橙色 赤褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部1/3
29住-1	フク	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-櫛描波状文	口縁部破片
29住-2	フク	甕	弥生	23.6 7.4 -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁・胴部櫛描波状文、頚部簾状文 口縁部のみ	口縁部のみ 1/2
29住-3	フク	甕	弥生	- - -	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-縦ﾊｹﾒ	口縁部破片
29住-4	フク	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-櫛描波状文	胴部破片
29住-5	フク	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-横ﾊｹﾒ 外-RL縄文	胴部破片
29住-6	フク	甕	古墳	- 11.3 -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-胴部櫛描波状文、ﾅﾃﾞ	胴部のみ
C-3 SD-1-1		椀	古墳	9 8.6 -	にぶい黄褐色 明黄褐色	赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ　体部～底部ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ 外-ｱﾊﾞﾀ状剥落　口縁部ﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	完形
C-3 SD-1-2		坏	古墳	13 3.5 -	褐色 にぶい褐色	白、赤色粒子を含む	内-体部ﾐｶﾞｷ 外-ｱﾊﾞﾀ状剥落　口縁ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ 体部ﾍﾗ一ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/4
C-3 SD-1-3		大型坏	古墳	18 6.8 -	褐色 にぶい黄褐色	白、赤色粒子、金色雲母を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	2/3
E7-SD	下層	壷	古墳	- - -	灰黄褐色 灰黄色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ一ﾅﾃﾞ一ﾐｶﾞｷ	胴部破片

包-1	表採 上層	甕	弥生	14 - -	赤褐色 赤褐色	白、黒色粒子、金色雲母を含む	内-口縁ﾅﾃﾞ ﾐｶﾞｷ 外-孔2つ、簾状文	口縁部破片
包-2	表採 上層	甕	弥生	15.6 - -	黒褐色 黒褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾊｹ調整→ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ 外-口唇部刻み目、櫛描波状文	口縁部破片
包-3	表採 上層	壷	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾎﾞﾀﾝ状貼付文、ｺﾝﾊﾟｽ文	頸部破片
包-4	C-3	甕	弥生	- - -	にぶい黄褐色 にぶい褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲母を含む	内-ﾊｹﾒ 外-口唇部刻み目、ﾊｹﾒｱﾘ、櫛描波状文	口縁部破片
包-5	表採 上層	甕	弥生	- - -	灰褐色 灰褐色	白、赤、黒色粒子、金色雲　母を含む	内-ﾍﾗﾅﾃﾞ 外-櫛描波状文	胴部破片
包-6	F-2	坏	古墳	12.6 - -	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	白、赤色粒子、金色雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	1/6
包-7	F-2	坏	古墳	14.2 3.8 -	赤色 赤色	粗い赤色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾐｶﾞｷ	1/2
包-8	F-2 F-3	坏	古墳	13 4 -	灰褐色～黒褐色 灰褐色～黒褐色	赤色粒子を含む	内-口縁部横ﾅﾃﾞ、見込部ﾐｶﾞｷ 外-体上部ﾐｶﾞｷ　体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部欠損
包-9	F-3	坏	古墳	12.7 3.9 -	橙色 橙色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-横ﾐｶﾞｷ 外-横ﾐｶﾞｷ、体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	4/5
包-10	F-3	坏	古墳	11.9 3.2 -	にぶい橙色 にぶい赤褐色	白、赤、黒色粒子、雲母を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-体部横ﾐｶﾞｷ底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	1/2
包-11	F-3 F-2	坏	古墳	13 - -	にぶい橙色 にぶい橙色	赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-口縁下部ﾅﾃﾞ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/2
包-12	F-3 他	坏	古墳	13.8 - -	黒褐色 黒褐色	砂粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	1/4
包-13	F-3	坏	古墳	13 3 -	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	1/2
包-14	E-3	須恵坏	古墳	12 3.5 -	褐灰色 黄灰色	白色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/4
包-15	E-4 包合 層	坏	古墳	11.2 - -	にぶい褐色 黒褐色	赤色粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	1/4
包-16	B-3	坏	古墳	12 3.5 -	にぶい橙色 にぶい橙色	白、赤色粒子を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ 外-口縁部ﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ　体部ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ　底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾐｶﾞｷ	2/3
包-17	表採	坏	古墳	13 3.9 -	にぶい赤褐色 黒褐色	白、赤色粒子、雲母を含む	内-横ﾐｶﾞｷ 外-横ﾐｶﾞｷ　体下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	3/4
包-18	G-6	坏	古墳	12 4 -	赤褐色 赤褐色	砂粒子を含む	内-ﾐｶﾞｷ 外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	1/5
包-19	B-2	須恵坏	古墳	10 3.3 -	灰白色 黄灰色	白、黒色粒子を含む	ﾛｸﾛ整形 内-横ﾅﾃﾞ 外-指ﾅﾃﾞの持ち上げ痕ｱﾘ	口縁部1/4
包-20	3住 (C-3)	坏	古墳	7.8 - -	褐色 褐色	赤、黒色粒子を含む	内-口縁部ﾅﾃﾞ 外-ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ　内外ともに剥落多い	口縁部破片
包-21	E-7	須恵		- - -	灰色 灰色	白色粒子を含む	外-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
包-22	D-4	ﾐﾆﾁｭｱ 土器	古墳	6 3.1 4	褐色 褐色	白色粒子を含む	内-輪積痕	1/4
包-23	表採	ﾐﾆﾁｭｱ 土器 (高坏)	古墳	4 2.5 3	にぶい赤褐色 褐色	白、赤、黒色粒子、黒雲母を含む	手づくね 外-口縁ﾅﾃﾞ？　脚部ﾍﾗﾅﾃﾞ	2/3

包-24	C-2	ﾐﾆﾁｭｱ土器	古墳	- - 3	にぶい褐色 にぶい褐色	白、黒色粒子を含む	内-赤色付着物	1/4
包-25	D-4	ﾐﾆﾁｭｱ土器	古墳	- - 3.4	褐色 黒褐色	白、黒色粒子を含む	内-ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/2
包-25	F-3	ﾐﾆﾁｭｱ土器	古墳	- - 3.2	明褐色 明褐色	白、赤、黒色粒子を含む	内-ﾅﾃﾞ 外-ﾍﾗﾅﾃﾞ	1/2

出土石器観察表

出土位置	層　位	器　種	重　さ	たて(cm)	よこ(cm)	厚さ(cm)	石　材	備　　考
8住-4	フ　ク	凹　石	4.8kg	17.0	17.0	11.5	安山岩	
10住-7	フ　ク	磨製石斧	(222g)	―	4.5	2.7	蛇紋岩	先端部横方向磨り痕、側縁部に稜を作り出す
11住-10	フ　ク	磨製石鏃	4.7g	4.9	2.2	0.3	蛇紋岩	先端部に稜あり、基部に剥離痕残
14住-13	カマド内	礫製支脚	1.8kg	19.5	7.5	6.5	砂　岩	上部熱を受けず摩滅あり
14住-14	カマド内	礫製支脚	2.5kg	22.5	9.0	14.0	砂　岩	上部平坦、下半部に被熱著しい
15住-9	床　直	凹　石	2.1kg	13.5	12.0	9.5	安山岩	
23住-15	床　直	台　石	12.0kg	41.0	23.0	9.0	安山岩	
23住-16	床　直	台　石	12.0kg	39.0	17.0	10.0	安山岩	
23住-17	床　直	台　石	22.0kg	50.0	27.0	10.0	安山岩	
包-27	D－4	凹　石	2.5kg	19.5	16.0	8.0	安山岩	

25号竪穴住居跡出土編物石状礫観察表

遺物番号	重量(kg)	長さ(cm)	形　状
82	0.92	13.6	棒　状
83	0.58	10.7	棒　状
84	0.92	14.2	棒　状
85	0.80	11.5	棒　状
86	0.57	9.2	円板状
87	0.83	13.8	棒　状
88	0.59	13.4	棒　状
89	1.12	11.0	円板状
90	0.41	9.0	棒　状
91	0.64	13.4	棒　状
92	0.50	10.3	棒　状
93	0.61	12.2	棒　状

遺物番号	重量(kg)	長さ(cm)	形　状
94	1.22	12.8	棒　状
95	0.43	11.8	棒　状
96	0.39	10.6	棒　状
97	0.56	13.8	棒　状
98	0.45	12.0	棒　状
99	0.65	13.2	円板状
100	1.39	12.2	球　状
101	0.84	13.6	棒　状
102	0.66	12.0	棒　状
103	0.72	11.0	棒　状
104	0.58	11.8	棒　状

青銅・鉄製品観察表

出土位置	層　位	種　類	重　量(g)	直　径(cm)	備　　考
1住-19	フ　ク	耳　環	6.0	2.2	金メッキ？　一部剥落あり　青銅製
1住-20	1住周	耳　環	23.2	3.0	金メッキ？　青銅製
B-3　SD-1	フ　ク	腕　輪	7.2	6.7	断面横長長方形で表裏面を平坦に作り出す　青銅製
包-28	重複区	紡錘車	―	―	サビがはげしい　鉄製

ま　と　め

上横屋遺跡は報告したように、弥生時代後期、古墳時代後期及び奈良・平安時代の集落遺跡である。ここでは弥生時代後期と古墳時代後期について特徴と課題を記し、まとめとしたい。

・弥生時代後期

弥生時代後期の遺構としては、13・18・26・27・28・29号竪穴住居跡、F7土坑群の中で土器焼成後穿孔のある壺胴部片(F7SD－1)の出土した土坑がある。いずれの住居跡からも量的には少ないが該期の土器が出土しており、前後関係はあると思われるが同一時期の範疇で捉えられるものである。

遺跡内全体の出土傾向としては、中部高地系では櫛描波状文や簾状文等の施文されたものや、南信地域概期の土器文様の一特徴であると指摘されている櫛描短線文の施文されたものが出土している。東海系ではコンパス文の施文されたもの(18－3)(胎土が在地の土器群とは異なることから搬入品の可能性もある。また、胎土や調整などの特徴からF7SD－１と同一個体の可能性が高い。)や折返し口縁に棒状貼文をもつもの(14－10)などが出土している。東京湾岸系の久ヶ原式的な文様構成を持つもの(16－37)が出土している。該期におけるこのような各地域の要素を持つ土器の混在化はすでに指摘されてきているが、上横屋遺跡でも同様な傾向であることを確認し得た。しかし、何を背景にしてこのような他地域の系統のものが当地域の土器群の一部として存在するのかの解明は今後の課題である。

・古墳時代後期

上横屋遺跡の中心となる古墳時代後期後葉といえば、この時期の集落は、韮崎をはじめ北巨摩郡の中でもその確認例は韮崎市堂ノ前遺跡や須玉町腰巻遺跡など極めて少ない。このような中で、1・6・9・8・11・14・15・16・17・19・20・22・23・25号竪穴住居跡及びおそらく該期のものと考えられる掘立柱建物跡３棟を確認したことは当地域の古墳時代後期の様相を知る上で有効な資料をもたらしたといえる。また、これまでの発掘調査の中で得ることのできなかった該期の情報が多数得ることができた。それらの情報を各個別にまとめておきたい。

＊立地について

本遺跡の立地する藤井平では該期の遺跡立地に特徴が見られる。前後する時期には藤井平のなかでも偏った分布は見られないが、この時期は、上横屋遺跡周辺にしか遺跡が発見されていない。南北に長い藤井平ではあるが該期の遺跡はここだけである。第１・2図に見られるように、上横屋遺跡を東限に坂井堂ノ前・後田堂ノ前・後田第2遺跡において住居跡が発見されている。上横屋遺跡とこれらの遺跡との間には沢が南北に流れている。従来こうした立地での集落は河川流域単位で縦に区分けされる場合が多かった。しかし、この地域でのあり方は河川を超えた集落の存在を示しうるものかもしれない。またその西限に、火雨塚古墳が存在している。そして、火雨塚古墳以西に住居跡を持つ遺跡が発見されていないことから、推測ではあるが該期の生活空間内での、古墳(墓域)と住居跡(居住域)の分化が見いだせそうである。ここではその可能性の提示にとどめ、今後の資料増加を待ちたい。

＊カマド構造の個性について

上横屋遺跡では古墳時代後期のカマドを10基調査した。古墳時代後期といえば全国的にカマドが普及する段階でありその普及の在り方にも様々な見解が論じられている。今回の調査でカマドの構造に多様性が認められたことから、その多様性について紹介し、課題を述べておきたい。

１号竪穴住居(第4図)：カマドは竪穴東壁中央やや北寄りに位置し、袖石は３つが残っていた。粘土層が明瞭に残り、断面からは掛け口と思われる部分が見うけられる。煙道は約1mあり、本遺跡内で最も長い。遺物は小型の台付甕、甕が出土している。

８号竪穴住居(第9図)：カマドは竪穴北壁に位置する。袖石は2つ残っている。掘り込みは見られず、燃焼面には硬化した張り床が焼けた状態で検出された。これは、著しい硬化が見られるまで床面として使用されていた場所に、掘り込みを作らずに、カマドを作り変えている可能性があるかもしれない。

11号竪穴住居(第11図)：カマドは竪穴東壁やや南寄りに位置する。袖石は、機能時の原位置をとどめず、３つ残っている。住居を造るときにまず周溝を堀り、その後、周溝にまでかからない程度の深さの掘り込みを作っている。周溝を切らずにカマドが作られている例である。カマド自体の残りは悪く、カマドの廃棄行為が行なわれていたかもしれない。カマド内から遺物は出土しなかった。

なおこの住居跡では、炭化材の下(床直)に完形遺物の出土が見られる。それとは対照的にカマド内から完形土器は出土しなかった。

本住居における状況はカマドが壊れていることからも失火による焼失とは考えにくい。むしろ、カマドの廃棄行為の後、住居内に土師器を遺棄し、住居を焼失させたかのように見える。本遺跡内からは、このような出土状況を示す焼失住居跡は他にない。11号竪穴住居は、住居の廃絶行為の場が、カマドにとどまらず住居全体であった可能性があるといえよう。なお、この住居跡では覆土中から蛇紋岩製の磨製石鏃が出土している。

14号竪穴住居(第17図)：カマドは竪穴東壁中央に位置し、掛口を明瞭に確認できるなど極めて良好な遺存状態であった。

カマドの掘り方を掘削後に、袖石を2組以上用い、竪穴壁と煙道との交わる部分に大型の礫を配し天井石とし、周りを粘土質の土などによりカマドを構築している。なお、袖石を立てるための掘り込みは認められず、袖石となる礫を

簡単に据えて構築している。

燃焼面は炊出口から約50cmのところにあり、礫製支脚が２点倒れた状態で出土した。煙道は竪穴壁から約80cmあり、本遺跡の中でも長い部類に入る。

本カマドは、上横屋遺跡内においてカマド機能時の状態を知り得る数少ない一つである。

16号竪穴住居（第18図）：カマドは竪穴北壁中央に位置し、袖石や天井石は崩壊した状況であった。

長胴甕２個体、球胴甕２個体が出土するなど遺物は多く出土している。カマドの構造自体はほとんど復元できないが、カマド内に直径15～20cmの礫が出土しており、これらが構築材として用いられていた可能性がある。燃焼面には図示したように小礫を敷き詰めその上面を燃焼面としたことを確認している。

17号竪穴住居（第16図）：カマドは竪穴南壁中央に位置し、構築粘土の流出や袖石・天井石の崩落した状況であった。

円筒型土器（17－9）や台坏鉢（17－6）などがカマド内から出土したほか、カマド周辺からの遺物の出土も多かった。袖石は１組であり竪穴壁の立上がりとほぼ同位置にある。このことから掛け口は竪穴外に存在していたことは疑いようもない。このことは、住居空間と竪穴空間が必ずしも一致するわけではなく、竪穴外にも住居空間が存在していたことを示しているといえる。竪穴外に住居空間が存在することを確認した例としては、長坂町石原田北遺跡、埼玉県樋ノ下遺跡などを挙げることができ最近そのような報告が相次いでいる。本住居もこのような一例として挙げることができよう。

20号竪穴住居跡（第25図）：カマドは竪穴東壁中央に位置し、天井部は崩壊した状態であった。袖石は2組以上である。カマド内からは長胴甕の胴部片以外の遺物は出土しなかった。　袖石を設置後に構築土（粘土）で固める際に袖石上に直径５～10cm程度の礫を構築材として使用していた。補強材として用いたのか、カマド構築に関わる補強意外の意味（例えば、カマド構築時の儀礼・祭祀的な行為の結果）を持つものかは不明である。このような例は本遺跡ではこの１例のみである。また、周辺にある同時期の遺跡においても確認されておらず特異な構築方法である。

23号竪穴住居跡（第26図）：カマドは竪穴北壁中央に位置し、天井部は崩壊した状態であった。カマド内から台盤状土製品等が、カマド周辺から坏が出土した。天井石は確認できなかったが、袖石が２組以上あり、その周りを土（粘土）で固めたものである。構築方法は14、15号竪穴住居のカマドに類似し、本遺跡内で一番多い在り方である。

以上のように本遺跡のカマドの多くは崩壊（カマド廃棄行為の可能性が高い）しているものが多いものの、その構築方法は各竪穴住居で多様であることが理解できよう。このような様々なカマド構築方法が本遺跡以外でどのような広がりを持つのか今後検討していく必要があるとともに、規格化されていると考えられがちな該期のカマド構造を含めた住居構造について検討していくことが今後必要であろう。

＊礫の出土状況について

古墳時代後期の竪穴住居跡の報告例をひもとくと、遺物出土状況図に礫がまとまって図示されているものが意外と多い。これらの礫は床面に接する状態のものや覆土上部から出土しているものなど様々であるが、ここで注目しておきたいのは、床面に接する状態でまとまりを持つものと覆土中に敷き詰めた状態のものである。本遺跡では前者の例としては22・23号竪穴住居跡を、後者の例としては16号竪穴住居跡を挙げることができる。

まず22号竪穴住居跡であるが、第27図に図示したように竪穴内北西隅から中央にかけて床面から覆土上部にかけて礫がまとまって検出できた。覆土の観察からこれらの礫のうち少なくとも床面に接するかもしくは若干浮いた状態で出土したものは流れ込んだものではないものと判断した。この礫内から須恵器の長頸壷（22－3）が圧壊していたもののほぼ完形の状態で出土した。このような長頸壺は集落内から出土することはなく、ましてや竪穴住居内からの出土例は皆無に等しく、本来は古墳の副葬品として用いられることが多い。

23号竪穴住居跡では、南西角とカマド西側（左側）に床面に接する状態で礫のまとまりが認められた。その他にも床面に接して、台石や坏などが出土している。このようなことは、台石や坏などの遺物が発掘時の状況になったと同じくして、礫のまとまりが人為的に竪穴内に形成されたと考えるべきであろう。

22、23号竪穴住居跡で見られたような礫のまとまりを、単なる流入なのか、住居の付帯施設や住居廃絶に伴う行為（たとえばカマド破壊に伴う行為といった指摘）なのかの判断は、調査時における視点の持ち方で異なるとは思うが、それであればなおさら、資料を記録として残すことが肝要であろう。

＊ 古墳時代後期竪穴住居廃絶後のくぼ地利用の一例

縄文時代の竪穴住居廃絶後のくぼ地利用についての報告や研究は枚挙に暇がないが、弥生時代以降となるとそのような視点は少ないように感じるのは気のせいだろうか。古くは山内清男が「凹地に廃物を捨てることは古今を通じて同じであるらしい。弥生・古墳時代の竪穴にも同様の事実が認められる。」と指摘したように、縄文時代と同じように弥生時代以降にもくぼ地利用が行なわれていたことは疑いようもないであろう。その一例を紹介しておきたい。

16号竪穴住居跡は、遺跡内でも極めて特異な状況であった。覆土の堆積状況を中心に住居廃絶段階から順を追って説明を加えておく。床面直上に堆積する層は、炭化物や焼土粒子を多量に含む黒褐色で形成され、材の形状をとどめているものも散見された。以上のことからこの層は、住居廃絶に伴う焼却に起因するものと考えられる。第４・５層の上面には第二礫面とした大型の礫を南北約２ｍ・東西約２

mのやや不整な長方形に配してあった。その上には一層はさんで第一礫面とした第二礫面と同じく大型の礫を配してあったが、礫面の広さは南北約４m・東西約６mであり、第二礫面よりも大きく、外周に小礫を用いている点に違いがある。いずれの礫面も縄文時代の敷石住居のような平坦な面を形成しているわけではないが、明らかに人為的に礫を配しているとしか考えられない状況であった。第一礫面と第二礫面にはさまれた２a層は極めてしまり、粘性の強い黒褐色土で、炭化物や骨片を含んでいた。

以上のように本住居跡は、住居廃絶後にその竪穴を利用して、礫を敷き、炭化物や骨片を生成するような行為を行なっていたことを把握できた。骨片が人骨であるかどうかは不明で、その行為自体の追求までは及ばなかったが、その存在等から葬送儀礼的な行為を彷彿とさせる。また、該期の研究では、住居跡の出土遺物を一括同時存在と考える傾向があるように思えるが、くぼ地利用の存在等を考えると、遺物の出土位置（平面・垂直）を把握すべきという研究者の指摘も的をえたものであろう。本住居跡の出土遺物も型式学的に分別は不可能であるが、層位的には明らかな違いがあることを考慮すべきである。

＊銅製耳環について

韮崎市では耳環の出土は初めてである。韮崎市のみならず山梨県内においても春日井町梅沢入古墳、御坂町国分築地古墳群、八代町御崎古墳などから出土しているが、全体的には出土例は少なく、極めて貴重な資料といえる。上横屋遺跡からは古墳時代後期の１号竪穴住居跡の覆土およびその周辺から２点出土した。

1－19は直径2.2cm、断面径5mmで小型細環であり、1－20は直径3.0cm、断面径7.5mmで大型太環である。いずれも銅芯耳環である。全国的に大型太環の増加を6世紀中葉以降に認められることや１号竪穴住居の時期を考慮すると、２点の耳環が６世紀後半から７世紀初頭の所産であることを指摘できよう。

耳環の多くは古墳から出土しており、上横屋遺跡のように墓域以外から出土することは少ないようである。このことは山梨県内においても違いはない。しかし、例えば、須玉町腰巻北遺跡や東京都あきる野市代継・富士見台遺跡などでは、本遺跡と同様に住居跡内から耳環が出土している。

上横屋遺跡では、住居の覆土上層とその周辺からと、２点出土している。この住居跡に近接する土坑からは、銅製腕輪が出土しており、いずれも銅製品の単なる流れ込みとしては扱えない状況である。このような出土例を前に、耳環が古墳から出土する副葬品であるという単一的な認識を再考する必要性を感じる。耳環には、古墳被葬者レベルでの副葬品としての意味とは別に、集落内での権威者レベルでの威信材あるいは集落全体の社会的財産としての意味などといった、多様な性格がありうるということが、住居跡からの出土例で読み取れるのではなかろうか。今後は、古墳以外からの耳環の出土例を、単に特例や流れ込みとするのではなく、あるがままの多様な形で分析の俎上に載せていく必要があろう。

＊土壌サンプルについて

調査中に出土したほぼ完形の遺物内に含まれていた土壌を中心に採取した。採取したものは、乾燥させた後に水洗選別により人工・自然遺物の採取を試みた。以下にサンプル毎に採取結果を簡単に触れておく。

・１号竪穴住居跡　竪穴中央の上層および下層から採取した。水洗選別した結果、上層からは、若干の土器片を含む他は小砂利のみであり、炭化物は採取できなかった。下層からは、桃の種子と思われる炭化物を確認した。

・22住－３　この須恵器は出土状況からゴミとして竪穴内に廃棄されたというよりも、何らかの意味を持って置かれたと考えられ、器内に何らかの物を入れてあったのではないかと考え水洗選別したわけであるが結果的には、同個体の破片および小砂利のみであった。裏を返せば、竪穴内に持ち込まれたときには、器内を十分に満たすほどの固形物は存在しておらず、器内は空であったか、液体のようなものが入っていた可能性が高いといえるのではないか。

・25住－19　この土師器は口縁部を欠いていたが、床面に接する状態で出土したものである。水洗選別の結果、直径３mm程度で断面形態が円形や方形の炭化物とともに籾状の炭化物が若干確認できた。

以上のように、今回行った水洗選別により完形または完形に近い遺物内に炭化物等の内容物を把握できるものは皆無であった。このことは、遺物廃棄（広義の廃棄）時に遺物内には多くの場合内容物は存在していなかったか、または遺存しない内容物であったことを示しているのではないだろうか。

発掘調査の目的は、破壊されてしまう遺跡の単なる記録保存にとどまらず、出土した遺構・遺物といった資料を史料化することである。それには発掘調査時に遺構・遺物がどのような状況で確認されたかを目的意識をもって調査していく必要がある。

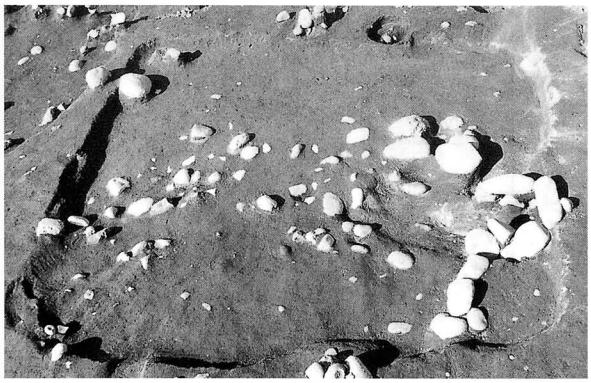
本報告書は非常に限られた時間の中で、発掘調査の中で記録した情報の資料化を試み、それらを掲載・提示したに過ぎない。今後、上横屋遺跡の資料の史料化や活用がなされれば幸いだと思うとともに、私達調査担当者もそのようなことの実現に向けて日々努力していく所存である。

写　真　図　版

上横屋遺跡遠景

図版 1

1号竪穴住居跡（南より）

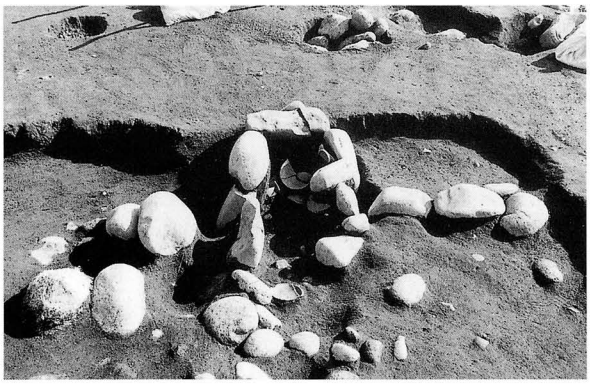


5号竪穴住居跡（南より）

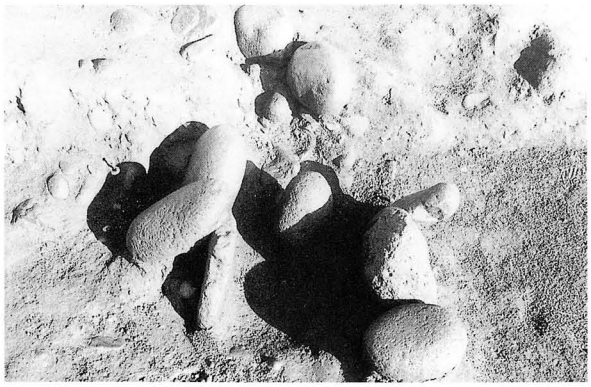
5号竪穴住居跡完掘状況（南より）

10号竪穴住居跡（北より）

1号竪穴住居跡カマド



5号竪穴住居跡カマド



10号竪穴住居跡カマド

10号竪穴住居跡（南より）

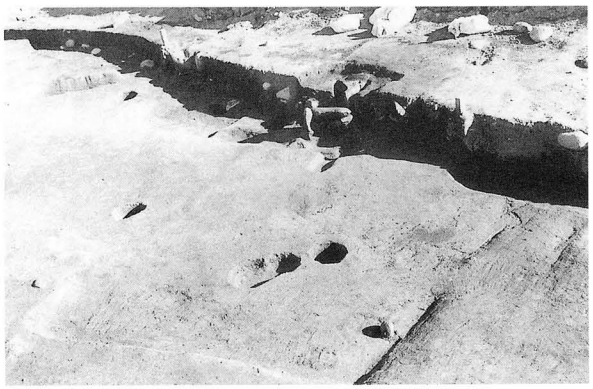
10号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況

11号竪穴住居跡遺物出土状況（西より）

11号竪穴住居跡遺物出土状況アップ①

11号竪穴住居跡遺物出土状況アップ②

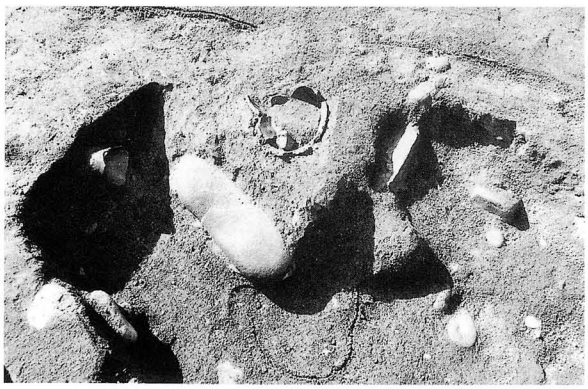
調　査　風　景



15号竪穴住居跡（南西より）

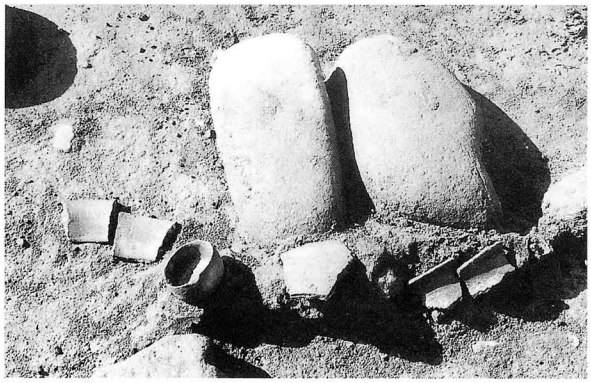
15号竪穴住居跡カマド

19号竪穴住居跡（東より）



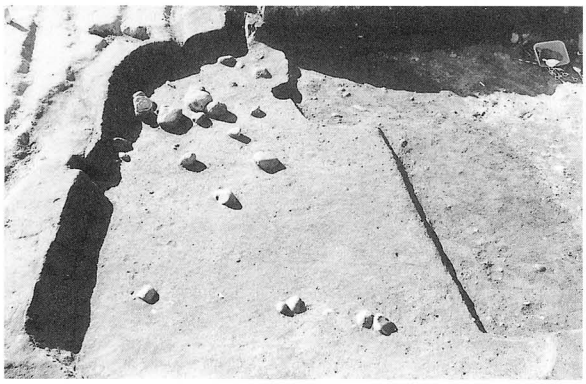
19号竪穴住居跡カマド確認状況

20･23号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）



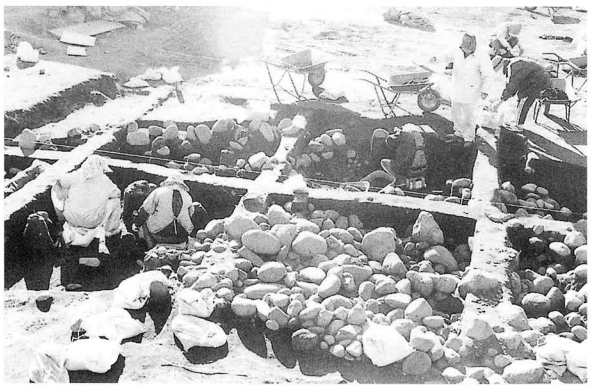
23号竪穴住居跡遺物出土状況（アップ）

23号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況

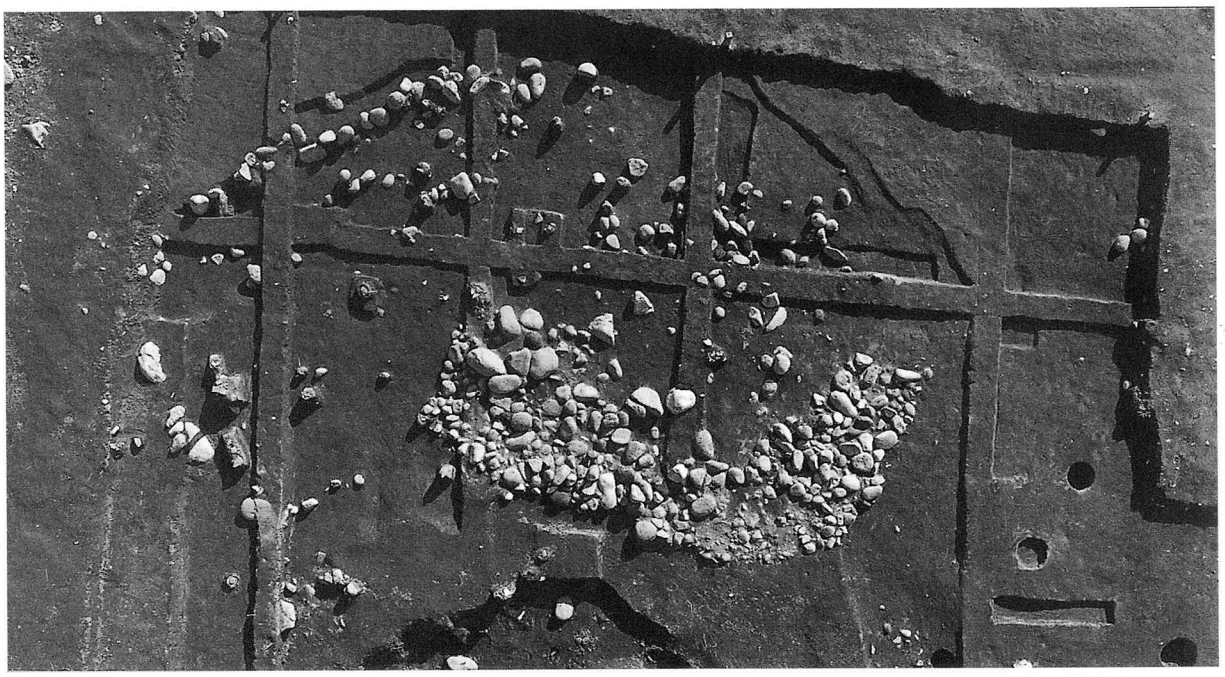


26号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）

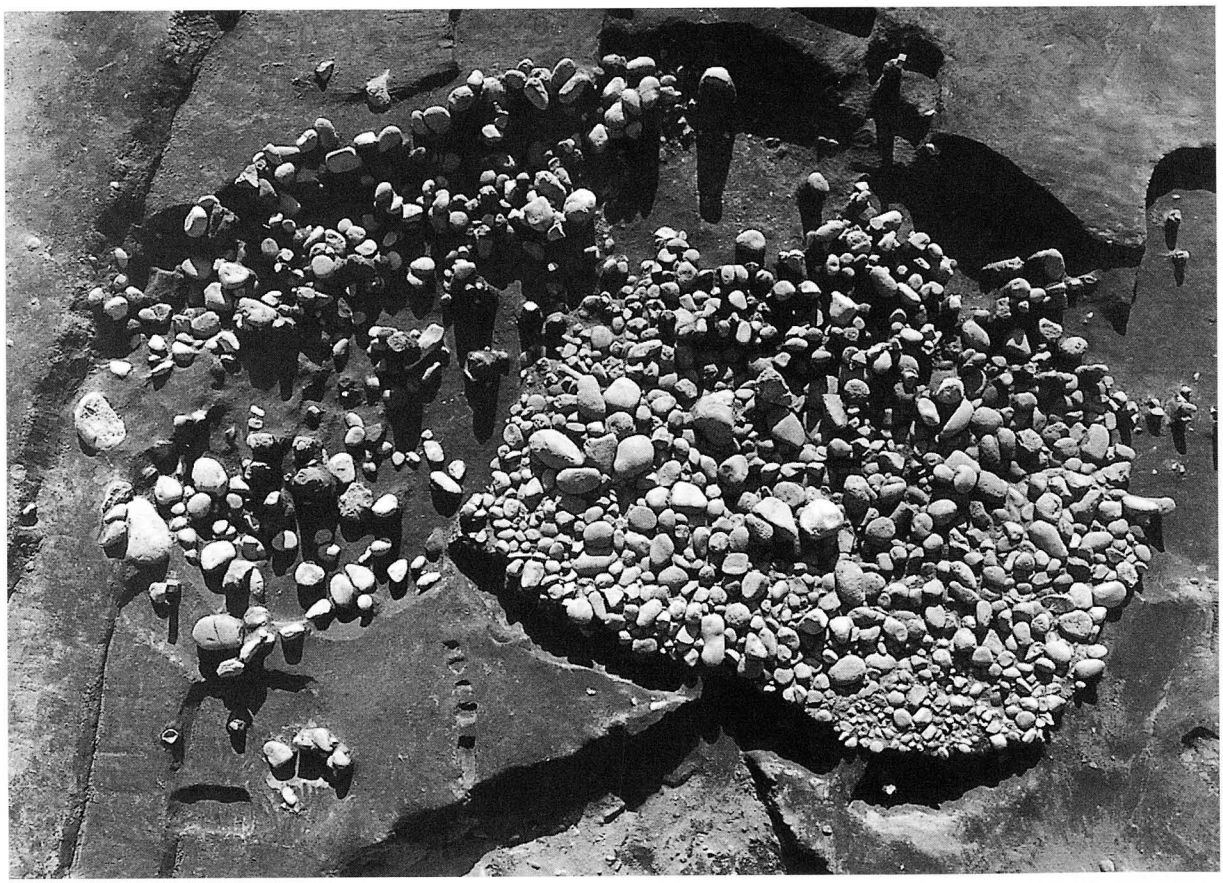
26号竪穴住居跡遺物出土状況アップ（南より）



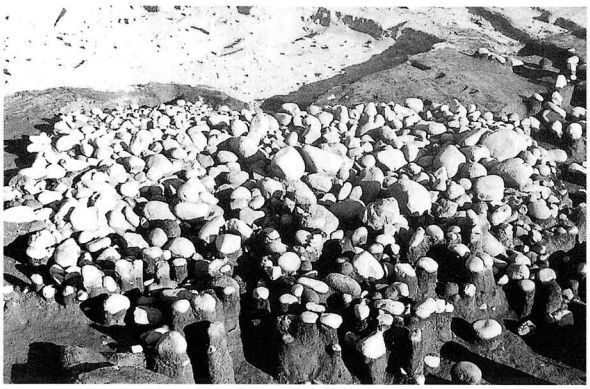
調　査　風　景



14・16号竪穴住居跡確認状況（上空北より）



14・16号竪穴住居跡礫出土状況（上空北より）



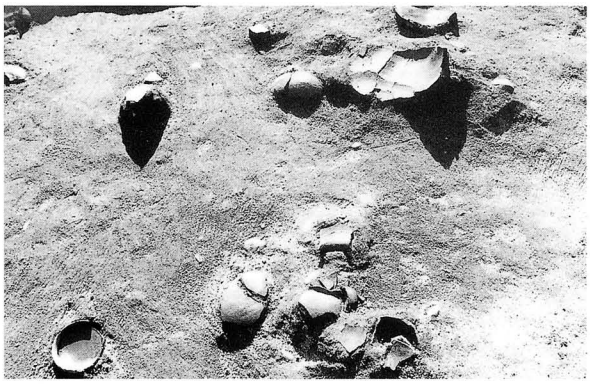
16号竪穴住居跡第1礫面（南より）

16号竪穴住居跡第2礫面（南より）

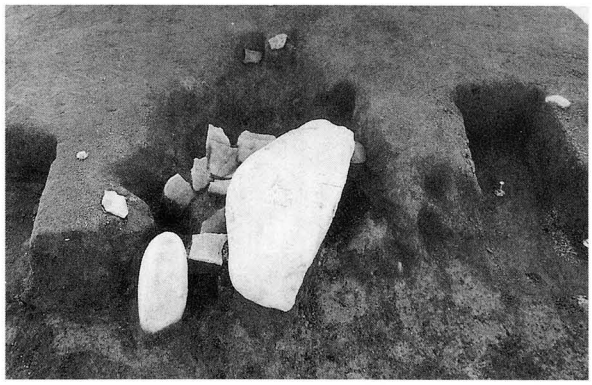
16号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況

17号竪穴住居跡遺物出土状況（南より）

17号竪穴住居跡完掘状況（南より）



17号竪穴住居跡遺物集中区



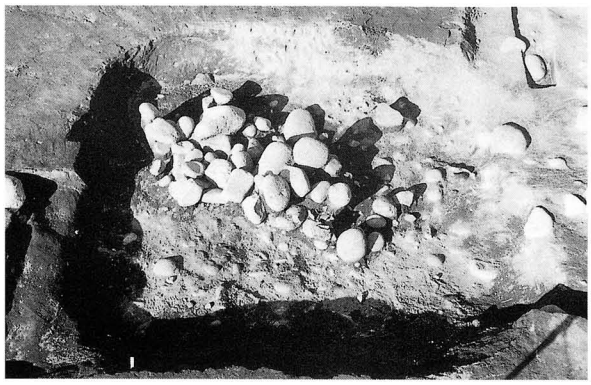
17号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況①

17号竪穴住居跡カマド内遺物出土状況②

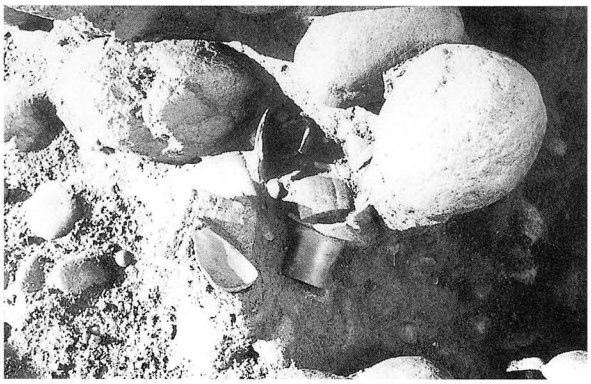
14号竪穴住居跡（西より）

14号竪穴住居跡カマド

18号竪穴住居跡遺物出土状況（東より）



22号竪穴住居跡遺物出土状況（南より）

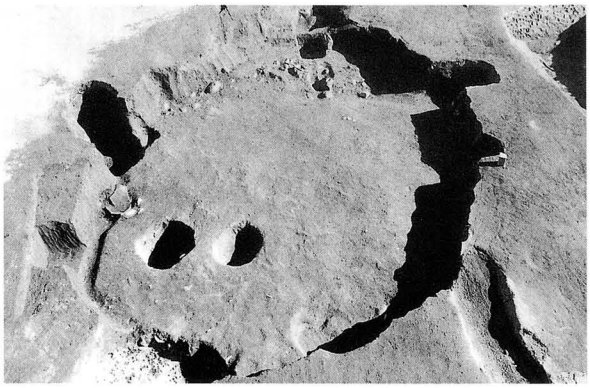


22号竪穴住居跡遺物出土状況アップ

25号竪穴住居跡（北より）

25号竪穴住居跡上層遺物出土状況（北より）

25号竪穴住居跡編物石出土状況（北西より）

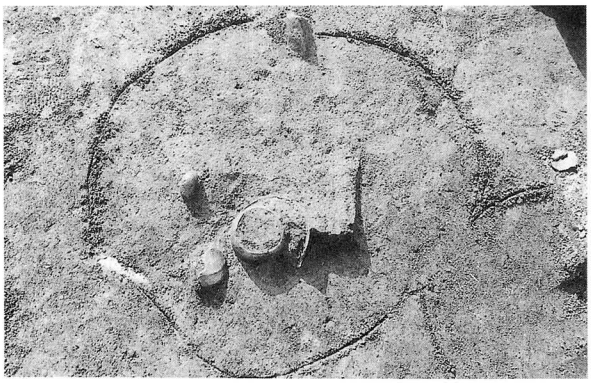


27号竪穴住居跡完掘状況（西より）

28号竪穴住居跡遺物出土状況（南より）

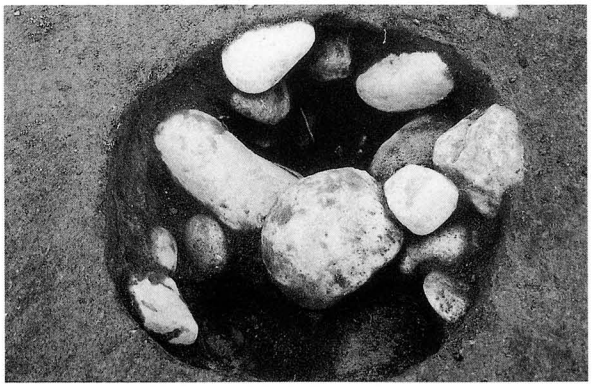
1号掘立柱建物跡（南より）

2号掘立柱建物跡（東より）



C3-1号土坑遺物出土状況（南より）

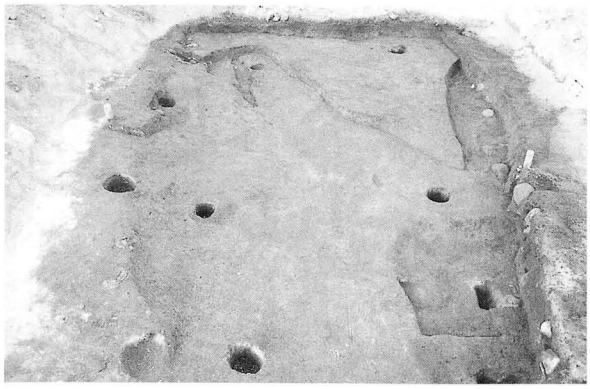
C3-1号土坑遺物出土状況（北より）



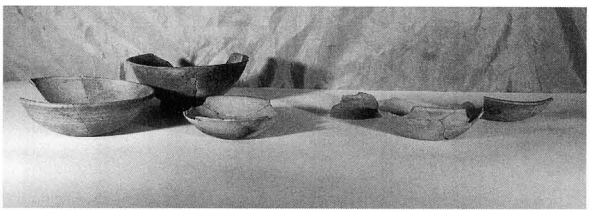
B3-1号土坑遺物出土状況（北より）

B3-1号土坑青銅製腕輪出土状況

畝状遺構（南より）



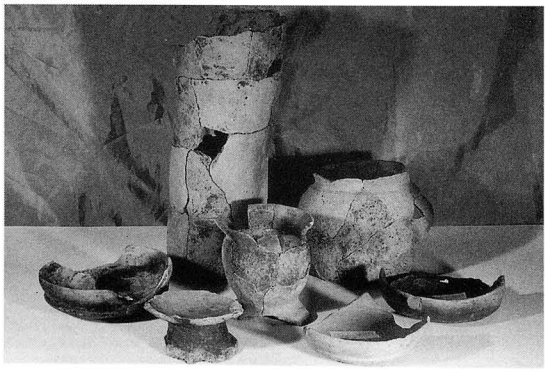
溝状遺構（南より）



5号住出土遺物　　7号住出土遺物

11号住出土遺物

10号住出土遺物



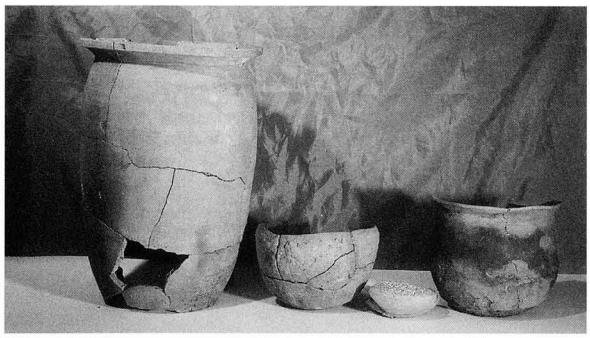
17号住出土遺物

25号住出土遺物

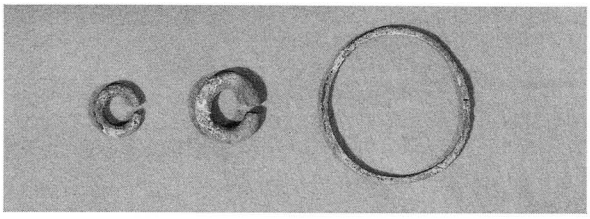
12号住出土遺物　　22号住出土遺物

16号住出土遺物

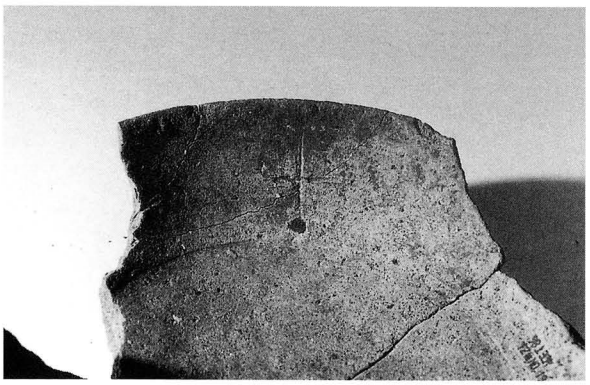
23号住出土遺物



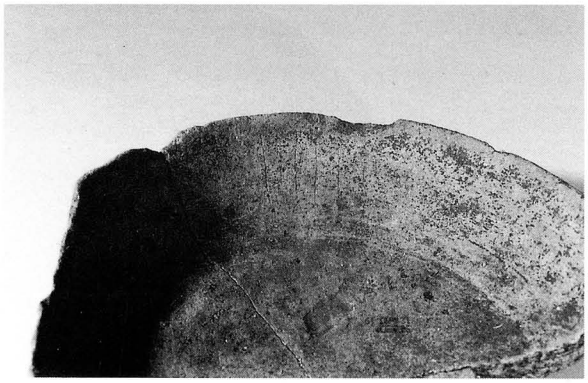
10号住出土遺物



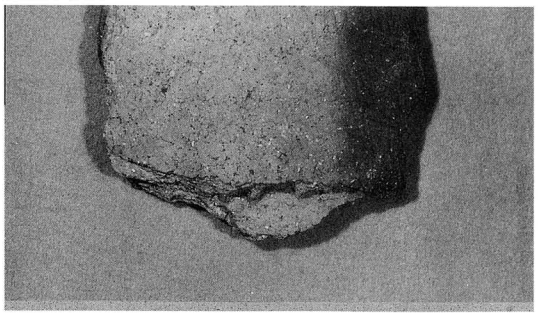
耳　環　　青銅製腕輪



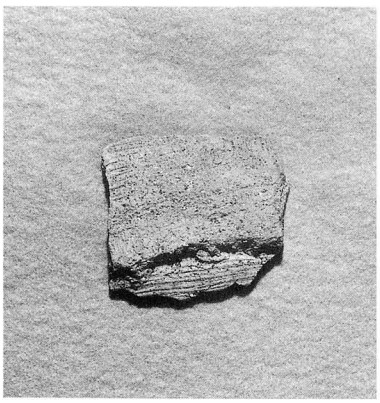
12号住出土坏の内面①
（十文字の線刻を焼成後に施文）



12号住出土坏の内面②
（格子目文状の線刻を焼成後に施文）



14号住出土長胴甕胴部片の接合痕
（接合面に凸状の粘土隆起が見られることから、他方の接合面には刻み目を施していた可能性がある）



16号住出土長胴甕胴部片の接合痕
（接合面にもハケメ調整が見られる。調整痕なのか、遊離しないための方法なのかは、不明である）

編集後記

現場をたたむころには、今年何度目かの雪が降り、八ヶ岳からの風が冷たく吹きつけていました。限られた時間の中での作業は、これだけの豊かな情報を持ちえた遺跡を存分に表現するにはきわめて厳しいものでしたが、この報告が多くの方々のお目にとまり、今後多くの方々に遺物を実見し、ご活用いただければ、このうえない喜びです。

多くの人々の御協力をいただき、ここに上横屋遺跡の報告ができあがりました。ご助言・御協力いただいた多くの方々に、感謝申し上げます。

上横屋遺跡

―― 店舗建設にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

発行日　平成11(1999)年3月31日

発　行　韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神1－3－1
TEL 0551-22-1111（内250）

印　刷　有限会社タクト/印刷・デザイン